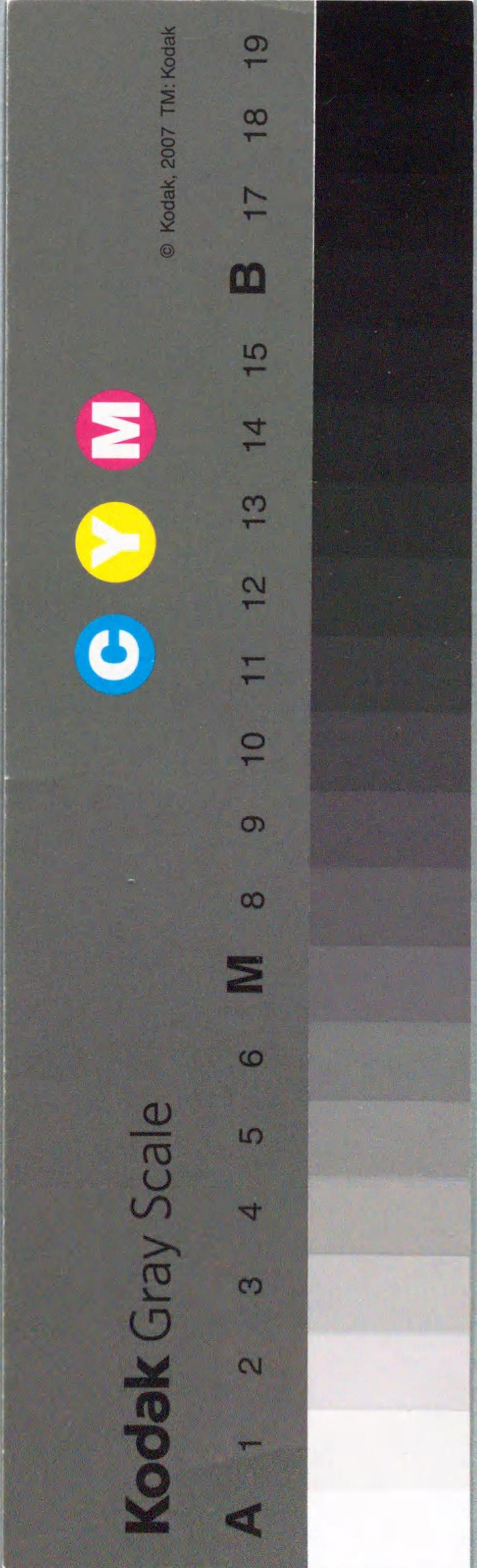
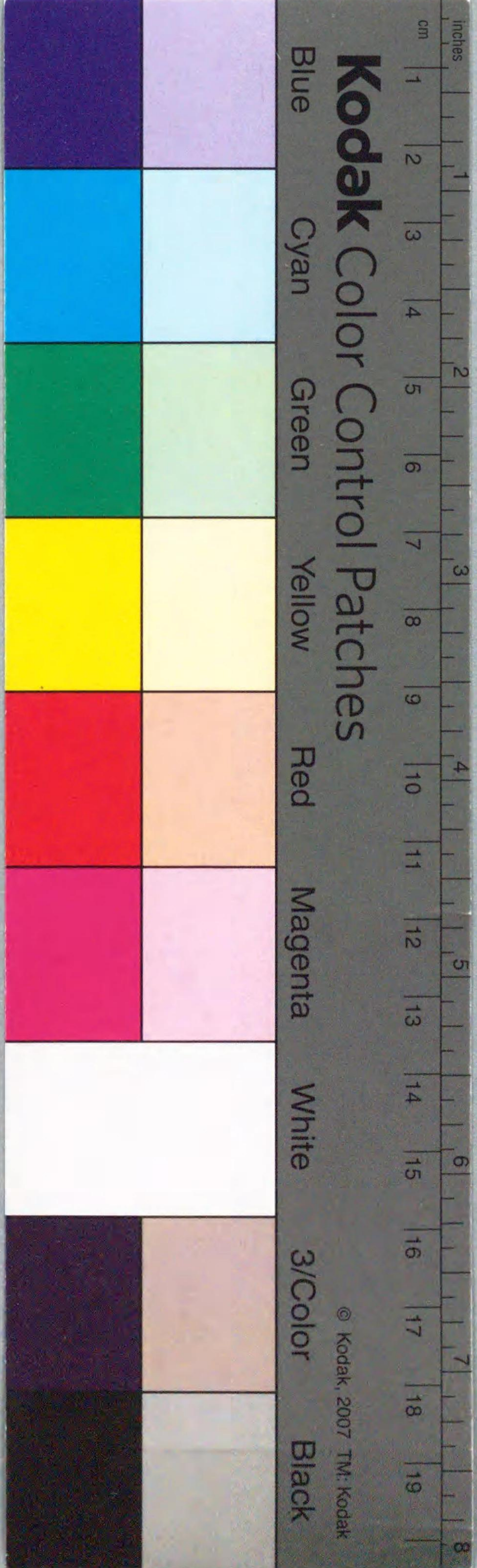


國法學博士論全



三才圖會





國法学目次

緒論

第一章

國家ノ觀念

第一節

國家ハ一ノ事實ナリ

第二節

國家ハ法人ナリ

第三節

國家ハ人ノ集合体ナリ

第四節

國家ハ機關ヲ具備セルモノノ集合体ナリ

第五節

國家ハ統治權ノ主体ナリ

第六節

國家ノ統治權ハ一定ノ領土ノ上ニ行ハル

第七節

國家ノ統治權ハ必スシモ最高権力ヲ

ルヲ要セス

第八節

國家ノ定義

第二章

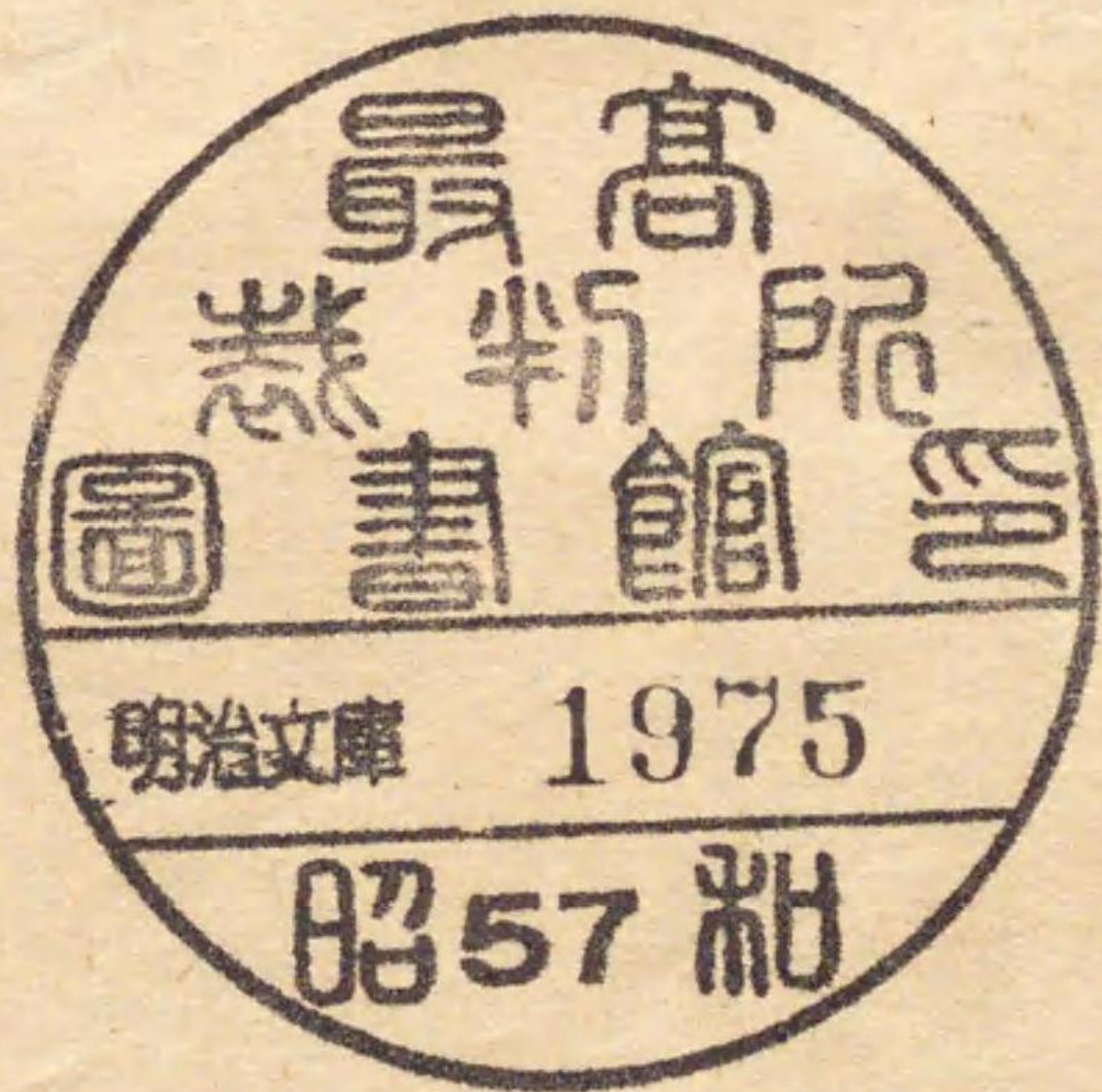
國法学

第一節

國家學ノ分科トシテ國法学ノ位置ヲ

一四四八八七七五二一

明治



東京大学図書
昭和五十七年
五月



國法学目次

緒論

第一章

國家ノ觀念

第一節

國家ハ一人ノ事實ナリ

第二節

國家ハ法人ナリ

第三節

國家ハ人ノ集合体ナリ

第四節

國家ハ機關ヲ具備セルモノノ集合体ナリ

第五節

國家ハ統治權ノ主体ナリ

第六節

國家ノ統治權ハ一定ノ領土ノ上ニ行ハル

第七節

國家ノ統治權ハ必スシモ最高権力ヲ

ルヲ要セス

第八節

國家ノ定義

第二章

國法学

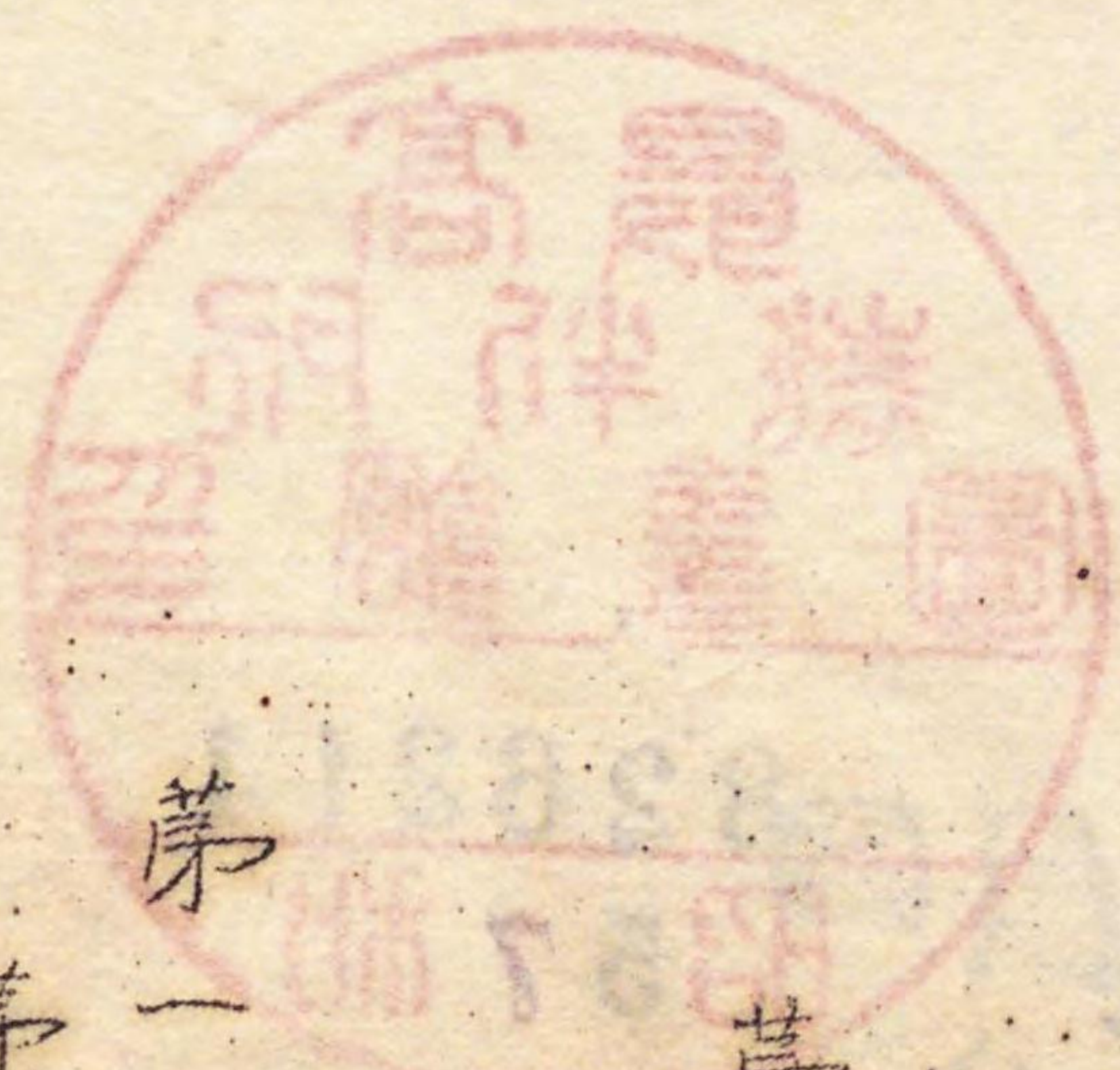
第一節

國家學ノ分科トシテ國法学ノ位置ヲ

一四四八八七七五二一

五月二日 昭五七年





論

第二節 法学ノ部トシテ国法学位置ヲ論ス

第三節 普通国法及特別国法

第三章 国法ノ法源

第一節 成文法

第二節 不文法即チ慣習法

第一編 總論

第一章 統治權及其性質

第一節 統治權ノ作用ハ命令及強制ニ止ラス

第二節 統治權ハ分割スヘカラス

第三節 最高權ヲ論ス

第四節 統治權ノ總攬者及國家ノ元首ノヲ論ス

第五節 政体ノ種類ヲ論ス

第六節 國家ノ結合

一六

一八

一九

一九

二二

二九

二九

二九

三〇

三二

三四

三五

三九

第七節 統治權ノ實際

第二編 國家ノ組織

第一章 領土

第一節 領土ノ性質ヲ論ス

第二節 領土ノ区域及其変更ヲ論ス

第二章 臣民

第一節 臣民ノ限ノ性質ヲ論ス

第二節 臣民ノ限ノ取得及喪失ヲ論ス

第三節 臣民ノ權利義務

第三章 國家ノ機關

第三編 國家ノ機關ノ組織

第一章 君主ノ事ヲ論ス

第一節 君主ノ国法上ノ地位ヲ論ス

第二節 君主ノ大權ヲ論ス

四二

四四

四四

四四

四六

四八

四八

五〇

五三

五三

五五

五八

五八

六一

第三節 君主ノ地位ニ対スル權ヲ論ス

第四節 君位ノ喪失

第五節 君主ノ地位ニ隨伴スル權

第二章 攝政

第一節 攝政ノ國法上ノ地位

第二節 攝政ノ地位ニ隨伴スル權

第三節 攝政ノ權限及順序

第四節 攝政ニ任スル資格及順序

第五節 攝政ノ解除

第三章 監國

第四章 國務大臣

第五章 議會

第一節 議會ノ性質

第二節 議會ノ組織

第三節 上院ノ組織

第四節 下院ノ組織

第五節 議院ノ國法上ノ地位

第六節 議會開會ニ関スル法律上ノ要件

第七節 議會ノ權限

第四編 國家ノ機能

第一章 立法

第一節 法律ノ觀念

第二節 法律ノ發案

第三節 法律案ノ議決

第四節 法律ノ裁可

第五節 法律ノ公布及施行

第六節 法律ノ廢止

第二章 命令

六三

六九

七〇

七二

七二

七三

七四

七六

七八

八〇

八二

九〇

九〇

九一

九三

九七

一〇八

一一一

一一七

一二三

一二三

一二三

一二六

一二八

一二九

一三一

一三二

一三三

第一節	緊急命令	一三三
第二節	執行命令及行政命令	一三八
第三節	委任命令	一四一
第三章	豫算	一四二
第一節	豫算ノ國法上ノ性質	一四二
第二節	豫算ノ決定權	一四三
第三節	豫算ノ効力	一四六
第四節	豫算ノ不成立ノ効果	一四七
第四章	國際條約	一四九
第五章	司法權	一五六

目次終

國法学

緒論

第一章 國家ノ觀念

第一節 國家ハ一ノ事實ナリ

法アリテ而シテ後國家アルニテラス法ハ國家アリテ後生スルモノナリ故ニ國家ノ起源ハ法律上ノ觀念ヲ以テ論シ得ヘキモノニアラス

國法学ハ法ヲ論スルノ學問ナリ法ノ範圍外ニ屬スル現象ハ斯學ノ説明スヘキモノニアラス國法学ヲ論スルモノハ先ツ國家ノ成立セルコトヲ以テ一ノ事實ト認メサルヘカラス法ノ成立スル前ニ國家ハ事實トシテ既ニ或組織ヲ保ツナリ事實トシテ國家ハ人民ニ對シテ已ニ權カヲ有シ人民ハ國家ニ服役スルナリ此國家ト人民トノ關係ハ純然タル事實上ノ關係ニシテ法律上ノ關係ニアラス國家ノ人民ニ對スル權カハ實力ニシテ權利ニアラザリナリ

此事實ハ如何ニシテ生シタルヤ如クナル有様ニ變遷シタルヤハ社会学ニ於テ之ヲ論スヘキモノニシテ國法学ニ於テ論スヘキモノニアラス

此ニ説ク推究スルニ君主ハ自然ナリ故ニ初メヨリ人格ヲ有ス人ノ集合体ハ自然
人ニアラサルカ故ニ法ニ依ラズンバ人格ヲ得スコ能ハストノ意ナリ然レトモ之レ又スレモ
必要欠クヘカラサルノ事實ニアラス現ニ近也マテ自然人ニテアリナカラ法律上
人ニアラザリシモノアリ奴隸ノ如キ之ナリ故ニ法律上ノ人格ハ自然タルト人ノ集合体
先トテ同ハス凡テ法ヨリ生スルモノナリ法ノ存立スル以前ニ於テ法律上ニ所謂人
ナルモノ存在スルコトニ依之觀之君主カ自然人ナルヨリシテ法ニ依ラスシテ初メ
ヨリ統治權ノ主体トナルコトヲ得人ノ集合体ハ法人カカ故ニ依リテニアラサレハ統
治權ノ主体トナルコトヲ得スト云フハ誤ナリ至リハ聖書ハ云フニ人ノ身ハ
後クニ君主ハ自然人カカ故ニ法ニ成立スル以前ニ已ニ存在スルコトヲ得統治權ノ
主体タルコトヲ得而シテ統治權ニヨリ法ヲ定ムルコトヲ得トスルモ共和国ノ如キ多數
會議体又人民ノ集合ニ於テ統治權ヲ行フ団体ニ於テハ何人カ統治權ノ主
体タルヤ君主主權説ヲ唱フル學者ノ説ニヨリハ會議体又人民ノ集合ハ法ニ成立セシ
前ニ如何ニシテ一體ヲ爲シ如何ニシテ統治權ノ主体タル能ハサルカヲ解スル能ハス故ニ以
テ等ノ字者一説ハ後令君主國ノ性質ヲ説明シ得ルトスルモ其外ノ団体ヲ説明

スルコト能ハス下併國家ノ觀念ニ各種ノ政体ニ通シテ適用シ得ルモノナラザルヘカラス
況ニヤ是等ノ學者ノ説ハ君主國ノ性質ヲ説明シ得サルモノナラオヤ
自然人タル君主ト統治權ノ主体タル君主トハ其間自ラ區別アルコトハ何人モ認メザ
ルヘカラサル所ナリ夫故ニ君主ノ一ニ自然ナル君主ト統治權ノ主体タル君主トノ
別アルコトハ君主主權説ヲ唱フル學者モ認ム所ナリ君主ノ財産ト國家ノ財産
トハ全ク相長タルモノナラハ近來ノ諸國ノ國法ノ認ム所ナリ果シテ然ラハ統治權ノ
主体タル君主ハ自然人タルコトヲ得ス自然人ニアラザル君主ハ法ニ成立スル前ニ如何ニシテ
存在スルコトヲ得ルカハ君主主權説ヲ唱フル學者ノ説ニヨリ説明スルコトヲ得ス
自然人ニ一定ノ命救アリ若シ自然人タル君主カ統治權ノ主體ナリ即チ國家ナリト
テ國家ハ自然人ノ死スルト共ニ滅セザルヘカラス國法又國際條約モ亦自然人ノ死
スルト共ニ消滅セザルヘカラス君主主權説ヲ唱フル學者モ固ヨリ斯ノ如キ論決ヲ認
ムルモノニアラザルハ明ナリ是等ノ學者モ亦君主ハ一制度トシテハ不死ノモノナリト
主張セリ國法上ノ人格ヲ有スル君主カ一定ノ命救ヲ有スルモノニアラスト主張セリ
國法上ノ人格ヲ有スル君主ハ數十人救百人ノ命救ヲ通シテ一人ノ人トナワザラベ

カラス此人格ハ法ノ成立スル前ニ如何ニテ存在シタルヤ救十人救百人通シテ一人タルノ資格ヲ具スルハ何テ法ノ作用ニテラサルカ夫故国体ハ法ノ成立スル前ニ出来ストハ国法上ノ人格ヲ有スル君主モ亦添ノ成立スル前ニ存在スル能ハサル理ナリ君主主權説ヲ唱ル学者ホ主張スル如ク国家主權説ハ一ノ架説ナリトセバ君主主權説モ亦一ノ架説(ト云ハサルヘカラス要スルニ国家ノ国法上ノ人格ハ国法上ノ人格トシテ観念ナリ若シ国家ノ人格ヲ認メザランニハ国法ナリモノ存在スル能ハス折モ法ナルモノハ一人格ト他ノ人格トノ關係ヲ定ムルモノナリ国家ハ法律上ノ人格ヲ有スル故他ノ人格トノ關係ヲ有スルコトヲ得法律上ノ關係ヲ有スル故ニ国法ハ存在スルコトヲ得ルナリ若シ国家ニ法律上ノ人格ナレトセハ国家ト他ノ法人並ニ自然人トノ關係ハ余ク事實上ノ關係ニ止マリ法律上ノ干係ニアラスト云ハサルヘカラス事實上ノ干係ハ元ヨリ国法ノ定ムル所ニテラス果シテ前述ノ如クナラハ国家ハ如何ニテ国法上ノ人格ヲ得ルモノナルヤ如何ニテ一事實上ノ国家カ一法人タルヤ何テ他ニテラス国家カ自己ノ意思ヲ以テ其ノ事實上ノ權ヲシテ制限スル結果ナリ国家ノ權カ一事實上トシテ本来無限ノモノナリ

下然国家有テ其組織ヲ一定シテ有テ其權カヲ行フ、機關及方法ヲ制限シテ一定ノ範圍内ニ於テ臣民ニ意思ノ自由ヲ與ヘテ国家自体モ一定ノ方法ニヨル外ニ範圍ヲ侵スコト能ハスト定ム於是臣民又國家ニ對シテ權利ヲ有スルコトヲ得、國家又臣民ニ對シテ權利ヲ行フコトヲ得私法上ニ於テハ國家モ臣民モ等シク同一ノ法規ノ支配ヲ受クルコトナリ

尤此亦本無限ノ權カヲ有スル國家ハ其定ムル法律ニヨリ又ハ其認ムル所ノ權カニヨリテ有テ制限ヲ加ヘ進テ其制限ヲ守ルヲ以テ国法モ生シ行政法モ刑法モ刑罰法モ生スルナリ於是初メテ國家ハ一事實上タルモノナラス一法人トナルナリ國家ハ統治權ト單ニ事實上ノ關係ナルモノナラス同時ニ法律上ノ關係トナルナリ國家ハ一人トシテ有テ加ヘタル制限ノ範圍内ニ於テ活動スル間ハ国法学ハ其現象ヲ論スルコトヲ得ルナリ一旦國家カ其範圍内ヲ逸出スルハ国家学ハ之ヲ説明スルコトヲ得サルナリ

以上論スル所ハ國家ト法トノ干係ヲ説明スルコトヲ得ル唯一ノ説明ナリ若シ此説明ヲ採用セザレバ或ハ論理上ノ矛盾ニ陥ルカ然ラザレバ臣民ト國家トノ關係ヲ以テ

軍ニ事實上ノ關係トシテ從テ國法ノ根據ヲ破壊スルノ結果ニ陷ルナリ又此説明
ニヨリハ往々世人ノ抱ケル種々ノ疑ヲ除クコトヲ得今其一二ノ例ヲ示サシニ國家ノ憲法ハ
一定ノ方法ニヨリテ外變更スルコトヲ得サルハ憲法ノ定ムル所ナリ然レトモ憲法ハ國家自
ラ之ヲ定ムル所ニシテ憲法ヲ變更スル方法モ國家ノ自ラ定ムル所ナリ故ニ國家ハ先
ツ其自ラ定ムル憲法ヲ變更シテ方法ヲ廢スルコトヲ得ル理ナリ從テ其方法ニヨラスレ
テ憲法ヲ廢止變更スルモ妨ケナキカ如シ是レ其一例ナリ余併是ハ要スルニ
實力ノ議論ナリ國家ノ自ラ定ムル制限ニ從ヒ自ラ定ムル方法ニ依リテ憲法
ノ變更ヲ行フ間ハ國法學ノ論スル所ナルモ若シ其制限ヲ破リ其定ムル方法
ニヨラスレテ憲法ヲ廢止變更シタル時ハ是レ法律上ノ現象ニテラスシテ革命ニ事實
上ノ現象タルニ過キス國家ハ法律關係ノ主体ヨリ變シテ再ヒ軍制ナル一ノ事實トナ
リタルモノナリ因此ノ事實ニ元ヨリ國法學ノ論スル所ニテラス國家カ非常緊急ノ時
於テ已ムラ得サルニ出テ、法ノ認メサル處分ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤノ問題モ亦同
レ答ヲ以テ之ニ對スルコトヲ得所謂國家ノ緊急權ノ一トシトナルモノハ國法學ノ
問題ニテラス

憲法ヲ破壊シテ不當ノ權利ヲ令セタル場合於テ何種ノ法カ其奪シタル權カ
正当ノ權オトスルノ問題、同ノ國法學ノ論スル所ニテラス蓋シ憲法上ノ正当ナル
權下ニ屬スル權カソ奪ヒタルモノナル場合ニ於テハ即チ國家自定ノ方法ニヨリモノ
ニテラス故ニ國家ハ法ノ範圍ヲ脱シテ再ヒ軍制ナル事實トナリタル此場合ニ於
テハ臣民ハ事實トシテ實權アル所ニ對シテ服從ヲ表セサルハカラス組織ヲ變更シ
ル所ノ國家カ依然トシテ其自ラ加ヘタル制限ヲ守ル範圍ニ於テ國家ノ法律
上ノ現象ナリ例ハ國家カ其組織ヲ變更シタル以前ニ負擔シタル債務ソモ
認メサルハカラス國際法モ亦效力ヲ認メ居ルニ於テ組織ヲ變更スル非ニ
結ヘル國際條約モ亦認メサルハカラス而シテ國家ノ變更シタル組織カ確實ナ
ル事實トナリテ又法律若シハ慣習トナリテ一定ノ組織トナルニ及ヒ國家ノ組織ハ
初メテ再ヒ國法學ノ現象トナルモノナリ此時機ニ至ラズテハ國家ノ組織ハ軍ニ
ノ事實タルニ照キス

第三節 國家ハ人ノ集合体ナリ
前節ニ於テ國家ハ法人ト認メサルハカラスト云フ道理ト並ニ國家ノ法人ト認

論理ノ矛盾ニアラサルヲ成ヘタリ抑モ法學上人ト云フハ如此權利義務ノ主体
ナリ此矣ニ付テハ自然人モ法人モスル所ナシ只其是ル所ハ内部ノ組織ニアルノミ
自然人ニ於テハ其全部ト各部トノ間ニ法律上ノ關係ヲ生スルヲ云フモナシ
故ニ自然人ノ内部ノ組織ハ法律上ノ問題ニアラス之ニ及シテ教多ノ自然人ヨリ成ルモ法人ニ
於テハ其元素多ク各自然人モ亦法ヲ認メテ人格ヲ共ニ居ルヲ以テ全体ト各部トノ關係
ハ法律上ノ問題タルナリ
借テ國家ヲフテ法人ヲ組織セル元素ハ何
ナルカ國家ハバハルンハツク氏論スル如ク教十代教代ノ君主ヲ通シテ全体トナシタルモノナルカ或ハ
普通一般ニ唱ルン學說ノ如ク人民集合体ナルカ論セラルカラス抑モ國家ハ一事實タル國家
カ自ら制限ヲ加フルニ依テ國法上ノ人格ヲ得ルナルヲ以テ國家ノ組織如何ト云フ問題ヲ
論スル前ニ一事實トシテ國家ヲ觀察セラルヘラス
往時之ク行レタル考ミテ今尚ホ一ノ學者尙ニ抱ケル思想ニ從ハハ國家ハ一種ノ
機械ナリ人類カ其目的ヲ達スル手段トテ設ケタルモノナリ其思想ヲ極端ニテ推シ
之ハレハ國家ノ存スルト廢スルトハ一ニ人ノ自由意思ニナルコトアリ之レ實ニ併國華
命時代ニ於ケル思想ナリ此思想ニ及シテ近來ノ學者ハ往々所謂有機體說

(Organic Theory of the State) ヲ唱フルニ至リ此說ハ他ノ有機體
ト性質ヲ全ク同クスルノ說ナレバ此說ヲ唱ヘテ其極端ニ走リシ人ハブルンチニリー氏ト
ナス

氏ノ著書ニシテ英訳ニ係ルハ「ゼモオリト」ラフゼステート」ナリ此中ニ「
ルガニツク」センリト」ラフ語ハナリ

其說ノ大要ニハク有機體ハ何レノ有機體ニシテモ精神ト身體トツ有セサルヘカラス
言フ按テハ物質的^{マテリアル}元素ト活動カトツ有セサルナレ國家モ亦國家ノ精神ヲ有シ國
家ノ意思ヲ有ス立法ノ機干政治行政司法ノ機干其他各種ノ組織シ
有ス各種ノ有機體ハ一體ヲナシタルニ拘ラス教多ノ部分ヨリ成立ス是等ノ部
分ハ種々ノ方法ニヨリテ全部ニ必要ヲ滿タヌ之ト今時ニ國家モ亦諸種官署
機干等ヲ以テ調節トセリ是等ノ調節ハ皆國家ノ必要ヲ充タヌカ為メニ活
動ス各種ノ有機體ハ發達シ生長スルト同ク國家亦發達シ及生長スヘキナリ
ブルンチニリー氏ハ更ニ國家ハ有機體トノ比較シ全クオラレムル為メ國家ヲ以テ
男性トシ教會ヲ以テ女性トセリ

国家ハ他ノ有機体ト共性負リ同フスルヤ否ヤハ措テ論セス然レ凡国家ハ事實トシテ一人ノ生活外ニ独立ノ生活ヲ有ス救テ示年ニ互リ生存シ能フモノアルヲ疑フ容レズ

今国家ノ組織ニ各個人ニ付テ觀察スルハ皆一定ノ命救ク有ス一人ト他一人トノ間ニ通レテ一体ヲ為スノ干係ヲ有スルモノニアラス之ニ及レテ人ノ集合体ニ於テハ其元素ハ皆ニ新陳代謝スルモノ集合体ハ為メニ決シテ消滅スルモノニアラス君主ノ変更アルモ集合体ハ継続ス政体ノ変更アルモ集合体ハ生存ス此事實ハ決シテ一法ノ法理論ヲ以テ抹殺スルヲ得ス

如此事實トシテ国家ヲ觀察スルハ国家ノ治者ト被治者ト一体ヲ為シ無救ノ各個人ヨリ成立ス而カモ各個人ノ生活ト独立トシテ永久ニ生存スルモノナリ此意味ニ於テハ国家ハ一有機体ナリト云フモ可ナリ国家ハ国法上ノ人格ヲ得ルニハ国家自ラ其ノ事實ノ權ヲ制限ラ加フルノ結果ナルコトハ前ニ述ベタル所ナリ故ニ国家ハ人格ヲ得ル為メニ事實上ノ組織ヨリ変レテ国法上ノ組織トナリ国家ト各個人トノ干係ハ事實上ノ干係ヨリ変レテ国法上ノ干係トナリシナリ故ニ法人タル国家ノ

組織モ一ノ事實タル国家ノ組織トハ相異なるナリト認メサルハカラス法人タル国家モ又ノ集合体ナリ仮リニ事實上ノ觀察ヲ離レテ專ラ法理上ヨリ立論スルモ又同一ノ結果ニ及ス

君主ノ国家ヲ統治スルハ自己ノ利益ノ為メニアラスレテ集合体ノ利益ノ為メナルヲ君主主權説ヲ唱ル者モ又認メサルハカラス事實上ノ利益ノ主体ハ集合体ナリ已ニ国法上集合体ヲ以テ利益ノ主体ト見ルハハ国法上之ト合時ニ其目的ヲ達スルノ為メニ又必要ナル手段ヲ認メサルハカラス統治權者ノ意思ハ即此手段ナリ換言スルハ統治者ノ意思ハ即集合体ノ意思ナリ集合体ノ為メニ其意思ヲ定メ其意思ヲ發表スル所ノ統治者ハ即チ集合体ノ機關ナリ

第四節 国家ハ機關ヲ具備セル人ノ集合体ナリ

国家ハ人格ヲ有ス国家ハ独立ノ意思ヲ有セサルハカラス故ニ国家ノ為メニ意思ヲ定メ其意思ヲ行フ機關ナカルハカラス自然人ノ機關ハ法ノ干係スル所ニアラサル又シ法人ノ干係ハ法ノ定ムル所ナリ国家ハ人ノ集合体ナルモ單ニ多救ノ人民カ集リタルノミナラス一定ノ機關ヨリ結合セラルモノナリ国家ノ意思ハ各個人ノ意

思フ集合スルモノニアラスシテ全ク独立ノ意思ナリ其意思ハ即国家ノ機干ヨリ
テ生シ国家ノ機干ヨリテ發表セラル、モノナリ

機干ナケレバ国家ノ意思ナク国家ノ意思ナケレバ国家ノ人格ナシ国家ト機干ト
ノ干係ハテ權利主体ヲ他ノ權利主体ヲ代表スルシユフ国家ハ機干ヲ受テ權利主
体タルトヨリ得ス機干ハ国家ノ人格ヲ受テ別ニ人格ヲ有スルモノニアラスセイデル氏ノ

国家説ノ誤ルハ国家ト国家ノ機干トテ分處シテ機干ニ人格ヲ與フルニテハナリ
セイデル氏ノ国家ハ人民ノ集合体ナルモ機干ナケレバ意思ナシ即チ人格ヲ有スル
モノニアラザルナリ

然レテ国家ハ臣民ニ対テ權利ヲ有セリ特ニ國際法ニ於テ權利ノ主体タルモノハ
皆国家ナリ若シ国家ニシテ機干ナク人格ナケレバ權利ノ主体タルノ途ナ
シセイデル氏ノ國家論ハ少クテ國際公法ヲ廢滅スルモノト云ハサ
ルヘオラス

第五節 國家ハ統治權ノ主体ナリ

統治權ノ特質ハ命令強行ノ權ニテリ國家ハ法人ニシテ意思ヲ有セリ然レテ

最高裁判所圖書館

此意思ハ他ノ自然人又ハ法人ノ意思ト異ナリ國家ハ臣民ニ対テ命令
強行スル權ヲ有ス之固ヨリ國家ノ其目的ヲ達スル為メ用ル手段ハ命令及
強行制ニ限ルトノ意ニアラス

國家ノ支出ニ充當スルニハ官業ヨリ生スル收入ヲ以テスルヲ得、財產ヨリ生スル

收入ヲ以テスルトモ得ヌスニモ租稅ヲ徵收シテ之ニ充ツルヲ必要トセス又兵備ヲ設

ケンニハ備兵ニ依ルテモ得ヘシ又スルモ徵兵ノ方法ニ用ルヲ要セス又物品ヲ調達

スルニハ購買ニヨルテモ得必スルモ公用徵收又ハ徵稅ヲ行クヲ要セス

其他特ニ内務行政ノ區域ニ於テハ命令強行ノ手段ニヨラス勸誘獎勵ノ法ヲ用ル

モ可ナリ然レテ國家ノ命令強行其他一切ノ手段ヲ棄ツルモ國家タルヲ失ハス之

ニ及ビテ國家ノ命令強行ノ權ヲ失ハバ國家ハ之ヲ又國家ト稱スルヲ得ス

第六節 國家ノ統治權ニ定メ領土ノ上ニ行ハル

國家ハ臣民ニ対シ命令強行ノ權ヲ有スルモ此權ハ領土ノ上ニヨリテ限ラル、モノナ

リ領土内ニ於テハ臣民ニテラサルモノモ又其命令強行ノ權ニ服從セザルヘオラス集合

体ニシテ領土ヲ有セザルモノハ例ハ治者被治者ノ關係ヲ有スルモ今日所謂國

家ニテラス今日ノ国家カ他ノ国家ニ対シ又ハ各個人ニ対スル關係ハ領土ヲ以テ国
家觀念ノ要素トセカレハ之ヲ説明スルコトヲ得ス領土ハ今日ノ国家ニ於テハ必要ノ
元素ナリトス

第七節

国家ノ統治権ハ又スルモ最高ノ権力タルヲ要セス

第一ノ国家ニ於テ其統治権ハ最高権ナリ国家自ラ制限スルハ外ハ制限セラルコト
ナシ故ニ主トシテ第一ノ国家ニテシテ發達シタル所ノ国家ノ觀念ハ最高権ヲ
以テ其必要ナル元素トセリ然レニ国家ハ第一ノ国家ノ外ニ救済ノ力ヲ相結合
シテ一ノ国家ヲナスモノナリ独ニ来ハ瑞ノ如シ是等ノ場合ハ最高権ヲ以テ国家ノ
觀念ノ要素トシ之由テ国家ノ他ノ団体トラ區別スルコトヲ得ル者否其得ル者ノ説
ハ分ル所ナリ

照元所ニテスル学者ノ説ヲ支配スル説ニ信スル最高権ハ聯
合国家ト聯合国家トノ間ニ分配セラレテ居ルナリ此聯合国家ト其聯合各國ト
ハ国家ノ事務ヲ分掌シ其分掌スル所ノ事務ニテハ最高権ヲ不^レ分^レ聯合
国家モ各國モ共ニ最高権ヲ有シ共ニ国家ナリト此説ハ今日尙^レニ信スル者ナリ

照元所ナリ其有名ナル人如シテハ

Thornbrough

Wheatley, Sumner, Brandenburg

Worms, Allyn, Manning, Brandenburg

Worms, Allyn, Manning, Brandenburg

尔依最高権カ信ニ最高権ナル以上ハ他ノ權利ニ制限セラレシテ自己ニ己レノ

権ヲモ定ムルノ権力ヲカルバカラス若シニ国家ニシテ一ノ国家カ国家ノ事務ヲ分

掌スルコトノ国家ノ権限ヲ侵スコトヲ得ヌトセハ其国家ハ他ノ国家ニヨリテ制限セラル

モノナリ換言スルモ最高権ヲ有セカレモノナリ故ニ此説ハ今日殆^レト全ク勢力ヲ失ヒ

二三ノ例外ヲ除ク外ハ学者者ニ主張スルモノナリ

最高権カ聯合国家ト各國トノ間ニ分配セラレトシテ論カ論理上ハ矛盾トナリト

ス聯合国家ト場合ニ於テ聯合国家カ各國カ何レカラ以テ国家トスルカ將又国家

ニ非スルカ然ラバ最高権ヲ以テ国家ノ觀念ニ必要ナラストシテ
Morgan, Whistling, Brandenburg, Brandenburg

此ノ有最高権國ト無最高権國トノ區別ヲ認ムルカノ其ニ因テ採ラレハカラス
左ニテ字者ハ最高権ヲテ國家ノ要素トスル説ヲ固持セリ

Highland, Romanland, ...

Germany, Switzerland, ...

Prussia, ...

其結果或ハ聯合國家ヲ以テ國家ニアラストセリ或ハ聯合國家外ノ國家ヲ以テ國
家ニアラストセリ兎ニ角其聯合國家テ観念ヲ排斥スルハ何レモ全シ此説ハ諸ノ
慣習ニ反セリ特ニ獨乙諸邦ノ如キ君主國カ其多數ヲ占メ現ニ國ノ如キハ歐洲

ノ大國ニ列スルニ足ルモノ故言諸ノ慣習上之ノ國家ト稱スルモ怪シ足ラス加之
獨乙諸邦ノ如キハ條約ヲ締結スルノ權ヲ有スルハ故國際上ノ關係ニ於テ權
利益ヲ主体ト為ルコト得ヘナリ

此用語ノ慣習ヲ果シテ誤リナシハ夫レマテナリ併シ若シ誤リニアラストセハ最高
権ヲ有セカハ國家モ國體ト稱スルコトハ國法上ニ於テカクモ不可ナシ所ナシ是等
如何ナルテ用語ノ慣習ノ誤シム否ヲ試驗スルコトニテ最高権ナキ國家ト地

方國體ノ性質ノ異同ニリ試驗スルノ外ナシ

若シ最高権國ト地方國體トノ間ニ性質ノ異同ナシトセハ前者ヲ國家トシテキ
ナリ反之ニ者ノ間ニ性質上ノ差アリテ無最高権國ト最高権國トノ差ヲ單ニ最
高権ノ有無ニ過キストセハ最高権ノ有無ニ依ラス國家テフ名ヲ用ルハ不當ナラス
故ニ最高権カ國家ノ觀念ニ必要ナル否ヲ論スルニハ國家ト地方國體トノ間
ニハ最高権ヲ除ク外他ニ性質ノ異同所ナシマシ若シ有リトシハ其差ハ何処ニ
アリヤヲ論ヒサレハカラス此處ニ何テハ字誤大ニ分ル今主要ナルモノヲ挙ゲン

第一 *Polen, ...*

Prussia, ...
アリ強制ノ權ハ國家ノ權トテ排リテ自己固有ノ權ヲ行フニテラス

Niederlande, ...

Alpen, ...

凡ソ若年ノ字者ニテ將來有望ノ人ナリ其説ニヨリハ國家ノトテ強制ノ

権は其性質上国家ノ専ニ有スル所ナラサルヘカラストスル非ナリ此団体カ
 団体ノ対シテ行フ命令強制ハ自己ノ権利ナリヤ各々学者ノ説ノ分ル
 所ナリ又暫ク之ヲ措クモ現今尙ホ家族ノ中ニ於テ命令及強制ノ行ハル居ル
 所ハラバント及ユリネクガ氏モ認ムル所ナリ執権ノ如キ国家ニ代テ命令強
 制ノ権ヲ行フニアラステ一私人ノ利益ノ範圍内ニ屬スルモノト認メラ
 レタルナリ
 此一例ヲ以テ具ヘモ命令強制ノ権ヲ専ラニスルコトハ国家ノ觀念ノ要素ニ
 アラサルコトヲ知ルニ足ル

第三

氏ノ説ニヨリハ国家ノ特徴ハ特立シテ換言スルハ自己カ定メタル法律依リ或ハ
 政務ヲ行フノ権ヲ有シ及獨立シテ自己ノ法律ヨリテ自己ノ組織ヲ定ムルニ莫ク
 アリ乍併地^{自治}方^{自治}團體共權限ヲ超ヘス法律ニ其カサハ限リハ国家ノ干
 渉ヲ受ケスニ共權ヲ行フノ権ヲ有スルコトアリ又自主權ヨリテ自ラ條例
 ヲ定ムルコトヲ得又一方ニ於テハ聯合国家内ノ各国民モ聯合国家ノ法律ヲ

得テラ得ス又組織ニ付シテモ此方團體ハ或ハ範圍内ニ於テ其自ラ定ムル
 條例ニヨリ組織ヲ規定スルコトヲ併一方ニ於テハ聯合国家内ノ各国民モ
 聯合国家ノ法律ニヨリ共組織ノ大原則ヲ定メタルコトアリ現ニ瑞西ノ
 憲法及合衆國ノ憲法ハ各邦政體ハ共和政體ニ限ルト定メタリ又瑞西ノ憲法
 ハ各邦ノ憲法改定ノ方法ヲ規定ヲ設ケタリ之ヲ要スルニ是ヨリノ点ハ第一ニ
 程度ノ差シハ性質ノ差ニアラス然レモ氏ノ説ハ多クノ眞理ヲ含ムルコトハ
 後ニ述ボン

第三

Prinzipium der Einheit der Rechtspflege

氏ノ説ニヨリハ国家ノ所謂領土ノ高權ヲ有スル自ラ其領土ヲ処分スルノ権ヲ有
 ス自治體ハ及之領土高權ヲ有スル其領土ヲ処分スルハ国家ノ行為ニ屬ス
 之ニ国家ト自治體ノ差ハ此ナリ
 乍併自治體ノ區域ヲ変更シ又ハ他ノ自治體ト合併スルハ其國家ノ自意ヲ
 要スルコトハ少クモ其意見ヲ制シテ要スルハ諸國ノ法律ニ定ムル所ナリ

特ニ救済ノ可材カ合同ニテ組合ヲ設ケ此組合ハ法人ノ資格ヲ有スルコト
アリ此場合ニ所村ハ自己ノ任意ニ其領土ヲ以テ他ノ団体ノ領土ノ一部ト為ス
コト得ルアリ又一方ニ於テ聯合國国家内ノ各国民突然其領土高權ヲ有ス
ルモノニテモ其領土ノ變更カ合時ニ聯合國国家ノ領土ノ變更トシテ
キ場合ニ於テハ各国民ノ任意ニ其領土ヲ処分スルコトヲ得ス依之觀レハ領土高
權ニ于テハ差異ハ畢竟程度ノ差タルニ過キス

第四 *Rechtslehre* *Grundriss* (1888)

氏ハ目的ヨリ地方団体ト國家トヲ區別セリ其說ノ大要ニ曰ク同一ノ地方ニ於
テハ共同ノ住居及土地ノ接近ニヨリ所ノ地方ノ需要ヲ充タスカ地方団
体ノ目的ニテ國民的ノ利益ヲ進ムルカ國家ノ目的アリト此說モ又未タ全ク正
皓ヲ得ズ乍爾予ハ敢テ目的ヲ以テ區別ノ根據トスルヲ不可トスル
ニテラス一派ノ學者ハ全ク目的ヲ法律上ノ觀念ノ外ニ置キリラバンド、バル
公ノ如シ是等ノ學者ノ說ニ依ルニ事物ノ觀念ニ定ムルハニ當リ其必要
ナリク否ク及ビ有益ナリヤ否ヤハ議論ヲ演ズルハ非ナリ事物ノ目的ハ其

性質ヲ解スルノ助ケトシテ極ソテ重要ナルモ事物ノ觀念ノ要素トスルニ但
スト然リ一ノ制度ノ有益ナルヤ否ヤハ固ヨリ其觀念ト關係ナシ然レトモ事
物ノ目的如何其有益ナルヤ否ヤ換言スルハ其目的ニ於テ有益ナリヤ否ヤハ
自ラ別問題ナリ團體ノ性質ヲ定ムニ當テモ性々其目的ヨリ觀念ヲ
定ムルニ必要ヲ見ル

學校ノ組合水利ノ組合等ノ事業市町村ノ事業トセス又之ヲ人民ノ自
由ニ放任セスルニテハ公共團體ヲ設置スル利害得失ハ固ヨリ其觀念
ニ干係ナキモ學校ノ教育ノ目的ヲ外ニシテハ又學校組合テハ觀念ニテ水利
事業ノ目的ヲ外ニシテ水利組合ナル觀念ニテ故ニ目的ヲ以テ法律上ノ
觀念ノ要素トスルモ此點ノ以テ其觀念ノ誤マレルコトヲ證スル
コトヲ得ス

併地方的ノ要素ト國民的ノ利益トヲ以テ國家ト地方團體トヲ區別
スルハ未ダ全ク當テ得タルモノト云フヲ得ス
聯合國国家ノ權限ヲ極メテ廣キトシテ各國ノ分掌スル所ノ政務ハ從テ其

国家ノ秩序トシテ之ヲ行フニテ専ラ自己ノ政務トシテ自己ノ生存目的
ニテ之ヲ行フ彼ノ国家ノ監督ヲ受ケルト否ト及ヒ目的ノ限ラレタルト否トハ
其性質ノ差ヨリ生ズル結果タルニ過キズ自治体ハ国家ノ秩序ナリ其ノ
事務ハ国家ノ事務ナリ故又ス国家ノ監督ヲ受ケザルハカラス之ニ反シテ聯合
国家ハ單ニ各国ノ其權限ヲ越スルコトナク又否テハ監視スルニ止マリ其權限内
政務ヲ行フニ付テハ聯合国家ハ元ヨリ監視ヲ行フノ理由ナシ又自治体自
治限ニテアハコトモ国家ノ秩序タルニ係ヨリ生ズルニ係ニ伴フタル事務ナリ若シ
自治体ハ其政務ヲ自己ノ政務トシテ行フニ至テハ又之ヲ他ノ団体ノ秩序
ナリト稱スルコト得ズ故ニ自治体ハ其性質上必ス限ラレオハ目的ヲ有セ
サルコトヲスルニ過スルコト得ズ聯合ニテハ其性質上必ス限ラレオハ目的ヲ有セ
聯合国家ハ各國モ實際聯合国家内ノ權限ヨリ自己ノ權限ヲ制限セラル
其ハ疑ハ容レシム之ナル場合ニ其政務カ偶々聯合国家ノ政務タルカラスニ
極ニ其權限ヲ限ルルニシテ本来ノ性質上積極ニ極ラレタル目的ヲ有スルコトヲ
ニ聯合国家ノ政務トスルコト得ズ各々自己ノ政務トナスコト得若シ

聯合国家ノ一朝消滅スルハ各國ハ当然其内ノ政務ヲ行フコトヲ得ルニ至ルナリ
之ヲ要スルニ国家ノ秩序トシテ国家ノ事務ノ一部ヲ行フト專ラ自己ノ目的ノ為メ
政務ヲ行フトハ国家ト自治体トノ間ニ存スル區別ノ要点ナリトス

第八章 國家ノ定義

國家トハ機械ヲ備フル集合体ニシテ人格ヲ有シ專ラ自己ノ目的ノ為メ一定ノ
領土ニ命令強制ノ權ヲ有スルモノナリ

第二章 國法学

國法学ハ國家ニテスル法規ヲ論スルモノナリ國家ニテスルコトヲ見ルハ國
法学ハ國家学ノ一分科ナリ法規ヲ論スル處ヨリ見ルハ法学ノ一分科ナリト
ス

第一節 國家学ノ分科トシテ國法学ノ地位ヲ論ス

國家ハ諸種ノ法則ノ支配ヲ受ケ國家ハ一事實トシテ見ルハ天然ノ法則ヨリ
支配セラハモノナリ一法人トシテ見ルハ自ラ定メ又自ラ認ムル法規ニヨリ支配
セラハナリト併國家ト國家ノ關係及ヒ國家ト人民トノ關係ハ更ニ自然ノ法

則ト法規トヨリテ支配セラハクミナラス又道義ノ法規ヨリ支配セラハナリ
倍道義ノ法規ヨリ支配セラハクミナラス又道義ノ法規ヨリ支配セラハナリ
察シモ文(十八)カラス是等ノ種々ノ莫ヨリテ国家ヲ觀察スルハ觀察ノ上莫ヲ莫
ラ有セサルカラス是等ノ種々ノ莫ヨリテ国家ヲ觀察スルハ觀察ノ上莫ヲ莫
ニスハニ從ヒ国家学ニ種々ノ分科シ生ス

(一) 国法学ノ一事實トシテ自然ノ法規ヨリ支配セルモノトシ觀察スルハ国家
通論国家歴史及統計ナリ。国家通論ト云フ国家ノ性質其他起源
組織等ヲ論ス。国家歴史ト云フ社会ノ諸種ノ現象ヲ論ス。統計学ハ専ラ国家ニ于ル部分
變遷ニ于係スル部分ハ国家学ニ属ス。統計学ハ専ラ国家ニ于ル部分
ニ限リ国家学ニ属ス

社会学ハ人同社会ノ一現象トシテ国家ヲ論スルモ此場合ニ於テハ必竟
国家通論ト合一ナリトス

(二) 国家ノ法トシテ他ノ人格ニ對スル干係ヲ支配スル干係ヲ支配スル法規ヲ論スル
モハ云キ意義ノ国家学及國際法ナリ

(三) 国家ト国家スハ人民トノ干係ヲ支配スル道義ヲ論スルモノハ国家道義学ナリ
(四) 利害得失ノ莫ヨリテ国家ノ組織及権能ヲ論スルモノヲ政治学トス。政治学
ニ于テハ学者ノ定数ハ多ク語ヲ異ニスハモ要スルニ国家目的ヲ論シ此目的ヲ達スル
為メニ過当ナル手段ヲ論ス。経済ノ国家ニ于ル部分ハ国家学ニ属スルモ是等
ノ部分ハ性質上政治学ニ属ス

Stoll, Abgleichslehre der Staatsverfassung
Wagner, Abgleichslehre der Staatsverfassung
左ニ *Stoll* *Wagner* 又 *Wagner* 表ヲ掲ケテリ而シテ予ハモ
ルル氏ノ説ニ從フモノトス

注意 图中 (一)ハ *Stoll* ノ分類ニシテ

Stoll ノ説ニ從フモノトス

「モール」

(記述的) 国家歴史
歴史的 統計

国家学

Handwritten notes in German, possibly 'Handwritten W.'

理論的

国家通論
公法
国家道義
政治学

憲法学

国法学 推理
國際法 實在

国家学

人口学

社会学

Handwritten German notes: 'Handwritten system'

統計学

財政学

行政学

理財学

Handwritten German notes: 'Handwritten system'

貨幣学

Handwritten German notes: 'Handwritten system'

Handwritten German notes: 'Handwritten system'

Handwritten German notes and diagrams on the left side of the right page, including 'Handwritten system' and 'Handwritten system'.

第二章 法学ノ一部トシテ国法学ノ位置ヲ論ハ

孤種ニ生存セル人類ノ法ヲ有スルヲ得ス天性ノニヨリ行動スル動物ノ法規ヲ
リテ支配セルニヨリナシ意思ヲ有スル人類ノ共同生存スルコト法ノ生存スル要
件ナリ

法ノ目的ハ意思ヲ有スル人類相互ノ上ニ於テ一ノ意思カ他ノ意思ニ効カテ
及ホスコトヲ得ル範圍界限ヲ定メタルモノナリ此界限ハ意思ニヨリ定ルモノアリ
慣習ニヨリ定ルモノモアラシ其意思ニヨリ定ルモノハ多數ノ対当スル人ノ上ニ
立キ其意思ヲ制限スルカアル国家ノ意思ニヨリ定ルモノナラシ其慣習ニヨリ定ルモノ
ハ國家カ之ヲ認ムルニヨリ始メテ効ヲ生スルコトヲ得

然レ私ノ上ニ立チ私人ト私人トノ間ニ意思ノ界限ヲ定ムル國家モ時ニ進歩
ニ伴ヒ自ラ私人ノ間ニ意思ノ界限ヲ定メ自巳及其機關タル公共團體ノ意
思ヲ制限スル標ニナリタルコトナキハ嘗テ述ハタリ

然レ在國家ハ私人ニ対シテ自巳ノ意思ヲ制限スルニ止ラス近キノ國家ハ孤立シテ
生存スルモノナシ多ク數ノ國家相集リ自ラ一種ノ共同体ヲ形成セテ國家

十国家上ノ商モ亦意思ノ限界ヲ定ムル必要生ズ然レモ国家カ共同体ノ性立
於人格ヲ有シ独立ノ意思ヲ有スルモノニテテ各國ノ通常最高権ヲ
有スル故国家ト国家トノ間ニ意思ノ限界ヲ定ムル法則モ亦国家カ之
ヲ認ルルヨリ始メテ効力ヲ生ス若シ一ノ国家カ國家ノ共同体ニ加ハラセハ
國家公同トシ他ノ國家ノ對シ其意思ヲ制限スルルコトナシ今日ノ時勢ニ於
テ果シテ國家ノ共同体ニ加ハラセテ孤立シテ生存スルヲ得ルヤ是事實
ノ同歟ナリ乍併國家カ一度國家ノ共同体ニ入り他ノ國家トシテ又通ニ加ハリ
外以上ノ國家ハ此行為ニヨリ自ラ其意思ヲ制限シ國際公法ノ効力ヲ認
ムルモノト見做非ルヘカラス
國家カ自ラ其意思ヲ制限スルモ公法ナリ國家カ私人ト私人トノ間ニ意思ノ限
界ヲ立ツルモノハ私法ナリ公法ノ中ニテ國家ト國家トノ間ニ意思ノ限界ヲ立ツ
ルモノハ國際公法ナリ國家又其機關タル共同團體及ヒ私人トノ間ニ意思
ノ限界ヲ立ツルモノハ國內公法ナリ國內公法ハ尤モ廣キ意味ニテ所謂公法
ナリ

大モ広義ノ國法ノ中ニ刑法及民事刑事訴訟法ハ早クヨリ獨立シテ一分科ヲナシ居
ル故之ヲ除キ其他ノ部分ヲ稱シテ広義ノ國法トイフ
広義ノ國法ヲ更ニ分テ國法ト行政法トニ分科トス國法ト行政法トノ關係ニ付
テ學者ノ採ル所ニ様トラス國法學モ行政法モ其ニ國家機關ノ組織並ニ其機
能ヲ論スルモノ故此二者ノ區別ニ關シハ殊ニ難シ學者或ハ國法學ヲ以テ行政法ヲモ
含蓄スルモノトシ之ヲ憲法及行政法ニ科ニ分ツモノナリ他ノ學者ハ國法學ヲ以
テ行政法ト相對スルモノトセリ而シテニノ學科ノ間ハ明ナル分界ヲ設ケス
是等ノ學者ハ概テ行政ニ干スル重大ノ原則ハ國法學ニ於テ論シ其細目ヲ論
スルヲ以テ行政法ノ目的トセリ
三ノ學者ハ行政法規ノ中ニ形式上ノ法規即機關ノ組織ト其行動ノ方法等ヲ
定ムル所ノ法規ト實質上ノ法規トヲ區別シテ前者ハ國法ニ於テ區別スルモノ
トシ後者ハ之ヲ行政法ニ於テ論スルモノトセリ抑モ國法ト行政法トノ分界ヲ
立ムル困難ナルトハ二者共ニ國家機關ノ組織及機能ヲ論スル上對リ夫故ニ二
ノ學科ノ區別ヲ定ムルニハ先ツ國家機關ノ組織機能ノ中ニ國法學屬

第一、法律及命令

法律ト命令ト區別ハ後之ヲ詳論セン法律ノ形ヲ有スルモノニテ法規ヲ定メタルモノアリ命令ノ形ヲ有スルモノニテ法規ヲ定メタルモノナリ

法規ヲ定ムルモノハ法律ノ形ヲ具ルモノ國法ノ法源ニアラス其法規ヲ定ムル命令ノ形ヲ有スルモノ國法ノ法源タルヲ得要スルニ國法ノ法源ニ命令タルト法律タルト同ハス法規ヲ定ムル國家ノ命令ナリ

第一、法律中特別ノ地位ヨシムルモノアリ即チ憲法ナリ

憲法ト他ノ法律ト區別ハ實質ニテ定ムルヲ得殊ニ憲法ニ規定スル範圍ハ前論シタル國法ノ範圍ト一致マズ憲法ノ條項モ行政法ニ屬スルモノアラフ普遍ノ法律ノ規定シモ國法ニ屬スルモノアラン憲法ト通常法律ト他ノ法律ト區別ハ單ニ制定ノ手續ニテスル區別ニ過キス

憲法ト他ノ法律トノ關係ニ付テハ諸國中或ハ全ク此區別ヲ認メサルモノナリ或ハ二者ノ區別ヲ認ムルモノナリ英國ニ於テハ別ニ憲法ナシモノナシ國法ノ大原則モ普通ノ法律ヲ以テ定ムルコトヲ得ルナリ之ニ及シテ他ニ立憲國ニ於テ

憲法ト通常ノ法律トヲ區別シ憲法ノ變更ニハ特別ノ要件ヲ設ク其目的ハ言

ヲ俟タス一時ノ必要ヨリ容易ニ國家ノ大本ヲ動カサルニナリ乍併ニ才ニ於テハ此制度ニモ亦一契アリ即憲法カ時世ノ變遷ニ從ヒ進歩スルコト能ハ

ト云フコト是ナリ若シ憲法變更ノ方法カ下重ニ失スルトキハ却テ革命又ハ憲法破毀ノ原則トナルコトナキニテラス更ニ一歩ヲ進メ憲法カ永遠不變規

定ヲ設レハ憲法ハ自ラ破毀ノ種子ヲ包蔵スルモノト云ハサルヘカラス

憲法ト通常法律トヲ區別スル法律ニ於テモ或ハ國家ノ國法ノ大綱ヲ一ノ法章ニ集メ之ヲ憲法典章トセルナリ或ハ又憲法ノ典章ヲ設ケス數多

ノ憲法法律ニ國家ノ組織ヲ定ムルアリ仏國ノ兩國ハ後ノ方法ヲ採ルモ立憲國々多數ニハ概テ憲法ノ典章ヲ設ケタリ仏ニハ憲法ノ規定ハ一ノ典章ト

ナラス三ノ法典ヨリ成ル澳ニハ憲法々律ハ六ノ法律トナリオレリ

憲法ハ其實質ヨリ他ノ法律ト區別スルヲ得ス只其變遷更ニ特別ノ手續ヲ要スルニテコトハ前述ノ如シ此手續ハ諸國ノ間ニ相異ルコトアルモ大体ニハ二種ナリ

(一) 憲法ノ変更ヲ通常ノ立法機關ニ任セサルコト
(二) 通常ノ立法機關ニ憲法変更ノ権限ヲ与ヘ半ニ其議決ノ手續ヲ異
ニスルニ止ルコト

憲法ノ変更ノ為ニ特別ノ機關手續ヲ設クルハ北米合衆國ナリ此國ハ民主
的聯合國家タルノ團體ニヨリ結局公民ノ多數トヨリテ憲法ヲ変更スルノ
権ヲ有ス

佛ハ此矣ニ付テハ二種ノ制度ノ中間ニアルモノト云フハ即西院カ自己ノ發議ニ
ヨルカ又ハ大統領ノ要求スルカ右過半数ヲ以テ憲法変更ヲ議決スル中ハ兩
院會合シテ國民會ヲ開キ議決定數ノ過半数ヲ得サレハ改正ヲ行フコト
ヲ得ス畢竟此ハ憲法改正ノ為メ特別ノ議會ヲ召集スルモ其議會ヲ組
織スル議會ハ通常立法機關ト同一ナリ

英ニ種ノ制度ハ憲法変更ノ権限ヲ通常ノ立法機關ニ與フルモ憲法変更
ノ為ニ特ニ鄭重ノ手續ヲ要スルコトヲ以テ憲法ノ保障トセリ此等ノ保
障ヲ出席議員ノ定數投票數ニ關スル制限ナリ此部ニ屬スル憲法ハ

尤モ多シ例之澳、獨、如、白、蘭、耶、モ然リ

憲法保障ノ第一ノ方法上定ノ期間ヲ隔テ、數回ノ議決ヲ要スルコトナリ
如シ三週間ヲ經テ二回ノ議決ヲ為サレハカラス又ハハイエルハ國會ヨリ提
スレハ八日ヲ隔テ、三回ノ議決ヲ經サレハカラス其他瑞典、荷蘭等モ亦然リ

法保障ノ才ニ三發案權ノ制限ニヨリ例之國會ニテ發案スルハ臣民ノ權
美我務議會ノ権限司法ニ關スル憲法保障ニ關スルコトヲ得又二回
議決ニ關スルコトハ各自己ノ議院ノ組織ニ關スルコトハ發案スルコトヲ得又二回

發案スレハ十二年後ニテラサレハ再ニ發案スルコトヲ得スハハ發案ス
ニ前二回議決セサレハ發案スルコトヲ得ス白身義ハ先ツ憲法改正ハ使
テ議決シテ後々國會ヲ解散シ其後ノ議會ニテ議決シ初メ改正スルコトヲ

得テ憲法保障ノ才ニ三發案權ノ制限ニヨリ例之國會ニテ發案スルハ臣民ノ權
美我務議會ノ権限司法ニ關スル憲法保障ニ關スルコトヲ得又二回
議決ニ關スルコトハ各自己ノ議院ノ組織ニ關スルコトハ發案スルコトヲ得又二回

發案スレハ十二年後ニテラサレハ再ニ發案スルコトヲ得スハハ發案ス
ニ前二回議決セサレハ發案スルコトヲ得ス白身義ハ先ツ憲法改正ハ使
テ議決シテ後々國會ヲ解散シ其後ノ議會ニテ議決シ初メ改正スルコトヲ

変更ヲ行フコトヲ得ヌト云フコト是ナリ葡ハ一度改正シタルハ四年間改
正スルコトヲ得ヌト云フ

吾邦ハ憲法ノ典章ヲ有ス此典章ハ廢止スルコトヲ得ヌ七三條ハ單ニ各
項ノ改正ニ關スル規定ニテ設ケルニ止マリ其廢止ニ關シテ別ニ規定スル所ナシ
ト併廢止ニ關シテ規定セザルハ一定ノ手續ニヨラス自由ニ之ヲ廢止
得ト云フ然レモ又通常ノ法律ノ變更ト同シ通常ノ立法手續
ヨリ廢止レ得ト云フ主意ニモアラス如何ナルハ憲法ハ各項ノ改正スルテ重
手續ヲ設ケナカラ廢止ハ却テ簡易手續ニ依ルコトヲ許ス理由ナリ憲法
廢止ニ付テ規定セザルハ憲法ハ廢止スルコトヲ得カハナリ此趣旨ハ憲法
發布ノ勅語ニ極テ明ニ表シ居ルニ憲法發布ノ勅語ハ「命令ナリ現
ニ憲法施行ノ時期ノ如キモ勅語ノ内ニ定メタリ勅語ニヨリテ將來憲法ノ
ル條五章ヲ改正スルノ必要アル時期ヲ見ルニ云々」ハ朕ノ系統ノ子孫各
議ノ擁護ノ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニヨリテ
ヲ議決スルハ朕ノ子孫及臣民ハ敢テ之ヲ變更スラテ試ミカレハ又

朕ノ子孫及將來ノ臣民ハ此憲法ニ對シ永遠ニ從遵ノ義務ヲ負フベシ

依之見ルニ憲法ハ憲法ノ規定據リ或各章ハ改正セラルコトアルモ憲法夫自
身永遠ニ廢止セラルコトハ明ナリ故ニ各章ノ改正ヨリ全ク實質ヲ一變シテ
七章制政治ノ如古ニ復スルコトナラヤ知レサルモ未レテ形式上之ヲ廢スルヲ得ヌ
是即國家カ將來永遠ニ自由加ヘタル制限ナリ而シテ國家カ自ラ再ヒ其
制限ヲ除クコトヲ得ルヤ否ヤハ事實ノ問題ニシテ國法ノ向歟ニテラス憲法
ハ變ニテ廢止スルコト能ハサルノミナラス其各項ヲ改正スルモ特別ノ手續ヲ
要ス吾邦ニハ憲法改正ノ為ニハ特別ノ機關ヲ設ケサルモ其改正ハ議會
ト兼案ヲ許サス後復三十分以上ノ出席及出席復三分ノ二以上ヲ以テ又
三分ノ二以上ノ議決スルコトヲ得ヌ及振政ヲ行ハ向テ改正ヲ行フヲ得ヌ憲
法ハ此等ノ案ニ於テ通常ノ法律ト異ナリ

如此憲法ノ變更ニ付テハ特別ノ制限ヲ設ルニ係ハラヌ憲法變更ノ法律
ハ法律ノ一種ナリ但法律ノ一種ヲ以テ變更スルコトヲ得ル憲法モ亦法律ノ

一種ナリ北米合衆国ノ如ク憲法ト法律トノ間ニ制定ノ機關ヲ異ニシテ
於テハ憲法ト法律トハ別種ノ如ク認めラルモ其他ノ国ニ於テハ憲法
変更ノ法律又法律ノ一種ナルコトハ人ノ認めル所ナリ

吾國憲法ニヨルモ第五條ハ立法權ニ憲法変更ノ權ヲ認めメス第六條ハ法律ノ
裁可外ニ憲法変更ヲ裁可スルヲ法ヲ認メス第七條ハ憲法ノ變更カ出
然議會ノ議決ヲ經ヘキモノトシテ單ニ其手續ニ付テ規定ヲ設ク下併三七條

ハ法律ニ代替スル外ニ別ニ議會ニ憲法變更ニ代替スル方法ヲ定メス此規
定ヨリシテ断定スルハ憲法ハ憲法及憲法變更ノ法律ヲ以テ法律ノ一種ト
認めルコトハ疑テ容レズ殊更ニ第一ノ條ニ此憲法又ハ他ノ法律ト云フ文字

ヲ指稱シテ證明スルヲ要セス
要ニ憲法ハ法律ノ一種ニシテ其變更ニ通常ノ法律ニ異リタル手續ヲ
要スルナリ吾邦ノ憲法ハ世人往々之ヲ欽定トシテ憲法ト云フ欽定憲法ト

ハハ約憲法ニ對スルノ語ニシテ立憲君主國ノ憲法ハ往々欽定憲法ト
悞約憲法トノ二種ニ區別セララルコトアリ君主ノ專ラニ定メラルモノ之ヲ欽

定憲法ト云フ君主ト臣民ノ代表者トノ機贊ニヨリ成立セルモノ之ヲ悞約憲
法トイフ下俄國法上ヨリ論スルハ此區別ハ存在ス

憲法モ亦國家ノ意思ヲ表示シタルモノアリ而シテ憲法ノ制定ニヨリ國會ヲ
設スル也ノ同ハ國家ノ意思ハ國法上君主ノ專ラ定ム所ナリ機贊ニシテ立憲

君主國ノ憲法ハ國法上ロソ欽定憲法ナラハモナシ假令君主ハ憲法ノ制
定ニ參與スル爲メニ特別ノ議會ヲ組織スルモ此場合ニ特別ノ議會ハ國家
ノ機贊ノ一部トシテ之ニ與アルモノニシテ臣民ヲ代表レテ君主ト悞約スル

ニテラス
第三 自主權ニヨル規定
自主權トハ公共團體ヲ法規ヲ定ムルノ權ヲ言フ國法ハ前述ノ如ク國家根
本ノ法規ナル故自主權ニヨル規定ノ中ニ存在スルモノハ今日ニ於テハ殆ト

ニテナシ
第四 皇室典範
英國其他ノ歐洲立憲君主國ニ於テハ君位継承ノ順位等ハ憲法又ハ其他ノ

法律又ハ慣習ヨリ定ムレリ家法ヨリ定ムルモノナレ共諸国及境ニ於テハ昔ヨリ君主ノ家法ナルモノナリ君位継承其他王室ニ屬スルコトヲ定メタリ我邦モ憲法ノ外ニ皇室典範ヲ設ケ皇位継承ノ順序撰政ニ任スル順序國法上重要ナル原則ヲ定ム

君主ノ家法ハ皇室ノ自主權ニヨリト云フハ教多ノ學者ノ説ク所ナリ國家的ノ思想未ダ發達セザル時代ニ於テハ土地人民ヲ以テ君主ノ世襲財産ト見ルヲ以テ統治權ヲ所有權トハ往々合ニ見タリ其極一三〇〇年ヨリ一四〇〇年ニ至リテ國土ハ教多ノ兒ニ分配マルコト一般ノ慣習ナリ下併分配ノ行フ結果トシテ終ニハ君主ノ声價ヲ失墜スルニ至リタルヲ以テ茲ニ國土ノ分配ノ制限スルニ專ラ生シタリ故ニ独乙諸國ノ家法ノ目的ハ主トシテ國土ノ継承ノ順序ヲ一定シテ其分配ノ制限ニ王室ノ尊榮ト名聲トヲ維持スルノ目的ニ生テタルヲ以テ家法ハ主トシテ王室ニ干係スル私法ノ性頗ク有クナリ加之独乙各國君主ノ家族ハ其初メ所謂帝國直接ノ臣民ナリキ各國君主ノ臣民ナラワリシ故ニ其ノ手續ハ君主ノ命令ニヨリ定ムルコトヲ得

得ス後テ家法ノ制定變更ハ概テ君主ノ親族ノ全意ヲ得ルコトナリ當時ノ家法ハ君主ノ親族ニ於テ相統ノ順序ヲ定ムルニ委メリ而シテ全ク君主ノ親族ノ皇權ニ基ケリ下併独乙帝國ノ瓦解ヨリ独乙各國君主ノ臣民トナリタル故ニ君主ノ親族ニ干係モ君主ノ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

加之國家ヲ親念ハニ發達シ統治權ハ君主私有ノ權ニテラス継承ノ國家ノ一大事ナルコト普ク人ノ認ムル所ナリ諸國ノ憲法ヲ制定スルニ當リ従前家法ニ於テ定メタル事柄ヲ憲法ニ移シタルモノナラス只独乙諸國ノ憲法ハ王室ノ内事ニ屬スル事柄ヲ定ムルニ止マリ其組織ニ干スル事柄ハ憲法又ハ法律ヲ以テ定メサルヘカラスト云フ一般學者ノ説ク所ナリ只學者ノ説然ルニミナラスニニ憲法ハ明ニ此義務ヲ規定セリ例之ブルテンブルヒノ憲法ノ如シ右ニ述ラルル独乙諸國ノ憲法ハ君主ノ親族ニ於ケル純然タル内事ニ干係シ規定スルモノナラズ之ノ君主ノ親族ノ自主權ニ基ケトスルモノ取テ不當ナリトセズ我國ノ皇室典範ハ皇位継承ノ順序君主ノ

成年ニ干スル規定概政ニ干スル規定ト云フ如キ国家ノ大法ヲ定ムルモ其
 例ラスル併信之ヲ皇室自主権ニヨル規定ナリトスレハ余ノ疑フ所ナリ
 余ノ解スル所ニヨレハ憲法ニ解スル著者ハ此意見ヲ有ス(四三頁)
 皇室典範ノ前文ニ朕ノ皇子及子孫ヲ祀テ遵守セシムル所アラシトアリ
 テ一般ノ臣民ニ遵守セシムルト云ク明又ナシ加之國務大臣ノ副署ヲ欠ク
 又一般ノ公布セラルル如キ事實此説ニカエ償スモ、如キ見ルコト
 予ハ遠ク此説ニ同意ヲ表スルヲ得ス
 皇室典範ハ前述ノ如ク国法ノ大原則ヲ定メタリ決シテ君臣相係ル
 憲法ノ性質ヲ含フラスト云フヲ得ス其規定ヨリ見ル吾邦ノ皇室典範ハ
 憲法ノ性質ヲ含フスル所ナラズエヨリ單ニ皇室ノ内部ノ干係ヲ定ムルモ
 三ノ章ノ之ヲ以テ皇室ノ自主権ノ作用ニ止ルモノトスルハ當リ得タルモハトスルヲ
 謂フ可ク皇室典範ヲ以テ皇室ノ自主権ノ作用ナリトセハ国家
 ノ憲法ニ干スル事ニ思ヒテ国家ノ意思ニハ讓ラサルハラカシ故憲法中
 皇室典範ニ讓リタルハ格別ナシモ其他ハ通常ノ法律ハ勿論命令ニ
 抵触スル規定ヲモ設クルヲ得ス命令モ法律モ其ナシク国家ノ意思ニ干テ自主
 権ノ上ニ立ツモノナリハナリ

此断定ヲ以テ當リ得タリトセハ皇室典範第五ノ章五二条ノ規定ノ如キハ一
 命令ヲ以テ之ヲ廢止スルヲ得ルモノト云ハサルハカラス此ノ如キ論決ハ吾邦ノ国
 体モ及シ皇室典範ノ品位ヲ瀆スモノナリ其憲法ノ精神ニ背戾セハコトハ
 憲法第七四条ヨリ推測スルヲ得皇室典範ノ条規ヲ以テ此憲法ノ条規
 ヲ変更スルコトヲ得スト言ヘリ皇室典範カ單ニ皇室ノ自主権ニ過キストセハ
 只ニ憲法ノ条規ヲ変更スルヲ得サルニナラス通常ノ法律命令ヲ変更ス
 ルコト能ハサル理ナリ憲法七四ニハ無用ノ規定カ然ラカレハ不備ノ規定ト云ハサル
 ハカラス若シ此条ノ規定ク無用ナラス又不備ナラストシテ解釈スレハ皇室
 典範ハ憲法ノ下ニ立ツモノニシテ而カモ通常ノ法律又ハ命令ノ上ニ位スト解
 セサルハカラス換言ストハ皇室典範ハ国家ノ意思表示タル法律命令ノ
 下ニ立テハ自主権ノ作用ニアラス
 吾國ノ制度ノ沿革ヨリ論スルモ右章ナル論決ノ誤ラサルヲ証スルヲ得

憲法制定前ニ於テハ如何ナルコトヲモ元首專ラ定ムルコトヲ得サハモノナシ彼独乙
 諸邦ニ於テ古昔君主カ其親族ニ對シテ命令權ヲ有セザリシモノトハ元ヨリ趣ヲ
 異ニセリ又一方ニ於テハ國家内ノ団体カ自主權ヲ有スルハ國家カ明ニ認ムル所ナラ
 サル可ラス然レニ憲法制度前ニ於テハ元首ノ命令ノ外ニ皇族ニ自主權アリシコト
 見ルヘキ根據ナシ憲法中ニモ又皇室典範ノ規定ヲ皇室ノ自主權ニ委任シ
 タリト云フコトヲ明カニ徵スルコトヲ得ス左レハ憲法ハ此点ニ付テハ後前ノ有様
 ヲ繼續ニシタルモノト認メサルヘカラス畧言スレハ皇室典範ハ自主權ノ作
 用ニアラサルナリ皇室典範ハ前述ノ如ク自主權ノ規定ニアラス乍侯之ヲ以
 テ憲法ノ一部ト見做スハ誤ナリ普ノ國法学者ハ普ノ憲法第五三條ニ王
 位ハ王室家法ニヨリ繼續承スルコト規定セハ故王室ノ家法ハ憲法ノ一部ヲ
 為スモノト論斷セリ一部ノ憲法ハ家法ヲ以テ憲法ノ一部ナリト明言セザアリ
 例之バ~~バーデン~~、~~ハフセン~~ノ憲法ノ如シ

如此明文アリ格別ナレモ單ニ憲法カ皇室典範ニ定ムル所ヨリ規定スルト云フ
 理由ヲ以テ皇室典範ハ憲法ノ一部ナリト認ムルコトヲ得ス憲法ハ直接ニ規

定ヲ設ケスニ具規定ヲ法律命令ニ讓ル例少ナラス第三四條ハ衆議院ノ組
 織ヲ法律ニ讓レリ乍併撰憲法ハ憲法ノ一部ニアラス又三三條ハ貴族院ノ組
 織ヲ勅令ノ規定ニ讓レリ乍併貴族院令ハ憲法ノ一部ニアラス憲法ト他ノ
 法令ノ區別ハ其變更ノ手續ヲ異ニスルニアリテ其實質ニアラスト云フコトハ前ニ
 述ヘタリ撰憲法貴族院等ハ憲法カ衆議院貴族院等ノ組織ヲ具規定
 ニ讓ルモノ乍併其變更ノ手續ニ至リテ他ノ法律勅令ト異ルモノナシ之ヲ畧言スルハ此等ノ法
 令ハ憲法ノ一部ニアラサルナリ之ト等シク皇室典範ハ憲法ノ一部ナラシモ依ル根據ナキノ
 ミナラス其憲法ト別種ノモノナルコトハ却テ七四條ナリ證明スル所ナリ
 前述ノ如ク皇室典範ハ皇室自主權ノ勸ヲナスモノナリ又憲法ノ一部ヲモナクシテハ憲法
 ノ範圍内ニ於テ存在スル國家ノ命令一種ト認ムル外ナレ白皇室典範ハ法律及命令ト其
 性質ヲ全フセリ只法律及命令ニ干シテハ議會ノ同意又ハ大臣ノ副署等種々ノ條規
 ナ設クルニ及シ白皇室典範ニ干シテハ憲法ノ條規ヲ一變更セザルト撰政ヲ置ク間ハ之ヲ
 變更スルコトヲ得ストノ一二ノ差異ヲ設ケタルニ過キス
 他ノ諸國ニ於テハ家法ハ親族内ノ干係ヲ定ムルニ止マリ君主者モ之ヲ自主權ノ作用ナリト

認めルモノ多キコトハ右述ヘシ如シ尚ニ二ノ國ニ於テハ家法ヲ以テ國家ノ命令ノ一種ト認め或ハ
又家法ヲ以テ全ク法律ト全ク視セルヨリ現ニ「ウヂル」デブルヒレノ家法ハ王族ト其族長
タル君主トノ干係及ヒ王族相互ノ干係ヲ定ムルニ係ラス之ヲ定ムル方法ハ通常ノ
立法ノ方法ト異ラサルコトハ實際ニ認めル所ナリ又全國ノ國法ヲ考テ認めル所ナリ

此等之ヲ認め

Mr. Me. Savigny's view.
「バイモ」ニテノ王國ノ家法ニ依テモザイテルハ同一説ヲ保持セリ其説ニ依テ帝國互解
以來(一八〇六)ハ國王ハ王族ニ對シテモ命令權ヲ得爾來家法ノ性質ヲ變シ國家ノ法
律トナリ其法律ハ即憲法發布ノ爲メ變更シタルコトナシ只憲法制定後ハ通常ノ法
律トナリ家法トノ區別ヲ生シテ家法ハ國家ノ祖裔及通常ノ法律ニ干係ナシ及サル以上
ハ議會ノ同意ヲ要セサルトノ差異アルハ家法ノ性質ハ此ノ如キモノナルヲ以テ其要
更ハ王族ノ同意ヲ要セス其効力ハ独リ王族ニ及ブコトナラズ一般ニ及ビテナリト
此説ノ如キハ我國ノ皇室典範ノ性質ヲ解スル助トナスコトヲ得要スルニ皇室典範
ハ國家ノ命令ノ一種ニシテ法律命令ト相共ニ國法ノ法源タルモノナリ
以上列挙シタル種々ノ法律ノ中ヲ國法學者中國際條約ヲ以テ國法ノ一法源トセリ

條約ハ條約トシテ庶民ニ對シ効力ヲ有スルモノニアラス國家カ國家トシテ
羈束スルニ過キス此臣民ニ對シ効力ヲ生スルハ條約ヲ實施スル爲メ發スル法
律命令ニヨルナリ夫故條約ハ國法ノ法源タルモノニアラス

第二章 不文法ノ慣習法

慣習法ヲ以テ公法ノ法源トスルハ學者ノ或ハ全ク排斥スル所ナリ下併公法ノ區域
ニ於テ今ノ慣習法ヲ認めスルハ憲法發布前ノ諸國ニ於テハ殆ト國法ナルモノナク
英國ノ如キハ今日ニ在テハ國法ハ尚ホ不備ノモノトスルハカラス公法ノ區域ニ於テモ果
シテ慣習法アリトモハ慣習法ハ如何ナル理由ニ基キ効力ヲ有スルヤ之レ頗ル困
難ナル尙懸ナリ學者或ハ全ク証明ニ斷念シテ慣習法ノ効力ヲ單ニ一事案ト
認めルヲ以テ満足セルモノナリ

普通ノ學說ニヨルハ法ノ法源ハ凡テ國民ノ法律上確信ニテルナリ法律上ノ確信ハ
或ハ直接ニ法ヲ生スルコトアリ或ハ間接ニ法ヲ生スルコトアリ其直接ニ法ヲ生スル方ハ
慣習法ニシテ間接ニ法ヲ生スル方ハ成文法ナリ
如此ニ慣習法カ國家ト干係ナシニ獨立ニ効力ヲ有シテ能ク國家ヲ羈束スルコト

ヲ得ハトモハ国家ハ自ら加ヘル制限ノ外法律上意思ヲ制限セラルモノアリト認
メサルヘカラス之ハ国家ノ觀念ニ及スルモノナリ夫レ故ニ慣習法ハ国家オ之ヲ認ムル
ニヨリ初メテ法規タル効カシ有スルモノナリ国家ノ意思ニ及シ効カシ有スルモノ
ニアラス

慣習法ハ国家オ之ヲ認ムルニヨリ効カシ有スレテコトヨリ三ノ結果ヲ生ス

第一、慣習法ハ国家ノ命令ヲ以テ之ヲ廢シ變更スルコトヲ得

慣習法ヲ廢スルハ必スシモ法律ヲ以テスルニテ要セス事柄ヨリテハ命令ヲ以テ
スルモ差支ナシ法律ヲ以テスルガ命令ヲ以テスルガハ憲法ニ定ムル所ノ法律命
令ノ分解ニヨリ外ナシ

第二、国家ハ法律ヲ以テ全ク慣習法ヲ禁シ又ハ制限スルコトヲ得

是等ノ場合ハ慣習法ヲ認メサルニテ其例ハフランス又慣習法ノ發生ヲ制限ス
ル國ナリ又一定ノ期限ヲ定メテ慣習法ヲ認ムル國ナリ又慣習法ヲ全ク認メス
ルニテ其事者意思解釈ヲ基トスルアリ又慣習法ハ高法トカ又法律ノ明文ヲ
待テ初メテ認ムルモノナリ

第三、慣習法ハ法律ノ明カニ法律ノ不適用ニヨリテ廢止ニ似スルコトヲ

禁シテ居ル場合ハ勿論仮令此ノ如キ明文ナクモ国家ノ命令ヲ
廢止變更スルカナシ

此点ニツキテハ學者ノ説區々ニ分レタリ其ノ一説ニヨリハ慣習法ハ如何ナル時ニ於
テモ成文法ヲ廢止變更スルコトヲ得ルモノナリ仮令法律ノ慣習法ノ發
生ヲ禁スルテ明文ヲ設ケタルモ此ノ如キ法文ハ何等ノ効ナシ

又尚一ノ説ニヨリハ成文法ハ慣習法ノ發生スルヲ禁スルコトヲ得此ノ如キ禁令
ノ存在スル間ハ慣習法ハ成立スル能ハズ併慣習法ヲ禁スルテ明文ナシ
自身カ慣習法ニヨリテ廢止セラルコトヲ得此禁止ノ明文カ慣習法ニヨ

リ廢止セラレタル以上ハ如何ナル明文ヲモ廢止變更スルコトヲ得

下併慣習法ヲ國家ノ認ムルニヨリ効カシ有スルモノトスレハ國家カ之ヲ認
ムルテフ國家ノ意思ヲ推測シ得ル場合ニ非カレハ慣習法ニ効カアリト云フ
ヲ得ス國家ノ命令ノ申ニ明ラカニ反對ノ規定ヲ設ケル場合ニ於テハ固
ヨリ國家ニ慣習法ヲ認ムル意思アリト云フコト認ムルコト能ハル故此場合ニハ

慣習法ノ効力ヲ有スルヲ得ス夫故慣習法ニハ国家ノ命令ヲ廢止變更スルノカキレ作併成文法ハ往々久キヲ経テ消滅ニ皎スルコトヲナキニアラス之レ決シテ成文法カ慣習法ニヨリ廢止セラレタルニアラス法律カ初メヨリシテ或ル社会ノ状態ノ下ニ於テ適用セラレト云フ精神ヲ有スル場合ニ於テ社会ノ状態カ一変シタルトキハ法律カ元ヨリシテ其ハ變更シタル社会ノ状態ノ下ニ於テ適用セラレト云フ精神ヲ有セザリシモノ故之ヲ適用セザルナリト云フ意立法者ノ意思思ノ解釈ニ外ナラス慣習法ハ成文法ト共ニ国法ノ法源ニモナルク法令ノ漸ク具備スルニ從ヒ漸ク其重要ノ度ヲ減スルコト一般ノ軌カナリ

第一編 總論

第一章 統治権及其性質

第一節 統治権ノ作用ハ命令及強制ニ止マラス

統治権ハ国家ノ意思ノ力ナリ国家ノ意思ハ私人ノ意思ニヨラスレテ私人ノ意思ヲ制限スルカヲ有ス之ヲ稱シテ命令権ト云フ一私人ト屈他ノ私人ニ對シ行爲不行爲ヲ要求スルノ権ナキニアラス又併此權利ハ元義義務者自己ノ意思ニ基キモノナルトキハ兩者ノ關係ハ矢張對等ノ干係ニシテ服從ノ干係ニアラス又一方ノ權利ハ要求ノ權利ニシテ命令ノ權利ニアラス及之國家カ臣民ニ行爲不行爲ヲ命スルハ臣民ノ意思ニ基キテアラス兩者ノ關係ハ命令及服從ノ干係ナリ如此統治権ハ當然命令権ヲ包含シ若シ命令権ヲ失ハハ統治権タル性質ヲ失フ尔併統治権ハ命令権ト合シノ觀念ナリトスルハ亦誤ナリ

統治権ノ作用ハ決シテ命令ニ止ルモノニアラス國家ハ私法上ノ干係ニ付テハ私人ノ對等ノ位置ニ立ツハ進項ノ國家皆然ラザルハナシ加之國際ノ干係ハ明ニ命令

令権ノ作用ヲ容レサルモノナリ若シ統治権ヲ以テ命令権ト同じ意味ナリトモハ
統治権ハ国家ノ意思ノ全体ヲ含ムモノト云フヘカラス帝國憲法ニヨルモ統治
権ノ觀念ハ命令権ノ觀念ヨリモ廣キモノナルコトヲ知ルヲ得憲法ノ才四條ハ
天皇ハ統治権ヲ總攬シ憲法ノ條規ニヨリテ之ヲ行フハ是ハ憲法ノ
總則トモ云フヘキモノニキテ條約ノ締結ノ如キモ統治権ノ作用ナリト認メサルハ
言フ俟タズ換言スレバ統治権ハ命令権ニテラサル国家ノ意思ノ作用ヲ含ム
モノナリ又一方ニ於テハ命令権ヲ以テ國家ノ專ラ独占スル所ナリトスルモ誤ナリ
近頃ノ國家ハ大抵臣民ヲ認メテ對等ノ權利主体トシ公法ノ区域ニ於ケル外ハ権力ヲ
係ラ認メサル例トスルモノナラズ併テ萬古不易ノ原則ナリトスルコトヲ得ス現ニ
今日ニ於テモ私人ノ利益ノ範圍内ニ屬スルモノトシテ親権ヲ認ムルモノナキ
ニアラス

又公法ノ區域ニ於テハ公共団体ヲ其団体員ニ對シ命令権ヲ行フヘキハ不可
疑ノ事實ナリ此命令権ハ國家ヲ代表シテ行フ所ノ國家ノ命令権ナルカ又ハ団体自
己ノ命令権ナルカ學者ノ説ノ分ル所ナルモ余ノ見ル所ヨリテハ命令権ハ一人格ノ

意思ハ他人格ノ意思ニ對シテ有スルカニモテ意思ニ屬スル一ノ性質ナル故公共団体
ノ命令ハ団体自身ノ意思ナリト認メラレ以上ノ命令権モ又団体自己ノ命令権ナリ
ト云ハルハカラス則チ公共団体ノ信者ト異ナリ所ハ公法上ノ人格ヲ具ヘ獨立ノ意思ヲ具フ
ルモノナリ故ニ公共団体ノ命令ハ団体自己ノ意思モテ公共命令権カ団体自己ノ命令権
ナリト認メラレカラス要之命令権ト統治権ト公一ノ意味ナリトスルヲ得ヌ又公法
ニ特徵ナシテ権力ヲ行使シ定ムルハ其味タシキ事ヲ得タリトスルヲ得ヌ一方
ニ於テハ公法ニテ権力ヲ行使シ定ムルモノナリ國際公法ハ尤モ明カナル例ナリ
一才ニ於テハ権力ヲ行使シ定ムルモノナリ國際公法ニ屬スルモノナリ親族法其例ナリ
統治権ト云ヒ命令権ト云フモ公共國家ノ意思ノ實質如何ニ拘ハラズ一般ノ觀念
ナリ命令権ニテ或ハ特定ノ目的ニ適用セラルモノヲ稱シテ高權(ホトハイシヒト)
ト云フ例、軍事高權、財政高權等ナリ

第二節 統治権ハ分割スヘカラス

統治権ハ國家ノ意思ノ力ナリ國家ハ一ニシテ不可分ナル如ク一人格ハ同時ニ二三ノ
意思ヲ有スルコト能ハサルカ如ク統治権モ又一ニシテ不可分ノモノナリ統治権カ不可

分ナルコトハ 救多ノ機關ヲ共行使ニ參典スルコト能ハスト云フ意ニアラス苟クモ國
家ノ意思カニ敗スルコトノ出来ル組織アル以上ハ統治權ノ分ツヘカラサルト云フ性質
ニ及スルコトナリ例、英、如シ國王ト上下兩院トカ共合シテ立法權ヲ行フモノニテ、獨
者カ論スル如ク統治權ヲ分ツヘカラスト云フ原則ニ及スルモノニアラス (Mackintosh
John) 是等ノ機關カ共同シテ初メテ一ノ意思ヲ生スルニテ各々ノ機關カ各々
別ノ意思ヲ有スルニアラス若シ之ニ及シテ統治權カ救多ノ權カニ分レ是等ノ
權カハ互ニ獨立ノ地位ヲ有ストセハ國家ハニテ意思ヲ有シ到底ハ其人格ヲ失
フニ至ルヘシ之極メテ單純ナル道理ナルモ推分立説ナドハ此單純ナル道理ニ及
スル拘ラヌ一時一般ニ人心ヲ支配シ諸國ノ法制ニモ大影響ヲ及ホセリ
國家ノ機關 (ワウンレヨン) ヲ分テ行政立法及司法ノ三トスルハ近世ノ學者ノ創
設ニカハルモノニアラス例、アリストトテレス、フゾー、クロテユスモ之ヲ説ケリ又之ヲ機
能別ノ各別ノ機關ニ委任スルト云フ説モ已ニロウクニサ朝スモ前世紀ヨリ此世紀ニ
涉リ世人ノ思想ヲ支配セシハモンテスキエーノ説ナリ
モンテスキエーノ説ハ二ノ説ノ綜合ヨリナレリ其一ハ國家ノ機能ヲ分テ立法行政司法

ノ三種トス其一ハ君主政治ト貴族政治ト民政政治ト三ノ政体ヲ綜合シテ一ノ政体トナスノ
説ナリ

國家ノ機能ヲ三種ニ分テ説モ政体ヲ分テテ三種トスル説モ三種ノ機能ノ為メ各別機
關ヲ説クルト云フ説モ共ニモンテスキエーノ創造ニ於ル説ニアラス又下併モンテスキエーノ説ノ
特色ハ三種ノ分配ヨリテ夫ニヨリ治者ノ專横ニ對シ被治者ノ自由ヲ保護セ
トスルニアリ

モンテスキエーハロウクカ人民立權ノ説ニ基キ立法ヲ首位ニ置キ行政外交地位ヲ從屬
ノ地位ニ置クニ及シ三種ヲ互ニ獨立對等ノ地位ヲ有セシメ之ニ結フニ政体論ヲ以
テシ之ヲ以テ人民ノ自由ヲ保護スル目的ヲ達セシメテ故ニモンテスキエーハ一方ニ於テハ國
家ノ機能ノ三種ヲ獨立異種ノ機關ニ分配シ是等ノ機能ハ其權限内ニ於テ全ク
他ノ權カノ支配ヲ受ケサルリ又要トス一方ニ於テハ政体ノ區別ヲ利用シ國王
ニハ執行權ヲ委任シ人民ニハ立法權ヲ附与シ立法權ヲ行フヘキ議會ニ部ハ貴族
ヲ以テ之ヲ占メシメ他ニ部ハ一般人民ヲ以テ之ヲ占メシムルモノナリト論セリ其理由ニ曰ハク
若シ同一ノ人同一ノ團體立法權ト行政權トク併有スルハ自由存在セズ如何トナレハ

君主若ハ議會ハ專横ニ執行スル為メニ專横ノ法律ヲ設ケル也然レ故ナリ司法權カ立法權若クハ行政權ト分處セザレハ又自由ハ存在セズ裁判官カ同時ニ立法者タルハ人民ノ生命財產ヲ司ル權カ專横ニ流ルヘシ司法權ヲ行政權ニ併セハ裁判官ハ變シテ壓制家トナルヘシ及之ニ三權分立ノ制度ニハニ利益アリ

(一) 國家ハ善良ノ法律ヲ得レシ何トナレハ國民ノ全部カ其成立ニ與ル故ナリ
(二) 行政及ヒ司法ノ公平ナルヲ期スルヲ得レシ何トナレハ是等ノ權干ハ他ニ委任ヲ受ケタル事件ヲ執行スルニ止マリ大體ノ原則ヲ破ルコトヲ得サレナリ
モテスキユハ尚ホ英國ノ國法ヲ引用シテ其主張スル制度ノ現ニ實際ニ行ハレ居ルコトヲ示シ英國憲法ノ運用ノ巧ミナルヲ以テ此制度ノ利益ヲ証明セントセリ

此說ハ前世紀及今世紀ニ涉リ一般ニ人ノ思想ヲ支配ス實際ノ憲法モ其跡ヲ留メタルモ拘ラス三權分立論ハ誤ルコトヲ大體ハ皆認メタリ近頃ノ學者カ其ノ誤認ノ(第一)トシテ指摘スル所ハ三權ノ分類ハ不完全ナルニアリ然レ此莫ハ議論ノ本眼目ニ關セサル枝葉ノ衰ナル故カ爲メ三權分立說ヲ上下スルニ是又(第二)トシテ難ハ司法行政共ニ法ヲ施行ニ屬スルモノナルニテモ其別ニテ立法ト相対セ

レハ論理上誤ナリト說ケリ下併此ノ莫モモテスキユノ說ノ眼目タル權カ分立論ノ當否ニ干係セズ(第三)ノ此難ハ英國ヲ以テ三權分立ノ实例トシテ不当トスルニテリ

國家ノ直接權干ニキリキ云フモ英國ノ君主ハ帝ニ行政權干ノ中核ナルニナラス立法權干ノ一要素ナリ國會ノ一般ノ法律ヲ定ムル外ニ性質上行政ニ屬スル事件ヲ議決スルノミナラス責任内閣ノ慣習ニヨリテ事實行政ニ極メテ至大ナル勢力ヲ及

ハセリ下併实例ノ有無ハ三權分立論ノ當否ニ干係ナキハ言フ俟タス三權分立論ノ不當ナルハ國家ノ統一ヲ害スルニテリ各獨立ノ權カニテ同一ノ權カニ屬スル異

種ノ作用ニ外ナラス是等種類ノ異ナル作用モ獨立ナリモノニテラスレテ行政及司法ハ常ニ立法ノ下ニ立ツ

モノナリソレ故立法權干カ法律ヲ以テ本來行政及司法ニ屬スルキ事柄ヲ定ムルモ之ヲ以テ行政又ハ司法ノ權限ヲ犯シタルモノトスルヲ得ル故ニ三權ノ權能ノ間ニ抵觸ノ生ス

ルコトノ其權干ノ間ニ權限ノ衝突ヲ生スルコトナキナリ若シ之ニ及シ三權カ互ニ對等ニテ

獨立ノモノナリセハ其衝突ヲ調和スルノ道ナシ夫レ故ニ三權分立論ハ國家ノ統一ヲ害スルモノトスルハ之カ爲メナリ

米國ノ如キ三權分立論ニヨリ憲法ヲ定ムル國ニ於テモ

三権ノ上ニ憲法制定権アリテ、國家ノ說統一ヲ失ハサルコトヲ得ルナリ。

又コンスタント氏ノ三權ノ外ニ三權(ロイヤルパワー)又ハ中立權(ニユトラルパワー)ナルモノヲ

置キ統治權ヲ分テテ立法權、行政權、司法權ト四種ニテハ畢竟皆三

權分立論カ國家ノ統一ニ害アルコトヲ感シタルニ外ナラス

立法行政司法ノ三、國家ノ機能ハ三箇ノ柱立對當ノ權カト着做スコト能ハサルト同

シク是ニテ三ノ機能ヲ全ク異ナリタル極テ分配スルコトヲモ得ス殊ニ立憲君

主國ニ於テハ一切ノ統治權ハ凡テ元首ノ從攬スル所ニテ君主ハ独リ行政ヲ從攬ス

ルノコトヲス立法權モ亦君主ノ大權ナリ如此純然タル三權分立ノ主義ハ國法ノ原則

トシテ之ヲ認ムルコトヲ得サルモ政治上ノ主義トシテ全ク要用又ハ誤ナリト云フコトヲ

得ス三種ノ機能、為ニ絶對ニ異ナリタル極テ之ヲ認ムルコトハ固ヨリ実行スルコトヲ

得サルモ或程度マテ極テ異ニスルハ唯々実行スルヲ得ルノコトヲス又權カノ濫用

ヲ防ク為寧ロ必要素ナリト云フコトヲ得故ニ諸國ノ憲法ハ大概純然タル三權分

立論ヲ排弁スルモノニシテ此說ニ採ル所アルハ各其軌ヲ一ニスル所ナリ

第三節 最高權ヲ論ス

最高權ハ直接又ハ間接ニ自己ノ意思ニ基キテ外ハ法律上制限セラルル意思カ

カナリ

(一) 最高權ハ法律上制限セラルル力ナリ

自然ノ道理又ハ力ニヨリ制限セラルルハ固ヨリ最高權ノ觀念ニ及スルモノニアラス幸

實不能ノコトハ國家ノカト雖モ亦及ハサル所ナリ殊ニ國家ノ人民ニ行為不行爲ノ餘

スルコトヲ得ルモ其心ノ内ノ作用ニ至リテハ之レニ干渉スルヲ得ス國家ハ事實上ノ制

限ノ外ニ徳義ニヨリ制限セラルト云フコトハ言テ候タサルナリ國家ハ又其實力ニ依

ラサルカ否メニ自己ノ意思ヲ遂行シ能ハサル場合ナキニアラス是等ハ皆法律上ノ

制限ニアラサル故最高權ノ觀念ニ影響スル所ナシ

(二) 最高權ハ他人ノ人格ノ意思ニヨリ制限セラルル力ナリ

故ニ國家ヲ其意思ヲ制限スルニハ最高權ノ觀念ニ及スル所ナシ公法ハ國家カ自

ラ加フル制限ナルコトハ曾テ之ヲ論セリ國家カ自ラ加フル制限ハ公法ノ基礎ナリ

下併此制限ハ他人ノ意思ニヨリ制限ヲ加ハサルモノ故少しモ最高權ヲ害セス

(三) 最高權ハ直接又ハ間接ニ自己ノ意思ニ基カスレテ制限セラルル力ナリ

故ニタトヒ他人ノ意思ニヨリ制限セラルモ其他人ノ意思カ本来自己ノ意思ニ基
クトキハ爾等ニ自己ノ意思ニ基ク故最高権ノ觀念ニ及スルモノニアラス國家他
約ニヨリ他ノ國家ニ對シ義務ヲ負フコトアリ此場合ニ於テハ國家ハ
ノ國家ノ意思ニヨリ其意ヲ制限セラルモノナリ私人カ國家ニ對シ公私ノ權利ヲ
有スルモ亦同シ凡ソ是等ノ場合ニ於テハ國家カ他人ノ意思ニヨリ制限セラルモ
其制限ハ本来自己ノ意思ニ基クモノ故最高権ノ觀念ニ及セス
前述ノ如ク最高権ハ主トシテ消極ノ觀念ナリ併シ此消極ノ側ニ伴ヒテ積極ノ
側面アリ最高権ヲ有スル人格ノ意思ハ無限ナリトモ他ノ人格ノ意思ヲ與
限ニ制限スルカヲ有セサルハカラス故ニ最高権ニハ消極ノ側ト積極ノ側トナリ消極
ノ側ヨリ見シハ最高権ハ他人ノ人格ノ意思ニ服従セサルヲ云ヒ積極ノ側ヨリ論スレハ
他人ノ人格カ其命令ニ服従スルヲ云フ者カ或ハ消極ノ側ヨリヲ稱シテ最高権
ノ外面ト云ヒ積極ノ側ヲ稱シテ最高権ノ内面ト云ヘリ
最高権ハ此ノ如ク命令權ヲ包含スルモ最高権ヲ有スル國家ハ必スシモ現ニ社會ニ
於ケル一切ノ事實ニワキ命令權ヲ實行スルヲ要セス國家ハ自ラ其權限ヲ一定ノ範圍
ニ限リ其他ノ範圍外ニ出ラハ全ク人民ノ自由ニ放任スルカ又ハ他ノ團體ノ事業ト認
メテ置クコトアリ下併最高権ヲ有スル國家ハ何時ニテモ自ラ其權限ヲ変更伸縮
スルノ權限ヲ有セサルハカラス 所謂權限權限
ハ此權ヲ云フナリ天故救多ノ者カ權限權限ヲ以テ最高権ノ特徴トスル決シテ
不ヨナラス

最高権ハ分クコトヲ得ス消滅スルコトモ得スト云フハ前述ノ最高権ノ性質ニヨリ
明ナリ故ニ同一ノ地域内ニ於テハ唯一ノ完全ナル最高権アルコトニテニ最高権アル
ヲ得ス又不完全ナル最高権アルコトヲ得ス聯合國家ニ於テハ各國ハ最高権ヲ有
セスニテ聯合國家独リ最高権ヲ有ス及之單独ノ國家ハ皆最高権ヲ有ス

第四節 統治權ノ總攬者及國家ノ元首ノ事ヲ論ス

統治權ノ總攬者ハ統治權ノ主体ト云フ意味ニアラス統治權ノ主体ハ國家ニ
ハ統治權ノ觀念ヨリ明ナリ統治權ノ總攬者ハ統治權ヲ行フ權限ト云フ意
味ニアラス統治權ヲ行フ權限ハ千差万別ナリ是等ノ權限ハ皆統治權ヲ總攬
スルモノト云フコトヲ得ス統治權ノ總攬者ハ統治權ノ行用ヲ總アル國家權干
ノ意味ナリ

国家ノ権干中ヲ自ラ自己ノ権限ヲモ無限ニ伸縮スル権ヲ有スルモノヲ統治権
ノ行使ヲ総フル権干ト云フ此ノ如キ権干ハタトヒ現ニ自ラ一切ノ統治権ヲ行ハストモ
其必要ト認ムル場合ニハ何時ニテモ他ノ権干ノ権限ヲ奪ヒ之ヲ己ニ集ムル
コトヲ得下併国家権干ノ権限ハ憲法ニ於テ大体ハ定マリ居ル故統治権行
使ヲ総フルモノハ憲法ヲ変更スル権限ヲモ有スルモノナラサルヘラス之ヲ畧言スルハ
憲法ヲ変更スルノ権限ヲ有スルモノハ国家最高権干ニシテ則チ統治権
ノ総攬者ナリ

統治権ヲ総攬スル権干権限ハ尤モ大ナル権限ナル故或ハ之ヲ称シテ最高権又
ハ主権ト云フ其権干ヲ称シテ最高権ノ主体亦ハ主権者ト称スルコトアリ例
主ノ主権者ト称シ国会ヲ主権者ト称シ人民ヲ主権者ト称スルノ类ナリ主観的
ノ意味ヲ客観的ノ意味ニテラス
統治権ノ総攬者ハ又モ常ニ間断ナキ居動ク要セス又モ間断ナク成立スルヲ
要セス下併国家ノ生活ハ日モ休止スルコトナキモ故国家ニハ外ニ對シテ常ニ其ノ
間断ナキ生活ヲ代表スル権干ナカルヘラス此ノ如キ権干ハ則チ国家ノ行政ヲ総攬

ル機干ニシテ之ヲ國ノ元首ト云フ

独裁君主国及立憲君主国ニ於テハ國ノ元首ハ則チ統治権ノ総攬者ナリ下併統
治権ノ総攬者ト元首ト必スモ常ニ全ナラス民主国ノ元首ハ統治権ヲ総攬スルモノ
ニテラス例ハ仏米此二國ノ大統領及瑞西聯邦參議院ハ憲法変更ノ権限ヲハ
有セサルヘクナラス立法権ヲモ有セサルモノ下併憲法変更ノ機干及立法ノ機干ハ常時
成立スルモノナラスシテ必要ナル場合限リ活動スルモノナリ間断ナキ活動ニヨリ國家ノ
政治ノ風ヲ統フル所ノ機干ハ大統領又ハ聯邦參議院ナリ故ニ是等ノ國ニ統治権ノ
総攬者ト元首トハ相異ルモノナリ

第五節 政体ノ種類ヲ論ス

國家ノ政体ハ標準ヲ異ニスルニ從ヒ種々之ヲ分殊スルコトヲ得下併國家ノ政体ハ統
治権ノ主体ヨリ區別スルコトヲ得ス統治権ノ主体ハ何レノ國ニ於テモ常
ニ全一ナリ

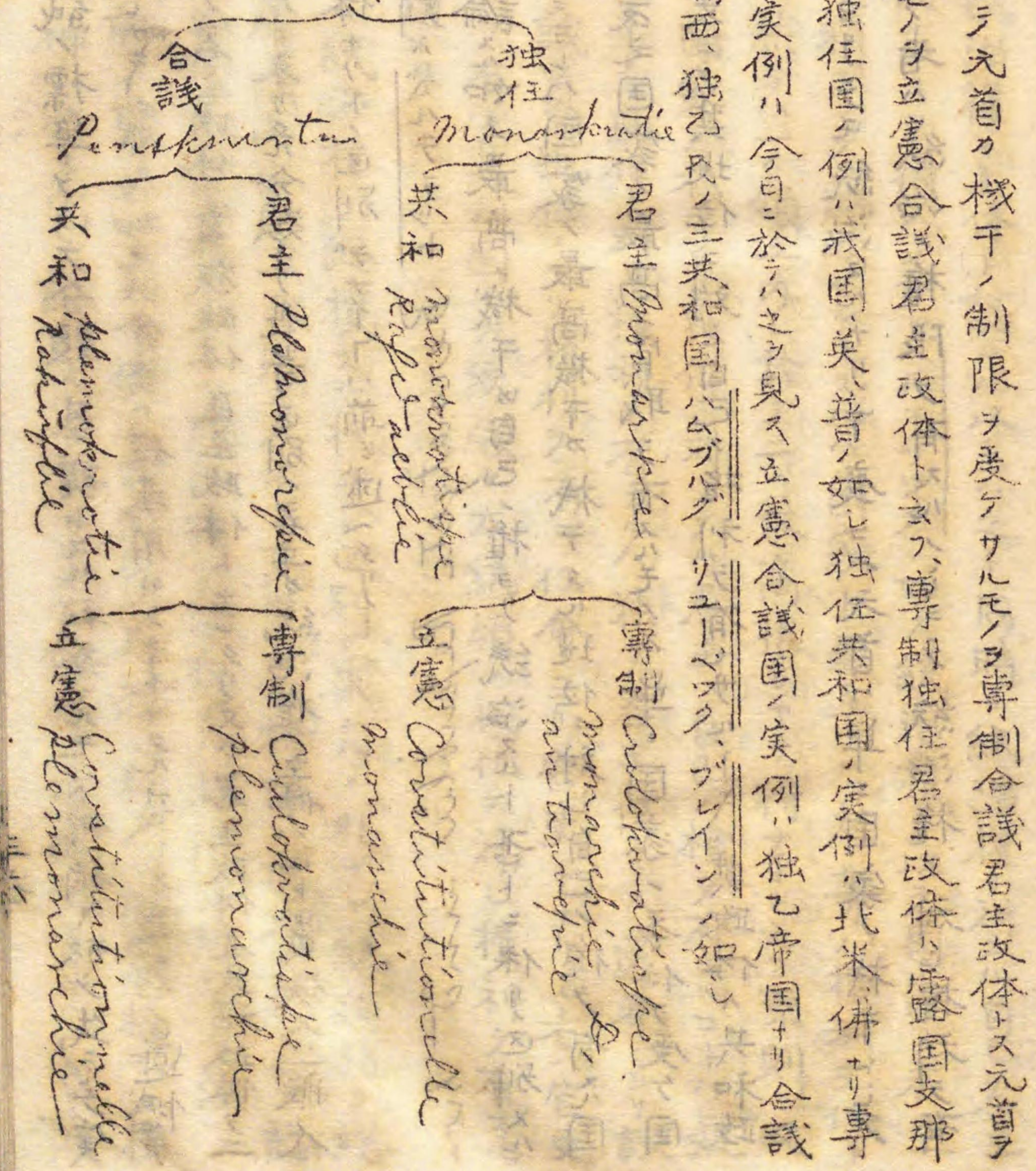
政体ノ種類ハ國家ノ元首ノ組織及地位ヨリ之ヲ區別スルコトヲ得又統治権ヲ統
攬スル機干ノ組織並ニ統治権ヲ行フ方法ヨリ之ヲ區別スルコトヲ得元首ノ組織

並ニ地位ヨリ區別スハ左ノ如キ分類ヲ生ス
 國家ノ元首ハ或ハ一人ヨリ成立スモノアリ或ハ數人ノ合議体ヨリ成立テ居ルモノアリ其
 一人ヨリ成立スル政体ハ之ヲ独裁任政体ト云フモ數人ノ合議体ヨリ成立スル政体ハ之ヲ合
 議政体ト云フ元首ハ無答責ナルコトアリ又有責任ナルコトアリ独任政体ニシテ無答責
 ノ元首ヲ有スルモノヲ独任君主国ト云フ元首カ答責ヲ有スルモノヲ独任共和國ト云
 フ合議政体ニシテ無答責ノ元首ヲ有スルモノヲ合議君主政体ト云フ元首カ答責
 ヲ有スルモノヲ合議共和政体トイフ
 元首カ答責ヲ有スル政体ニ於テハ元首ノ外ニ少クモ元首ノ責任ヲ訂スル機干ナカル
 ハカラス夫故独任並ニ共和合議共和政体ハ元首ハ必ス他ノ機干ニヨリ制限セラ
 レサルヘカラス無答責ノ元首ヲ戴クノ政体即独任並ニ合議君主政体ニ於テハ
 元首ハ他ノ機干ノ制限ヲ受クルコトア受ケサルコトアリ其制限ヲ受クル場合ニ於テモ元首
 ハ必ス自ら責任ヲ負フコトナク國務大臣カ独リ政務ノ責ニ任ス独任君主政体ニシ
 テ元首カ他ノ機干ノ制限ヲ受ケサルモノヲ專制独任君主政体ト云フ他ノ機干ノ
 制限ヲ受クルモノハ立憲君主独任政体ナリ

合議 君主政体ニシテ元首カ機干ノ制限ヲ受ケサルモノヲ專制合議君主政体トス元首ヲ
 制限スル機干ナルモノヲ立憲合議君主政体ト云フ專制独任君主政体ハ露國支那
 等ナリ立憲君主独任國ノ例ハ我國英普如レ独任共和國ノ实例ハ北米併ナリ專
 制合議君主國ノ实例ハ今日ニ於テハ之ヲ見ス立憲合議國ノ实例ハ独乙帝國ナリ合議
 共和國ノ实例ハ瑞西独乙民ノ三共和國ハムブルグ、リニッテ、ブレイン、如シ

Governments
 Staatsverfassungen

政体分類



今併此分業ノ單純ノ標準ヲ以テ分類ノ基礎トスル利益スルモノ併稱ヤ形シ先ニテ實
ヲ後ニスルト云フ恐レナキニ非ス加之此分業ハ從來用ナラシ来リタル甚シク遠カ
ルノ遺憾アリ及三體政ヲ分テ君主政體、貴族政體、民主政體トナシタリ又ハ君主政體及共和政體ヲ二
種ニ區別スハ昔ヨリ用ナラシル分類ナリ是等區別ハ君主カ統治權ノ主体ニル
ト貴族又ハ庶人
民カ統治權ノ主体ナリトノ區別ヲナイコトハ前ニ述ヘタリ

又是等ノ政體ノ區別ハバルテット *Bernhardy's Republikanism*

*論*ス如ク最高ノ權干ク自己ノ權ヨリ統治スルト否トニ依リ區別スル
ニアラス今氏ノ説ニヨレハ國家ノ最高ノ權干ク自己ノ權ヨリ統治スルト否トニ依リ區別スル
ハ君主政體ナリ又之國家ノ最高ノ官職シ有スモノカ單ニ國家ノ委任ヲ受ケ國
家ニ使役セラハルニ止テ其地位ニ對シ自己ノ權利ヲ有セサルトキハ共和政體ハ共和政
體ナリ

君主ハ自己ノ權ニヨリテモ統治スルナリト度コノ元首ハ單ニ國家ノ權干ク
統治スルナリ 後ノ者ハ統治ノ權限ヲ有スルハニニテ統治權ニ對シ權利ヲ有
スルニアラスト

今併國家ヲ以テ統治權ノ主体ト認ムル以上ハ之ト同時ニ統治權ニ對スル自己君主
自己ノ權利ヲ認ムルヲ得ス若シベルチナクハ如ク統治權ヲ以テ國家ト君主
ト共同ニ有スル權利トシテ說明セントスルハ國家ト君主トハ對等ノ權利主体ト
看做サハルニラス然ラハ一ノ領土内ニ於テニ最高權ヲ得ナリト云フ原則ニ及
セサルハカラス又之國家ノ權干ク自己ノ權ニ對シテハ君主ハ自己ノ權ヲ有スルコトハ疑
ヲ容セス今併權干ク自己ノ地位ニ對シテハ權利ヲ有スルハ獨リ君主ニ限ラス選舉ニヨリ
負トナリタルモノハ議員ノ地位ニヨリ權利ヲ有スル命令ヨリ官吏トナリシ者ハ官吏
ノ地位ニ對シ權利ヲ有スル共和國ノ大統領モ大統領ノ地位ニ對シ權利ヲ有スル
ハ疑ヲ容レサル所ナリ

要之政體ノ區別ハ統治權ヲ總攬スル權干ク區別ニ求ル外ナシ 統治權ヲ總
攬スル權干ク現行法上憲法ノ規定メ及之ヲ變更スル權限ノ所在ニヨリ之ヲ認
メサルハカラス一ノ或國民ノ思想ニヨリ統治權ヲ總攬スル權限カ何人ヨリ源ヲ
發シテ居ルモノカハ敢テ問フ所ニアラス例ハ或國民ノ思想ニ於テハ國家權干ク權
力ハ凡ソ其源ヲ神ニ發セリト認メラルコトナリ今併神主政體 *Theocracy*

ハ政体ノ一種ト認ムルコトヲ得ス諸国ノ憲法ハ又往々主権ノ国民ニ存スルコトノ明
ニ規定セハアリ(瑞ノカントン米諸州)此原則ニ基キ是等ノ国々ノ憲法ハ人民ノ
総会トカ又ハ人民ノ選挙ニヨリ組織セル議會ニ憲法変更ノ権限ヲ與フルヤリ此
場合ニ於テハ主権カ民ニ在ル原則ハ国法上ノ一原則ト認ムルヲ得(例米諸州
瑞諸州)反之白希ルーマニアノ諸国ニ於テハ憲法カ主権在民ノ原則ヲ掲ケタ
ルニ拘ラス憲法変更ノ権限ハ君主及議會ニ存セリ

是等ノ場合ニ於テハ主権在民ノ原則ハ單ニ政權上ノ主義ヲ掲ケタルニシテ國
法上ノ效果ヲ生セス要スルニ統治權ノ綜攬者ハ現行法ニ於テ憲法変更ノ權
限ハ杖ヲナリ備テ統治權ヲ總攬スル杖ヲ區別シ後ハ三種ノ政体ヲ區別スルハ君
主政体ハ一人ヲ以テ統治權ヲ總攬スル政体ナリ貴族政体及民主政体ハ貴族
スハ人民ヲ以テ統治權ヲ綜攬スル政体ナリ併人民ナルモノハ國家ノ外ニ一
団体ヲナスモノニアラス後テ意思ヲ有セサルナリ夫レ故人民ヲ以テ一國ノ意
思ヲ成立セシムル杖ヲトスルヲ得ス夫故民主國ニ於テ統治權ヲ綜攬スル杖ヲ
一定ノ法則ニヨリ議決スル所ノ人民ノ合議体ナリ又ハ人民ノ選挙ニヨリ組織ス

スル議會ナリ貴族モ又單ニ法律上各個人ノ自由ニ認ムルノ出来ナイ限界ヲ有ス
ル人民ニ一階級ヲ指スニ過キサル故法律上一定ノ組織ヲ有スルモノニアラス

夫故貴族政体ニ於テ統治權ヲ總攬スル棒ヲハ貴族ノ階級ニ屬スルモノヨリ
組織ニ一定ノ法則ニヨリ決議スル合議体ナルカ又ハ其選挙ニヨリ組織セル議
會ナリ貴族政体民主政体ヲ總稱シテ共和政体ト云フコトナリ純然タル貴族政体
ハ只今ハ存在セサル故之ヲ措キ君主政体ハ更ニ分テ独裁君主政体ニ憲法君主
政体トニトス独裁君主政体ニ於テハ君主ハ他ノ棒ヲ為メニ制限セルルヲナシ立
憲君主政体ニ至リテハ君主ハ憲法ノ定ル方法ニ由ル外國家ノ政務ヲ行フヲ得
ス殊ニ一定ノ事項ヲ付テハ人民又ハ其貴族ノ合議体又ハ其選挙ニ依リ組織セル
合議体ノ便宜ヲ經サル可カラス民主政体ハ更ニ分テ直接民主政体ト代議民主
ニトス直接民主政体ハ人民中一定ノ資格アルモノハ直ニ統治權ヲ總攬スル合
議体ヲ組織セルモノヲ云フ代議民主政体トハ人民ノ選挙ニ依リ組織セル議會
統治權ノ綜攬者トスルモノヲ云フ代議民主政体ノ实例ハ仏及独ノ三ノ町トナスコト
ニ

Swiss 谷家國ニ聯合國家ノ國家聯結セル深結果トニ多少特例アリ故

之ヲ除キ各州ニ付テハ合衆國ノ各州ニ付テハ憲法ノ變更ハ立法議會ノ議決
 人民ノ投票ヲ要スル故直接及代議ニ性質ヲ兼ネタルモノト云フヲ得又瑞
 州ニ直接民主政体ヲ有スルモノアリ又直接代議ニ性質ヲ兼ネタルモノアリ
 君主政体ニ於テハ統治權ノ總攬者ハ同時ニ國ノ元首ナリ及之現在民主國ニ於テ
 ハ統治權ヲ總攬スルモノト元首トハ全ク異ナリ異ニスモ昔シテ同シク民主國ナル
 モ其元首ノ組織地位カ全ク相異ルアリ合衆國及其諸州並ニ仏ハスヲ以テ元
 首トセリ瑞西及英諸州並ニ獨乙ノ三市ハ合議体ヲ元首トセリ又那威ハ世襲ニメ
 無答責ノ君主ヲ以テ元首トセシメ議會ハ結局國王ノ裁可有無ニ拘ラス法律ヲ定
 憲法ヲ變更スルヲ得ル故ツマリ民主政体ニ屬スト云ハサハカラス三種ノ政体ハ往々相結合
 シテ一政体ヲナスコトアリ例ハ英、伊、白ノ如キハ君主ト議會ニ於テ統治權ヲ總攬ス
 彼ノ立憲君主國ニ於テカ如ク君主ヲ專ラ統治權ヲ總攬シテ議會ハ單ニ愷賛
 スルニトハ異リ立憲國並國ニ於テハ君主ノ權ハ常ニ広レト云フ推測ヲ受ケルモ君
 主ト議會ト共ニ統治權ヲ總攬ス國ニ於テハ君主ハ又スレモ如斯推測ヲ受ケス現
 ニ白ノ憲法ノ如キハ君主ハ憲法ニヨリ明カニ認メラレテ居ル權ニテ有スルコト云フコト

規定セリ此種類ノ政体ハ之ヲ稱シテ君民同治ノ政体ト云フコトヲ得或ハ國會君主
 政体ト云フ英國ニハ三ノ政体ノ結合シタルモノニテ白ノ如キハ君主政体ト民主政体トノ
 結合シタルモノナリ
 佛ハ立法院ト元老院トアリ大統領ハ之ヲ拒否スルコトヲ得又憲法變更ハ兩院ニヨ
 リ成立スル議會ニシテ決シテ大統領ハ之カ再考ヲ求ムルコトヲ得ス英ハ上下兩院ノ
 決議シテ君主カ裁可スレハ可ナリ白ハ通常立法ハ國王ト西院ト三ツ共同シテ之ヲ
 行フ憲法變更ハ概テ同シク手續異ナルニ蘭モ白ト同シク塊ハ通常ノ立法ハ兩
 院ノ一致ト國王ノ裁可ヲ要ス憲法變更ニ付テハ手續異ルニ以テ原則トシテ立
 法權ハ議會ト國王ト共同シテ之ヲ行フトセリ西モ國王ト共同シテ行フトアリ那威ハ
 「ストルチング」ノ概テニヨリ立法權ヲ行フ三回ノ議會カ同一ノ事ヲ議決シ而カモ
 三回ハ異リタル議會カ引續キテ其間ノ間ニ會期ヲ通常ニ經タテ居レハ國王ノ裁
 可如何ニ拘ラス法律トナル而シ憲法變更モ此「ストルチング」ニテ行フ

君主政体 (獨裁君主政体)
 君主同治政体 (君民同治政体)
 立憲君主政体 (英)

貴族政体

民主政体 (直接民主政体 代議民主政体)

(14)

第六節 國家ノ結合

國家ノ最通常ナル形ハ單一ノ國家ナリ單一ノ國家ハ其領土内ニ於テ優等又ハ全等ノ権力ヲ認ムルヲナシ故ニ單一ノ國家ハ何レノ場合ニ於テモ最高権ヲ有セリ然レモ國家ハ往々他ノ國家ト結合ノ干係ヲ有スルヲアリ如此國家ノ結合ハ其形其自的種々ナシ且之ヲ大別シテ条約的即國際法上ノ結合及團體的結合即國法上ノ結合ノ二種トスルコトヲ得「ラバンド」ノ語ヲ依リテ之ヲ云ハハ前者ハ權利干係ニシテ後者ハ權利主体ナリ

此等二種ノ結合体ハ亦ハ國家ノ結合ニ似テ其完全ノ結合ニ非ルモノナリ身上結合即之ナリ身上結合ハ二或ハ以上ノ國ニ於テ同一ノ君主ヲ戴キ而モ各其領土ヲ別異シ各獨立ノ憲法獨立ノ統治権ヲ有スル干係ナリ兩國カ合一ノ君主ヲ戴クハ偶然ノ事實ニシテ一國ノ國內法ニヨリ其君主タル所ノ自然人カ合時ニ他國ノ國內法

ニ依テ其君主タルモノニシテ兩國カ合一ノ君主ヲ戴クハ其共同ニ遵奉ノ義務ヲ有スル法規又ハ條約ニヨルモノニテラス身上結合ハ又場合ニヨリ一國ノ君主カ法律ノ規定ニヨルニ非スレテ他ノ新造國又ハ皇統ノ斷絶ニ由リ所ノ國家ノ君位ヲ受諾シタル如キトニ依リ生スルヲアリ及今白耳英國王カテ八百八十五年ニコンゴール國ノ王位ヲ受諾シタル如キ即其例ナリ何レモセヨ兩國カ合一ノ君主ヲ戴クハ偶然符合ニ過キスレテ兩國ハ干係ハ全ク別人ヲ君主ニ戴クトモ度モ異ル所ナシ故ニ身上結合ハ結合ナシトモ結合ハ笑ナキナリ

國家真正ノ結合ニ種々國際法上ノ結合トス單一ノ國家ハ最高権ヲ有スルヲ以テ他ノ國家ノ意思ニ依テ束縛セラルヲナリ然レモ近代ノ國家ハ互ニ密接ノ干係ヲ有シ從テ其共全ノ利益ヲ進ムルカ為メニ條約ニヨリテ自ラ義務ヲ負擔スルハ數カラス而シテ如此條約ハ各國ノ共全ノ行為ヲ約束スルモノ多シ例ハ通商條約關稅條約郵便ニキスル條約如キ其例ナリ然レモ其大ニ著キモノハオ三ノ國家ニ對スル共全政治上ノ行為ヲ約束スルモノニシテ殊ニ必要ノ場合ニ際シテ兵力ヲ以テ互ニ相援ケルコトヲ約束スルモノナリ如此條約ヲ稱シテ全盟ト云フ然レモ國家ハ單一ノ時ノ

利益又一部ノ利益ノ為メニ経済上ノ条約ヲ結ビ不念盟ヲ結ビ又国家全
体ニ繁栄ト及国力増加ヲ圖ラサルカニカニカニ外國ニ對シテ其権力ヲ共同ト
スニ永久ニ共同ヲ形スルコトアリ如此結合ヲ称シテ国家聯合トシテ国家聯合於テ
聯合シルハ各國ハ国家聯合ノ中央権力ニ屬スル如クノ権限ヲ聯合條約ヲ變更シ
依テ拡張シ又ハ減縮スルヲ得故ニ最高権ハ各國ニ屬シ各國ハ國際法上ニ於テ
モ完全ナル權利主体ナリ之ニ反シテ国家聯合ハ本来聯合トシテハ國際法上ノ權利
主体ニ非ス唯聯合各國ノ代表者トシテ權利ヲ行使スルニ過キテ聯合
ノ條約ハ各國ノ國際代表者ヲ全然聯合ノ中央権力ニ委任スルヲ得テハ各國
カ公使ヲ派遣スル權ト相並テ之ヲ中央権力ニ委任スルヲ得テハ各國
聯合ノ中央権力ノ決定ハ各國ノ任意ニ其自己ノ権力ニ依テ之ヲ各國內ニ公布スル
ニ依テ人民ニ對シテ効力ヲ得国家聯合内ノ各國カ各別種ノ憲法ヲ有スルコト
得ハ勿論ナリ千八百十五年ヨリ千八百六十六年マデノ獨乙聯邦ノ如キハ即テ国
家聯合ニ屬ス

国家結合ノオ二種ハ國法上ノ結合ナリ共ニ物上結合ト云ヒ其一ヲ聯合国家トイ

フ物上結合ハ數多ク獨立ノ国家カ其領ノ區別ヲ保テ各別ノ憲法ヲ有シテオラ共同
ノ統治權ノ總攬者ノ下ニ永久ニシテ法律上解クヘカラサル結合ヲ組成シタルモノナリ
物上結合ハ身上結合ト異リテ其ノ法規ニヨリテ統一ノ統治者ヲ戴クノ義務ヲ
有スルモノナリ此法規ハ或ハ條約ニ基ク所ノ各國憲法ノ規定ニ存在スルコトアルヘ
ク又ハ軍ニ慣習ニ基クコトアルヘク或ハ西國カ共同ニ有セン優等ノ権力ニヨリテ
典ヘラルコトアリ物上結合ハ一ノ國際法上ノ權利主体ナリ結合ノ目的ハ第一ニ共同
ノ外部ニ對スル代表ヲ有スルニアリ然レモ外部ニ對スル代表ヲ共同ニスル結果ハ自ラ
如此代表ニ実行ヲ與フル為メ必要ナル事務ヲモ亦共同ニ所理スルニ至ル儀令ハ澳上向
トハ物上ノ結合ヲナセルモノニシテ其共合ニ處理スル所ノ事務ハ第一外交第二陸
海軍ヲ三共合支出ニテスル財政ナリ

聯合國家ニ於テハ國家聯合ト異ニシテ國際ノ條約ニ依リテ成立スルモノニ非スシテ實
ニ聯合國家ヲ自ラ定ムル憲法ニ基クモノナリ

聯合國家ニ於テハ中央権力自ラ自由ニ其権限ヲ伸縮シ得テ聯合國家内各國
ノ権限ヲ伸縮スルヲ得即最高権ハ聯合國家ニ存スルモノニシテ各國ニ存セス又

外部ニ対シテモ聯合國家ハ國家聯合ト異ニシテ完全ナル國際法上ノ權利主
體ニテ各國ヲ代表シテ權利ヲ行ケモノニ非ズ聯合國家ノ实例ハ歐洲ニ於テ獨
乙帝國ト瑞西米國ニ合衆國ナリ、メキシコモ亦之ニ類似セリ

聯合國家ニ分テハ國家聯合ト異ニシテ完全ナル國際法上ノ權利主

體ニテ各國ヲ代表シテ權利ヲ行ケモノニ非ズ聯合國家ノ实例ハ歐洲ニ於テ獨

乙帝國ト瑞西米國ニ合衆國ナリ、メキシコモ亦之ニ類似セリ

聯合國家ニ分テハ國家聯合ト異ニシテ完全ナル國際法上ノ權利主

體ニテ各國ヲ代表シテ權利ヲ行ケモノニ非ズ聯合國家ノ实例ハ歐洲ニ於テ獨

乙帝國ト瑞西米國ニ合衆國ナリ、メキシコモ亦之ニ類似セリ

聯合國家ニ分テハ國家聯合ト異ニシテ完全ナル國際法上ノ權利主

體ニテ各國ヲ代表シテ權利ヲ行ケモノニ非ズ聯合國家ノ实例ハ歐洲ニ於テ獨

乙帝國ト瑞西米國ニ合衆國ナリ、メキシコモ亦之ニ類似セリ

聯合國家ニ分テハ國家聯合ト異ニシテ完全ナル國際法上ノ權利主

體ニテ各國ヲ代表シテ權利ヲ行ケモノニ非ズ聯合國家ノ实例ハ歐洲ニ於テ獨

乙帝國ト瑞西米國ニ合衆國ナリ、メキシコモ亦之ニ類似セリ

國家結合

此他ニ身上結合アリ

國際法上ノ結合

國家聯合

國法上ノ結合

聯合國家

聯盟

第七節

統治權ノ実質

統治權ハ國家ノ意思ノ力ナリサレト國家ノ意思ノ実質如何ハ統治權ノ觀念ヨリ
演繹スルヲ得ヘカラス國家ノ意思ハ实体ハ國家ノ目的ニヨリテ定マルモノナリ國家
ハ性質上ヨリ限ラレル目的ヲ有スモノニアラス一ノ國家ノ時機ニ於テ現ニ其目的トスル
所ハ國家カ自ラ定ムル所ニシテ實在ノ法規ニヨリテ認ムル他アラサレト諸國
國法ヲ通觀スルニ近來ノ國家ハ大体ニ於テ同一ノ目的ヲ有ス其結果トシテ類似ノ
法規ヲ有シ類似ノ制度ヲ有スルモノ少カラス是等ノ法制ヲ解スルニハ近代ノ國
家カ其目的トスル所ハ何物ナルカヲ知ルヲ要ス但國家ノ本來ノ終局ノ目的ニ至リ
テハ國法学ニ於テ論スル所ニアラス
國家ノ目的ハ一ハ自ラ生存シ自ラ發達スルニ在リ國家ノ外ニ於テハ外國ニ於テ其利益
ヲ保護シ其地位ヲ進メ内ニ於テハ内乱ニ對シテ其成立ヲ維持セサルヘカラス此目的
達スルカ為メニ國家ハ常ニ必要ナル兵カヲ養フヲ要ス國家カ其兵カヲ養フニハ先ツ必要
ハ賤カシ有セザレ可ラス賤カハ独リ兵カヲ養フニ必要ナルニナラス其他百般ノ政務ヲ行
カ為メニ其必要ヲ具サレモアラサレド百般ノ政務ヲ行ヒ國家ノ生活ヲ維持スルニハ独リ賤カ

ヲ要スルニナラス各種ノ科干其他ノ設備ヲ要スル此種ノ政務ハ皆国家自存ノ目的ニ屬スルモノト謂フヲ得ヘシサレト国家ハ單ニ自生生存スルカ為メニ生存マルモノニアラス其生存ハ他ノ目的ノ存スル者アルカ為メナリ其目的ハ國民ノ精神上物質上利益ヲ保護シ及之ヲ進捗スルニ在リ近代ノ国家ハ臣民ノ權利ヲ保護スルヲ以テ唯一目的トスルモノニアラストハ近時ノ俗ク認ムル所ノ国家ハ一方ニ消極之民ノ利益ニ對スル危險及障礙ヲ除キ一方ニ諸種ノ制度ヲ設ケテ其利益ヲ進ムル手段ヲ取ルヲ要ス国家ハ固ヨリ私人ノ代リテ其私ノ事ヲ弁スルモノニ非ズ彼ノ国家ノ目的ヲ以テ人民ノ幸福ヲ増進スルニ在リトシ此目的ヲ達スルカ為メ飽マテ私人ノ生活ニ干渉シテ遂ニ人民ノ独立自在ノ精神ヲ沮喪セシムル如キハ近代ノ国家カ取ル所ノ主義ニ非ズ(セント)唯私人ノ利益ニ對スル障礙ニシテ私人ノカヨリ之ヲ設ケルヲ得サルモノハ国家ノカヨリ之ヲ除キ私人ノ利益ヲ發達スルノ条件タル設備ニシテ私人カ能ク之ヲ設ケルヲ得サルモノハ国家ノカヨリ之ヲ設ケルヲ要ス如何ナル設備ハ私人ノカ及ハサル所ナルカハ人民ノ程度其他ノ事情ヨリテ異ナルヲ以テ諸国カ此目的ヲ達スルカ為メ行フ所ノ事務ノ廣狹ハ固ヨリテ大ニ異ナルハ論ヲマタストモ其目的ニ至リテハ敢テ異ナルニ非ス此目的ヲ抑テ文化ノ目的ト

ニフ

右ニ述ベタルニワノ目的ヲ達セントスルニ當リテハ国家ノ法ヲ以テ必要ナル手段トセザルヲヤシ自存ノ目的ヲ達スル為メ徴兵徴税等ヲ要シ各種ノ税法ヲ要ス文化ノ目的ヲ達スルニ幾多ノ警察法規等ヲ要ス是等ノ法規ハ皆国家カ其目的ヲ達スルカ為メニ用フル手段ナリサレト国家ノ法ニ對スル干係ハ独リ此ニ止マラス法ヲ利用シテテ手段トシテ自個ノ目的ヲ達スルハ国家モ私人モ異ナルヲナレサレト国家ハ私人ト異ニシテ憲法ヲ以テ手段トスルノニナラス又法ヲ以テ其目的トスルヲアルナリ其最モ著キハ私法ノ区域ニ在リ此区域ニ在リテハ国家ハ法ヲ授ケテ法ヲ保護ス外ニ活動ノ餘地ヲ有セス国家ハ先ツ私法ヲ設ケテ私人ノ干係ヲ定ム民事ノ裁判ニヨリテ權利ノ争議ヲ決ス訴訟事件ニ干スル行政行為ニヨリテ私權ノ所在ヲ明カニス法ヲ利用スルハ私人ノ事ニシテ法ヲ設ケテ法ヲ保護スルハ国家ノ事ナリ法ハ私人ノ為メニ手段ニシテ国家ノ為メニ目的ナリ公法ノ区域ニ於テハ私法ノ如ク著シカラスト虽モ少クモ刑法ノ一部ハ權利ノ保護ヲ目的トスル者ナリ刑事裁判ニ至リテハ民法ノ適用ヲ重メトスル者ナルヲ以テ其法ヲ目的トスルヲハ言フマテモナレ其他公法ノ区域ニ於テ行政訴訟ノ權限

并裁判ノ制度カ漸ク進ムニ從ヒ法ヲ目的トスル國家ノ政務ノ範圍モ漸ク汎キヲ加フ是レ近時ノ勢ナリ如此國家ノ統治權ハ三種ノ目的ニ出ツル者ヲ區別スルコトヲ得レ其統治權ノ各作用ハ必ス是等ノ目的ノ一ニ出ツルヲ要セス性々ニ三ノ目的ヲ兼フルコトアリ例ハ行政法律ハ直接ニ第一及第二ノ目的ヲ達スル手段ナレ比レト同時ニ國家ト臣民トノ間ニ意思ノ限界ヲ定ケル者ナリ外務行政ハ主トシテ自存ノ目的ニ出ツル者ナレ亦第二ノ文化ノ目的ヲ兼フルコトアリ通商条約郵便ニ關スル條約如シ租税モ主トシテ第一ノ目的ニ出ツル者ナレ往々第二ノ目的ヲ兼フルコトアリ保護稅禁止稅ノ如キ是ナリ

上來述ベタル國家ノ目的ノ區別ハ立法行政司法ノ區別ト全シキ者ニ非ス立法行政司法ノ區別ハ國家カ其目的ヲ達スル爲メノ行為ノ形ヨリテ區別シタル者ニ他ナラス故ニ同一ノ形ニテ諸種ノ目的ヲ達スル爲メニ用ヤラルコトアリ立法ハ單ニ或ル者カ論スル如ク法ノ目的ヲ達スルカ爲メニ必要ナルノミナラス文化ノ目的自存ノ目的ヲ達スル爲メニ必要ナル手段ナリ行政行為ニ又文化及自存ノ目的ニ必要ナルノミナラス法ノ目的ヲ達スルニモ必要ナリ登記公証ノ如キ是レナリ司法ハ專ラ法ノ目的ヲ有スル者ナリ

第二編 國家ノ組織

第一章 領土

第一節 領土ノ性質ヲ論ス

領土ハ其昔時往々君主ノ財產ト同一視セラレ其分配繼承ニトハ往々財產ノ分配相続ノ方法ト同一ノ方法ニヨリレコトハ皇室典範ニトテ述ブル片ニ述ベタリ國家ニ關スル人ノ思想カ發達セハニ從ヒ所有權カ統治權ニ異ルコト明カナルニ從ヒ領土モ私法上ノ範圍トシテ公法上ノ性質ヲ得ルニ至レリ國家ハ領土ニ對シテ所有權ヲ有スラナク土地ノ所有權ハ私人若クハ國家カ財產權ノ主体トシテ有スル所ナリ今日於テモ尚往々土地ニ對シテ國家ノ最高所有權ヲドシテ有スルヲ認ル公法上ノ爲メニ土地ヲ收用スル權ヲドシテ此ノ權ニ基クモント看做スコトアルモ所謂最高所有權ナルモノハ統治權ノ一種ノ作用ニ過キス所有權ト單ニ強弱ノ廣シクニスル權利ヲナクシテ全ク性質シクニスル權ナリ今日ノ國法ニ於テ領土ト國家ノ關係ハ如何ナルコトナルヤニ付キ國法学者中種々ノ論アリ

Quintus 氏ハ領土ヲ以テ國民ノ居住地 *Domicil* トスル說ヲ唱ヘタリ之ヲ詳ニ云ハ

國家ハ一定ノ領土内ニ住居スル人民ノ集合體ニシテ國民ノ分限ハ領土内ノ住居ヲ持テ

居ルヤ否ヤヨリ得喪スルナリト此説ニハ多少ノ真理ナキニアラス臣民分配ト領土ハ密々
接ノキ係ヲ有スルハ疑ヲ容セス臣民分限ノ規定スル諸國ノ法ニ於テ或ハ領土内ニ出生シ
シタルモノヲ臣民ト看做スモノアリ或ハ領土内ニ住居シ定メタルモノニ臣民分限ヲ與フルモノアリ或ハ
領土内ニ住居シ定メタルモノノ子孫ヲ臣民トスルアリ其他住居シテ版代ノ要件トシテ住居
シテ外國ニ移シタルモノヲ臣民分限ノ喪失ノ理由トセハ如キ領土トノ干係ニ依テ臣民分限ヲ
定ムル例少カラス殊ニ領土ト臣民分限トノ干係ノ最モ著キ場合ハ一國ノ領土他ニ割讓
シタル時ナリ乍併領土ト臣民分限トノ干係ハ單ニ是等ノ場合ニ限ラス臣民分限ニ干
スル諸國ノ法律ハ皆近來ノ制定ニ係ル故現在ノ人民ノ大多數ハ是等ノ法律ヨリ臣民分
限ヲ得タルニアラス若シ多數ノ臣民ノ祖先ニ追溯リ其如何ナル理由ニヨリ其臣民分限ヲ得
タルヤヲ尋ヌルニ結果先祖ヨリシテ代々領土内ニ住居シ定メ居ルモノハ臣民ト認ル外ハ
致シ方ナキコトナル如此領土ト臣民分限トノ間ニ現在親密ノ干係アルノミナラス此干係ヲシテ
益々親密ナラシムルハ近頃ノ立法ノ傾ナリ若シ住居ト臣民分限トノ間ニ全ク干係ヲ存シ置
カストセハ代々領土内ニ住居シ國家ノ保護ヲ受ケ居リナカラ一カニ於テハ兵役其他臣民
ノ義務ヲ免ルモノ漸ク多クナリ國家ノ安危ニ對シ一種ノ階級ヲ生シ或ハ常ニ遂ニ國家

ノ安危ヲ多ク危ラスル恐ナキニアラズ

此ノ危險ハ殊ニ近來ニ於テハ感シタル所ニシテ又其立法ニ大ナル影響ヲ及ボシタル事實
ナリ又故近來ノ立法ハ大抵領土トノ干係ヨリ臣民分限ノ得喪ヲ定ムルノ方針ニ傾ルモ
乍併又今日ニ於テ直ニ領土内ノ居住ハ臣民分限ヲ得ルノ原因ナリ居住ヲ外國ニ
移スク國臣分限ヲ喪フノ原因ナリト断言スルヲ得ラス
右述ヘタル如ク領土ト國家トノ干係ハ領土ト臣民トノ干係ヨリ説明スルコトヲ得
ス只領土ト統治権トノ干係ニヨリ之ヲ説明スルコトヲ得左記國法學者ハ領土
高權トスル一種ノ觀念ヲ設ケ統治権ノ或ル作用ヲ與フケテ領土高權ノ作用ト看做
スリ土地收用權魚主物ノ知有ラ定ムル權輸入品カ國境ヲ越ユルヲ拒絶スル權領
土ヲ区劃スルノ權ノ如シ
乍併以テ等ハ所謂領土高權ト云フ別種ノ作用テナクシテ統治権カ會々土地ニ干
スル動シタルニ過キス他ノ國家行為ノ上實價ヲ與ニスルモ其性質ヲ異ニスルモノニアラ
ズ統治権ト領土トノ干係ハ統治権ノ作用ヲ列記シテ之ヲ尽スルヲ得ナルコトハ近來
學者ノ普ク認ムル所ナリ乍併以テ干係ハ如何ナル干係ナルヤハ今日尙學說ノ多ク所

ナリ一區ノ字者(ケルヘル、ラバント、ボシバク)ノ説ヨリ領土ハ統治権ノ客体ナリ
國家ハ領土ニ對シ一種ノ權利ヲ有ス此權利ハ實價上臣民ニ對スル權利ト異ナルモノニ
シテ國家ノ物權ト稱シテ可ナリ國家ハ其目的ヲ達スル爲メニ只ク人民ヲ統御スル
ノシテラス土地ニ對シテモ其權利モ用ハル可カラス臣民ニ對スル權利モ土地ニ對ス
ル權利モ共ニ命令權ナリ下級臣民ニ對スル權利ハ親族法上ノ權利ナリ是等ノ二説ハ共ニ眞理アルモ又
シテ國家ハ領土ニ對スル權利ハ一有体ヲ完全ニ支配スル點ニ於テ私法上ノ所有權
ト性質ヲ全クスル有体物ヲ支配スル方法目的并ニ實體ヲ異ニスルコト(ラバント)
及之他ノ區ノ字者ノ説ニヨリ命令權ノ客体ハ只人ニナリ領土ハ命令權ノ客体テ
ナクシテ單ニ命令權ノ及ルヘキ土地ノ區画ニ過キスト是等ノ二説ハ共ニ眞理アルモ又
共ニホク全ク中庸ヲ得タルモノト云フヲ得ス抑モ物ニ對スル權利ハ學ニ物ト人トノ干係ニヨリ
生シ得ヘキモノニアラス必ス其物ニ對シテ權利ヲ有スル能ヲアル以上ノ人格アルヲ要ス
此等ノ二以上ノ人格ノ中ニ付キ法規ハ其ノ意思ヲ認メテ他人ニ對シテ之ヲ保護ス於之
物ニ對スル所ノ事實上ノ干係ハ初メテ法律上ノ干係タルヲ得ルナリ
又故國家ノ領土ニ對シ權利ヲ有スト云ヒ又ハ領土ハ國家ノ物權ノ客体ナリト云フ以テ他
領土ニ對シテ同ノ種類ノ權利ヲ持ツコトヲ得ル人格ナカラスハ併國家内ニ存在スル所ノ
ノ私人又ハ團體ハ領土ニ對シテ國家ト同一ノ權利ヲ得ヘキ能カヲ有スルモノニアラサルコトハ
元ヨリ言フ俟タス夫故國家ト人民トノ干係乃國法上ニ於テ領土ニ對シ所謂物權ナルモノ
カ存在シ得ヘキ理由ナシ

及之國家ハ凡テ領土ヲ有スルノ能力アリ國際法ハ一定ノ土地ニ對シ一國ノ權利ヲ認メ他ノ
國家ノ之ヲ侵スコトヲ禁ス夫故國家ト國家トノ間ニ於テハ領土ニ對シ權利ヲ有スルコト
ヲ得而國家ハ私人カ其所有權ヲ所分スルコトヲ得ルト同シノ讓與交換等ニヨリ之ヲ
処分スルコトヲ得此權利ヲ稱シ國家ノ特權ト稱スルコトハ正シキヤ否ヤハ單ニ語ノ
争ニ過キス依之見レハ統治權ト領土トノ干係ニ付テハ三ノ字者ノ論スルカ如ク國
際法上ノ干係ト國法上ノ干係トヲ區別スルヲ要ス(Sagehel, Roemer)國際
法上ノ干係ニ於テハ領土ハ統治權ノ客体ナリ國家ハ領土ニ對シ私法上ノ特權ノニテスル
一種ノ權利ヲ要ス國法上ノ干係ニ於テハ領土ハ統治權ノ客体ナリテ統治權カ人ニ對シテ行
ハル區域ナリ國家ハ只臣民ニ對シテ命令スルコトヲ得ルノシテラス臣民ニテラサルモノヲモ領土
内ニ於テハ皆國家ノ命令權ニ服従セサルヘカラス

如右述領土ノ國際法上ノ性質ト國法上ノ性質ト有ス國際法上ノ性質ヨリテハ消極ノ効果ヲ生シ國法上ノ性質ヨリテハ積極ノ効果ヲ生ス其消極ノ効果ハ一國ノ領土内ニ於テ他國ノ命令權ヲ入レサルト云フコトナリ其積極ノ効果ハ領土内ニ在リテハ臣民ハ勿論外人トモ凡テ其國ノ命令權ニ服従スルト云フコトナリ

第二章 領土ノ區域及其變更ヲ論ス

領土ニ関シテハ諸國ノ憲法ノ大概明ナル規定ヲ設ク下併其規定ノ實體ニ関シテハ諸國ノ法カ区々ニ涉リ其要領ヲ擧グルハ左ノ如シ

第一、諸國ノ憲法ハ往々領土ノ區域ヲ明ニ定ムルアリ例独帝國、瑞、白蘭、ルノニヤノ憲法ノ如シ又憲法ニ於テ現在ノ區域ヲ以テ國家ヲ統治スト定ムルアリ其著シキハ普憲法ノ如シ此等ノ場合ニ於テハ領土ノ變更ヲ他ニ特別ノ規定ナキ以上ハ憲法變更ノ手續ヲ要ス例ハ「ハルブルヒ」憲法ノ如シ下併此等ノ諸國ノ中ヲ往々特別ノ規定ヲ設クルカ故領土ノ變更ニ関シテ此特別ノ規定ニヨルベシ

第二、諸國ノ憲法ハ往々領土ノ分ツヘラス割讓スヘカラスト宣告スルモノナリ(割讓ノ配スヘカラスト)例令ハ「ハイエルン」サクセシ「バーデン」其他独乙ノ諸國瑞典、挪威、ルノニヤ

「セルビヤ」ノ如シ此場合ニ於テ領土ヲ割讓スルハ他ノ特別ノ規定ナキ以上ハ憲法變更ノ手續ニヨラサルヘカラスト此憲法ノ中ヲ領土ノ變更ニ関シ別段ノ手續ヲ定ムタルモノハ其手續ニヨルハ言フ俟タス「サクセシ」ルノニヤ「如シ」

第三、憲法ノ多數ハ領土ノ變更スルハ法律ヲ要スルコトヲ規定ス例仏、普、薩其他白蘭、西「ルノニヤ」希、如シ或ハ單ニ議會ノ同意ヲ要スト定ムルモノアリ例「イルチエントルヒ」澳、以、葡、下、セルビヤ、如シ

右ニ述ヘタル如ク憲法ノ變更ヲ要スニヨリ又ハ通常ノ立法ヲ要スニヨリ若シ議會ノ同意ヲ要ストノ規定ハ一般ニ領土ノ變更ニ干スル規定アルアリ或ハ「ル」種族ノ變更ニ限リ適用スルアリ領土ノ變更スルハ法律ノ規定ヲ要ストル國ニテモ教會整理ノ事ニ於テハ法律ヲ要セストセルナリ

英國ニ於テハ領土ノ變更ニハ議會ノ同意ヲ要ストノ法規ナシ領土ノ擴張スル場合ニ於テハ君主ノ大權ハ買受ノ場合ニ豫算ニヨリテ制限セラル、外ハ制限セラル、「ナント」何人モ疑ハサル所ナリ反之領土ノ期限ニ於テハ多少ノ異議ナキニテラス方今尙未決ノ尚題ニ屬ス現ニ一八九〇年ニ獨乙ニ向テ「ヘルボラント」ヲ割讓スルニ當リ國會ノ同意ヲ得ル

コトヲ以テ条約ノ効力ヲ生スル条件トセシカ国会ニ於テハ却テ君主ノ大権ニ議會ヲ
兼与セシ行政権ヲ責任ヲ分クシムルモノナリトノ異議ヲ生シタルコトアリ (Dugdale)

292)

合衆國ニ於テハ領土ノ變更ニ付テハ憲法ノ明文ナキモ領土ノ取得ニ付テハ条約締結
権ヲ有スル楨干ニ於テ下院ノ同意ヲ待タズニ決行シタル实例少ナカラス

我國ノ憲法ハ領土ノ變更ニ付テハ特別ノ明文ニヨリコトニテ領土ノ變更ノ性質上当然法律ヲ要ス

ルニテラス國際條約ニヨリ領土ヲ取得シ又ハ割讓ニ換スル場合ニ於テハ領土ノ變更ノ條
約ノ締結ニヨリ当然充當スルモノナリ我國ノ如キ憲法ニ領土ノ變更ノ條約ノ締結ノ領土

ニ關スル明文モナク又條約ノ締結ニ議會ノ同意ヲ要スルノ規定ナキハ條約ニヨリ領

土ヲ變更スルハ專ラ元首ノ決スル所ナリ其外先占等ニヨリ領土ノ變更ヲ生スル場合

モ亦アル事實又ハ立法ノ範圍ニ屬セカル國家ノ行為ニヨリ直ニ成立スルモノナリ此等ハ

極メテ單純ナル道理ナルカ如キモ亦併領土ノ變更ハ現在ノ法律ノ施行區域若クハ其

規定ニ影響ヲ及ボスアル故或ハ此等ノ法律ヲ廢止變更セシムル或ハ領土ヲ變更

スルコトヲ得ストノ疑ヲ生スルコトナキヲ保セス此實ニ關シテハ領土ヲ取得シタル場合ハ領

土ヲ割讓シタル場合トヲ區別シテ論スルヲ便トス新ニ領土ヲ取得シタル場合ニ於テ旧來ノ

領土ニ行ハル法律カ直ニ新版圖ニ行ハルヤ否ヤハ各法律ノ精神如何ニヨリテ定マ

ルモノナリ若シ法律ノ精神カ立法ノ當時ニ於ケル現在ノ版圖ニ限リ行ハルニテアルトスハ例ハ新

ニ版圖ヲ加ヘルモ法律ハ当然新版圖ニ行ハルニテアル故領土ノ變更ハ少シモ法律ニ影響ヲ

及ボスコトナシ若シ法律ノ精神カ將來取得スル所ノ版圖ニモ施行セラルト云フニテアルハ

此法律ノ新ニ版圖ニ行ハルハ乃チ法律始メカラノ精神ニ基クテ決シテ法律ヲ變

更スルモノニテラス夫故何レノ場合ニ於テモ判段ノ法律ヲ要スル理由ナシ

領土ヲ割讓シタル場合ニ於テハ舊來全國ニ行ハレタル法律ハ施行ノ區域ヲ縮スル

コトニナル殊ニ割讓セラレタル區域ニ對シテ設ケル法律ハ消滅ニ似ズ亦併此等ノ法律ハ元ヨリ割

讓セラレタル場合ニ具地ニ特別ニ行ハレタル法律ハ消滅ニ似ズ亦併此等ノ法律ハ元ヨリ割

讓セラレタル區域ニ對シテ統治權ヲ行フテ定ムルモノナリテ却テ統治權カ其區域ニ行ハ

テ居ルコトヲ各約ナセルナリ夫レ故領土ノ割讓ニテ其區域ニ統治權カ行ハレタルニテラス法

律ハ其條例ヲ消滅シタル為メニ当然消滅又ハ變更スルニテ別ニ立法ノ衝キヲ要スルニテラ

スニテ要スルニ領土ノ變更ハ性質上法律ヲ要スルナシ又現行法律ニ至テ大ナル影響

ヲ及ホスモニアラサルモ之ヲ以テ領土ノ變更ニ法律ヲ要スルノ理由トナス
第二章 臣民

臣民分限ノ性質ヲ明ニスルハ臣民ト外人トヲ明ニスルヲ要ス臣民ト外人トノ間ニ
別ハ國家ノ命令權ニ服従スルトセザルトノ區別ニアラス外國人ト雖モ國家ノ領土内ニ
於テハ其命令權ニ服従スルトハ其領土ニ關シテ述ハタル時如シ臣民ト外人トノ區別
ハ權利ヲ享有スルト否トニアラス近頃ノ國家ニ於テ外人ト雖モ特ニ制限セザル
限リ其命令權均ク私法上ノ權利ヲ享有スルヲ例トス而シテ私法上ノ權利ヲ享
有スルト云フ事實ハ当然公法上ノ一部ヲ享有スルト云フコトヲ包含スル即許權ナ
リ如此ニ臣民ト外人トノ區別ハ服従義務ノ有無或ハ權利ノ有無ニヨリ定ムルコト
ヲ得ス併又概シテ臣民ニ限リ負担スル特別ノ義務及臣民ニ限リ特別ニ享有スル
權利ナキニアラス夫レ故人ハ或ハ是等ノ特別ノ權利義務ニヨリ臣民ト外人トヲ區別セ
スル者ナキニアラス此等ノ特別ノ義務ハ兵役ノ義務ノ如キモノ此等ノ特別ノ權利ハ
所謂參政權、住居權及國家ノ保護ヲ受クル權利ナリ

兵役ノ義務ハ全身ヲ奉テテ國家ニ捧ルルノ義務ナリ此義務ヲ外人ニ負ハス或ハ其
自國ニ對スル及逆ニ行キテ強制制スル結果ニ生スル故國際法上他ノ國家ノ權利ヲ害ス
ルモノト見做スモノナリ乍併此原則ニ交際例外ノ場合ナキニアラス時ニ無籍ノ
外人ニ對シテ別ニ兵役ノ義務ヲ負セザルノ理由ナレ夫レ故兵役ノ義務ノ有無ニヨリ
直ニ臣民ト外人トノ區別スルヲ得スハテ自國ノ他國ノ間ニ權利ノ有無ニ依リテ
所謂參政權乃國ノ公共団体ノ政務ニ參與スルノ權ハ通常ニ外人ニ與ハサルモ一
方ニ於テハ臣民モ凡テ參政權ヲ有セリト云フヲ得ス臣民ノ分限ハ畢竟參政權
ヲ有スルノ要件タルニ過キヌ又一方ニ於テ外人ノ性質上參政權ヲ有スルヲ得ストノ
理由ナレ其參政權ヲ有スルト否トハ實ニ各國法律ニ定ムル所如何ニヨリ夫レ故ニ
參政權ノ有無モ臣民ト外人トノ區別スル標準トナスニ足ラス
外人ハ國家ノ領土内ニ居住スルノ權ヲ有セス國家ハ外人ヲ拒絶ニヨリ又ハ其住居
ニ條件ヲ付スルヲ得又ハ現ニ領土内ニ住居スル外人ニシテ公ニ安寧ヲ害スル恐
ルモノハ之ヲ領土外ニ退去スルヲ命スルヲ得及之近頃ノ國家ハ其臣民ヲ領土外ニ退
去セシメザラ例トス若シ臣民カ其領土内ニ居住スルヲ以テ公ニ安寧ヲ害スト認メハ

先其臣民分限ヲ辨奪シテ之ヲ退去セシハ例トスル併臣民ノ觀念ヨリ論スルハ国家ハ之ヲ国外ニ退去スルヲ得ストハ理由ナシ尤モ自國臣民ナル間ハ他ノ国家ヨリ送り取ラレハ其之ヲ受クルノ義務アル故退去ノ所分ハ往々实效ヲ失フコトアルモ此事実ヨリテ並ニ臣民ノ領土内ニ居住スル權利ヲ有スト相定スルヲ得ス夫レ故住居權ノ有無ハ又々絶対ニ臣民ト外國人トノ區別ヲスルコトヲ得ス

外人モ領土内ニ居住シ滞在スル以上ハ臣民ト等シク國家ノ保護ヲ受クルハ言フ俟トスル併臣民ハ並ニ領土内ニ於テ保護ヲ受クルノコトヲス其外國ニアル間モ又尋シク國家ノ保護ヲ受クルモノナリ下併如何ナル手段ニヨリ臣民ヲ保護スルハハセニ國家ノ自ラ模ハ所ニ有ル場合ニヨリテハ國家ハ全ク人民ヲ保護スルカナキコトアリ臣民ハ例令外國ニ於テ不法ノ処分ヲ受クルモ自國カ外國ニ對シ戦ヲ宣出スルコトヲ要求スルコト得又居留地ニ於テ内乱ヲ生シタル場合ニ於テ其生命財産ヲ保護スルタメニ軍艦ノ派遣ヲ求ムルノ權アリトモ之ヲ得ク一方ニ於テハ國家ハ他國ニ於テ其臣民ニアラサルモノニ對シ保護ヲ與フルコトナキニテラス例ハ條約ニアル場合ナリ要スルニ保護ヲ求ムルノ權モ又臣民ト外人トヲ區別スルモノニアラス

以上述ヘタル如ク臣民ノ性質上外人ト異ル所ハ權利ヲ有スルト否トテモナク又特種ノ權利ヲ有スルト否トテモナク云ク義務ヲ有スルト否トモアラス臣民ト外人トハ等シク國家ノ命令權ニ服從ス下併其命令權ニ服從スル根據ニ至リテハ相異レリ外人ク國家ノ命令權ニ服從スルハ其領土内ニアルカスハ領土内ニ於テ法律上ノ關係ヲ有スルカ為メナリ又之臣民ナル為メニ國家ノ命令ハ特別ナル規定ニヨリ又ハ事ノ性質ニヨリ本國ニ居住スルコトヲ以テ要件トスルモノヲ除ク外ハ元則上之ヲ遵奉スルノ義務ヲ有ス其國家ハ外國ニ於テ其權カヲ行フコトヲ得サル故臣民ノ外國ニアル間其命令ヲ強制スルノ手段ヲ有セザルノコトヲ要スルニ外人ハ領土ニアル故ヲ以テ服從ノ義務ヲ有シ臣民ハ臣民タルノ故ヲ以テ國家ニ服從スルノ義務ヲ有ス之レ臣民ト外人トノ性質上異ナル所以ナリ若シ各國ノ現行法ニ就キ法律上臣民ト外人トノ間ニ存スル權利ノ差異比較スレハ何レノ國ニ於テモ之ナレト云フモノナキモ是等ハ二ツノモノノ性質上ノ差異トシテ見ルニキモノニアラス

第二章 臣民分限ノ取得及喪失ヲ論ス

臣民分限ニテスル法規ハ各國共ニ法律ヲ以テ之ヲ定ムルヲ例トス或ハ又憲法中多

少ノ規定ヲ設ケルモナリ諸国ノ法ハ往々民法中ニ臣民分限ヲ定ムルモノアルモ本来ノ性
質上ヨリ論スレハ臣民分限ノ如キ公法ノ部ニ屬スルモノトス我國ノ憲法ハ其才一八条ニ
於テ「日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニハト規定セリ」下併臣民分限ニ屬スル
コト歟ハ只今ハ未ダ完全ノ法規アラズ只明治六年法律第百零七号布告アルノミ
臣民分限ハ出生ヨリ取得スルカスハ歸化ヨリ取得スルカハ歸化ハ二種アリ一ハ之ヲ法
律上ノ歸化ト云フコトヲ得外人ニシテ一定ノ条件ニ當ルモノハ当然臣民分限ヲ取得スニ
一種類ハ之ヲ任意歸化ト云フコトヲ得一定ノ要件ヲ具フルモノハ本人ノ願ニヨリ臣民分限
ヲ取得スルコトヲ得狭義ニテ歸化ト云ハ任意ノ歸化ノ意味ス
出生ニヨリ臣民分限ヲ取得スルニ屬地主義、屬人主義及ヒ住居主義ニ三アリ
歸化ニ法律上ノ歸化ト任意ノ歸化アリ法律上ノ歸化ハ婚姻及認知即チ父カ私生子
ヲ認知スルニ生ノ国籍ヲ取得スルコトアリ又住居ヨリ当然歸化ニタルモノト見做サルモノ
リ又官職ニ就キタルヨリ臣民分限ヲ得ル場合アリ又國家ノアル団体ノ員トナリタル又
聯合國國家内ノ各國ノ臣民ハ聯合國國家ノ臣民ナリ
單ニ歸化ト云ハ狭義ノ歸化ヲ云フニテ任意ノ歸化ヲ云フナリ歸化ノ方法ニテハ諸国

ノ間ニ制定ヲ異ニス數多ノ國ニ於テハ歸化ヲ許スニ特別ノ法律ヲ以テセサルヘカラス
或國ニ於テハ議會ニ於テ歸化ヲ許スアリ、及ヒ數多ノ國ニ於テハ行政機關カ歸化ヲ
許スノ權ヲ有ス併シ國ニヨリテハ歸化ノ種類ヲ區別シ或ハ法律ヨリ若クハ行政處
分ニヨリテアリ
有米合衆國ハ此處ニ付キ諸國ト制ヲ異ニシ裁判所ニテ歸化ヲ許ス何トナシハ法律
上一定ノ要件ヲ充タストキハ法律上歸化ヲ許サルモノ故歸化ヲ許スハ否ハ純然タル法
律干係ナリト認ムルハナリ
歸化ヲ許スハ法律ヲ以テスルト行政行為ニヨルトナリ爾ハ本来ノ性質ヨリ論スレハ種ノ行
政行為ナリ此行為ノ性質ニ付テハ二派ノ説アリ一派ノ説ヨリハ歸化ヲ許スハ行政知分ナリ
下併今日ニ於テハ多數ノ學說ト稱スルコトヲ得テ二ノ説ヨリハ歸化ハ國家ト歸化人ト
意思ノ合致ニ基クモノニテ所謂公法上ノ契約ナリ下併歸化ヲ處分ト見做ス學者モ
國家ノ命令ニ服從スル意思ヲ有セサル外人ノ意思ニ及ヒテ之ニ歸化ヲ命スルコトヲ得ス
又歸化ヲ公法上ノ契約トスル學者モ臣民ト國家トノ干係ノ内容ヲ契約ニヨリ定ムルコト云フ
テラス單ニ國家ト歸化人トノ意思ノ合致ニ基クト云フ莫ニ於テ民法上ノ契約ト相

同トスルニ止ルナリ故ニ二者ノ説モ結局ニ於テハ大ナル差異ナシト云フテ差支ナシト
般化ノ条件及其効果ニ付テハ種々アリテ之ヲ奪テルノ難シ其当然ノ帰化ノ効果ノ及
般化ノ婦及未成年子ニ及フトスルアリ併シ当然及ホサルアリ若ハ般化ノ効果ノ家ニ及
場合ナルモ又其効果カ般化人其者ニ及ツアリ即チ公権ヲ享有スルヲ許ス國ト國許サ、
ル國アリハ米、匈、蘭ニハ制限アリ白ニハ大帰化ノ種族アリ制限ヲ異ニスルアリ
臣民分限ハ出生ヨリ取得スルト同様ニ死亡ヨリ喪失スルハ勿論ナリ死亡ニヨラスレ
テ臣民分限ヲ喪失スルヲ稱シテ脱籍ト云フ般化ニ法律上般化ト任意上般化
トノ區別アル如ク脱籍ニモ法律上ト任意上トニアリ法律上ノモノハ一定ノ事實又ハ行
為ニヨリ当然臣民分限ヲ喪失スルモノナリ殊ニ諸國ノ法ハ外國ニ於テ臣民分限
ヲ得タト云フ事實ヲ以テ当然臣民分限ヲ喪失スルノ原因トスルモノ多クアリ任意
上ノモノ臣民自己ノ意思ニ基キ特別ノ國家行為ニ基キ臣民分限ヲ喪失スルヲ云フ
此場合ニ於テハ一定ノ事故アル外ハ國家カ脱籍ヲ拒ムヲ得サルヲ例トス法律上及任意
上ノ脱籍ノ外ニ獨乙ノ法ハ尚ホ一定ノ事故ニ當ルトキハ國家ニ於テ臣民ノ意思ニ及シ其
臣民分限ヲ剝奪スルノ法ヲ設ケタリ

法律上ノ脱籍ハ婚姻又ハ認知若クハ外國ニアリテ般志ナキ事實アル場合獨乙法ニヨルハ其次
在ノ領事館ニ登録セスレテ十年其地ニ滞在スレハ其分限ヲ失フ又政府ノ許可ヲ受ケス又
ハ其命令シテ外國ノ官職ヲウケ又ハ年金數章ヲ受ケル場合尚一ノ原因ハ本國政府ノ許
ヲ受ケスレテ外國ノ軍隊ニ入りタル中尚其他外國ノ臣民分限ヲ得タルモノハ本國カ籍ヲ
失フ
任意ニ脱籍スルニハ多少ノ要件ヲ要ス其条件ハ固ヨリ多少異ナルモ重ナル目的ハ兵役ヲ
避クル目的ニテラサルヲ、匈、等ノ如シ尚ハ外國ニ臣民分限ヲ得タルヲ要件トスルヲ瑞尚
ハ住居ヲ外國ニ移スト云フ其ノ目的ハ名義ノ外國人トナリ其實ハ本國ニ居ルヲ避ケル
為ナリ、例令ハ獨乙ニハ許可ヲ受ケタルトキヨリ六ヶ月内ニ外國住居ヲ移スカ又ハ外國
臣民タル分限ヲ取得スルヲ要ス尚獨ニハ普ヨリ巴ニ國籍ヲ移スルハ自由ナリ及之
獨乙外ノ外國人トナルニハ兵役ヲ避クルヲ防カカ為メニ兵役ノ証明ヲ要スルヲアリ
戰時ニ尚制限アリ其外尚獨、匈ニ臣民分限ヲ剝奪スルヲアリ其場合ハ外國ノ公
吏又ハ軍隊ニ入りタル中但シ政府ノ許可ナクシテ為レタル中剝奪ノ原因トセリ尚獨乙皇
帝カ戰時又ハ戰爭ノ恐アル中ニ在外員ニ對シ般國スヘシト命シタルニ般ラサルハ行政官

カニテ剥奪スルヲ得又僧侶カ官職ヲ剥奪セラレタルニ尚其官ヲ諒知シテ其職ヲ繼續
ナレタルハ又ハ其区域外ニ傳道シタルハ其分限ヲ失フ即チ剥奪スルコトセリ
其分限喪失カ妻子ニ如何ナル最過目ヲ及ボスヤト云フニ妻ニ付テ云ハニ夫カ身分ヲ失
フトキハ妻モ当然及フトスルアリ夫如シ当然喪失トスルモノハ如シ尚一ハ妻カ夫ニ
從テ移住シタルハ限リ当然喪失トスル俾如シ
未成年ノ子ハ当然及フトスルアリ如シ子ニハ及ハスト云フアリ如シ尚一ハ未成年
ノ子カ父母ト住居ヲ共ニシタルハ及フトスルアリ英伊其類ナリ
一旦臣民分限ヲ喪失シタルモカ本國ニ歸屬スルニハ特別ノ条件ヲ要ストスルアリ英ノ
如シ又教化ノ手續ニヨルトセリ

時ニハ何レノ國籍ヲ有セザル直極ノ衝突ヲ生スルコト又ニ國以上ノ國籍ヲ有スルヲ積極
ノ衝突ヲ生スルコトアルヘシ例令ハ屬人主義ヲ取ルル國ニ於テ屬地主義ノ國ノ人民カ生ル
レハ其子ハ與籍者ナルヘシ又屬地主義ノ國ニ於テ屬人主義ノ人民カ生レタル子ハ二
國以上ノ國籍ヲ得ルコトナリ其間ニ衝突アリ其衝突ヲ避クル方法ニアリ
第一 國內法ニヨリ其衝突ヲ避クルコト

第二 國際條約ニヨリ其衝突ヲ避クルコト

國內法ニテカ衝突ヲ避クルニハ外國ノ臣民分限ヲ失フタルハ教化ヲ許サズ脱籍ヲ
スルノ理由トシテ外國臣民分限ヲ取得シタルコトヲ要スルコト又國際條約ニヨリ其衝突
ヲ避クル方法ハ独米間ノ條約ノ如シ其大要ニシハ五年以上滞在シ教化スルハ其教化國
ノ分限ヲ得ルトセリ又教化シタルモノモ其本國ニ歸リ又其教化國ニ歸ルノ意思ナレト事
實ノ存スル片ハ教化權ヲ拋棄シタルモノトス(バンクロート條約)以上ハ只各國ニ行ル
大畧ヲ掲ゲタルノニテ其他詳細ナルコトハ一々枚舉ニ違アラズ

第三節 臣民ノ權利義務

諸國ノ憲法ハ大概皆權利義務ニ関スル規定ナリ憲法ノ云フ外ノ臣民ノ權利義務ハ臣
民ノ間相互ニ存在スル權利義務ニテラスレテ臣民カ國家ニ對シ有シ國家ニ對シ負擔ス
ル權利義務ナリ臣民カ國家ニ對シ權利ヲ有スルコトハ學者ガ或ル疑ヲ入ル所ナリ
例ボルンハックノ如シ其說ノ大要ニ曰ク私人カ國家ニ對シ權利ヲ有スルコトハ之ヲ想
像スルヲ得ス權利トシテハ只權利ヲ有スルモノト義務カ有スルモノトカサシク法規ニ
服スル場合ニ於テノニ存在シ得ルモノナリ國家ハ法規ノ源ナリ法規上ニ立ツモノナ

リ法規ニ従つト否ト及ヒ何レノ權義也法規ニ従つトハ一ニ國家ノ自ラ定ムル所ニヨ
ルナリ其故臣民ノ國家ノ意思ニ及レ國家ニ對シ權利ヲ主張スルコトヲ得ス依リニ臣
民ノ國家ニ對スル權利アリトスルモ國家ハ立法權ニヨリ何時ニモ之ヲ廢スルコト尚如
何ニ權カモ之ヲ妨グルヲ得ス裁判所ト臣民ノ國家ノ廢レタル權利ヲ保護スルコトヲ得
ス果シテ此ノ如ク臣民ノ要求ニ應スルト否トハ國家ノ自由ニアルトセハ之レ實ハ權利
ニアラスニ者ノ間ニハ權利義務ノ干係ナキナリト云フカ此説ノ大要ナリ
此説ヨリ推論スルハ臣民ノ國家ニ對シ只ニ公權ヲ有スルノミナラス又私權ヲ有スルコ
トヲ得ストノ結果ヲ生ス國家ハ財産ヲ有スルコトヲ得ス契約其外一切ノ法律行為ヲ
為スコトヲ得サル訊ナリ如此極端ナル論議ハ明ニ事實ニ背馳スルモノニシテ其説ノ根
本ニ於テ誤レルコトヲ証スルト云フコトヲ得凡テ權利ハ法規ノ範圍内ニ於テ存在ス法
規カ廢止セラレタル中ハ權利モ亦廢止セラルコトハ言フ俟タス之レハ獨リ公權ノミナラス
私人ト私人トノ間ニ存在スル所ノ私權モ亦然ナリ下併法規ノ存在スル間ハ臣民相互ノ
間權利ノ存在スルト同様ニ臣民ノ國家ニ對スル權利モ存在スルコトヲ得國家ハ法規ヲ
廢止スルノ權ヲ有ス法規ヲ廢止セザル間ハ國家モ之ヲ遵守セザルハカラス國家モ法

規ノ認メテ居ル臣民ノ意思ノ範圍ヲ越スコトヲ得ス若シ法規ノ存在スルニ拘ハラス
國家之ヲ遵守スルコトヲ要セストモ公法ハ全ノ存在セザルコトナレシ其ノ故臣民ノ國
家ニ對スル權利ヲ認メサルノ説ナリ此説ハ事實上ノ証明トシテハ其ノ當否ヲ知ラザ
ルモ國法上ノ説トシテハ決シテ之ヲ認用スルコトヲ得ス
臣民ノ國家ニ對スル權利ハ國法上存在スルコトハ右ニ論セル如ク下併諸國ノ憲法ノ規定
ニ依リ臣民ノ權利カ果シテ眞ノ公權ト認ムヘキヤ否ヤハ別ノ問題ナリ諸國ノ憲法ノ
規定セル臣民ノ權利トシテハ大概臣民ノ自由ノ保障セルモノニシテ取謂自由權(フライ
ハイトレヒト)ノ性質ヲ有スルモノナリ自由權カ權利タル性質ヲ有セルコトハ近頃ノ字
者ノ往々疑ヲ容ル所ナリザイデル、オントマイヤ、ケルベル、ラバンド其他等者ハ
權利ニアラスト云ヘリ
其説ノ大要ニシテ (J. Millenar: *Die Souveränität der Völker*
Waldheim, Grundriss der Völkerrecht) 夫凡ソ權利トハ法規ニヨリ與ヘラレシカ
ナリ法カ人ノ自由ニ有ル所ニ在ルカ、外ニ其人ニ附加シタル力ナリ法ハ他人ノ行為不行
為ヲ要求スルノ力ヲ與ヘ又ハ自己ノ行為ニヨリ一定ノ法律上ノ効果ヲ生スル力ヲ與ヘ

上カ

然リ又一般ニ許サレタル行為ヲ行フノ力ヲ與フ之ハ皆法カ持テ各個人ニ與ヘタル力
 ナリ是レカ乃各個人ノ權利ナリ及之天然ノ自由ヨリテ法ノ禁セザル行為ニ付テハ法ハ
 各個人ノ已ニ有スル所ノ力ヲ增加スルモノニアラサルモ又減サズルモノニアラス法ハ全ク何
 事ノ取御者ヲモ及ホサレズナリ故ニ天然ノ自由ハ法ニヨリ與ヘラレタル自由ニテラス
 乃チ權利ニテラス 飲食睡眠其外法ノ禁セザルヲ爲スノ自由ハ之ヲ飲食權利ト稱
 睡眠ノ權利ト稱シ其他各種ノ權利ト稱セハ如ク出版ノ自由、集會ノ自由、其外
 憲法ノ保障スル各種ノ自由ハ權利ト稱スルヲ得スト 又自由ニテテ法規ニヨリ
 併余ノ見ハ所ヨリハ憲法ノ保障スル自由ハ元ト天然ノ自由ニアラスモテ法規ニヨリ
 與ヘラレタル力ナリ國家ノ權力ニヨル此行為ノ好ケラレタル力ナリ其外憲法ノ保障
 スル自由ハ皆元ト天然ノ自由ニアラスモテ國家ノ不行爲ヲ要求スル力ナリ此力ハ臣民
 カ有然ニ有スルモノニアラサルハ言フ俟タズ自然ノ事實ヨリ論スル私人ハ却テ國家
 ノ絶対ノ權力ニ服従シ如何ナル処分ニモ甘ニシテ之ヲ受ケサルヘカラス憲法ハ國家自
 己ノ權力ヲ制限シ法律ノ規定ニキルハ國家ノ干渉ヲ拒ケカフ臣民ニ與ヘタルナリ夫
 故臣民ハ行政訴訟ナトノ制度ノ設ケル場合ニハ其權利ノ侵タレモノトシテ憲法

上自由ヲ犯サレタル所爲ヲ取消スコトヲ得受テ自由權ハ天然ノ自由權ニアラスモテ法
 ノ與ヘタル力ナリ其目的ハ國家ノ不行爲ヲ求ムルナリ夫故之ヲ權利ト認ムルモナ
 レモ不可ナラズ見ス

下條憲法ハ臣民ノ權利トシテ規定スル中ニ或ハ全ク權利ノ性質ヲ有セザルモノナキニ
 アニス例ヘハ臣民ハ等シク文武官ニ任セラルコトヲ得ルハ憲法ノ規定スル所ナリ下
 條臣民ハ例ヘ法令ノ要件ヲ備フルモ到底任官ヲ要求スルコトヲ得ス夫故何人ヲモ
 文武官ニ任セラルノ權利ヲ有セリトスルハ得ス憲法ハ畢竟明瞭ヲ以テ任官ノ要
 件トナスコトヲ得ストノ原則ヲ掲ケ立法ヲ制限シタルニ過ギズ

臣民カ國家ニ對スル權利ハ法規ニヨリ生ズルモノナリハ前述セシ如シ及之臣民ハ皆ヨリ
 國家ニ對シ絶対ノ服従義務ヲ有ス此義務ハ法規ノ創定シタルヨリ存在スルモノニテ
 之ス下服従義務ノ絶対無限ナルハ臣民ト國家トノ干係ハ單ニ事實上ノ干係
 ニシテ法律上ノ干係ニアラス法律上ノ義務ハ主張權利ト同クノ法規ニヨリ定メラレタル
 モノナリ法規ニヨラスレテ始メヨリ存在スル所ノ臣民ノ絶対無限ノ服従義務ハ法律
 上ノ義務ニテラス憲法ニ於テ臣民ノ義務ト云フハ元ト國家ニ對スル服従義務ニ基

其権限ノ変更ハ將來國家ノ意思ヲ有テ表示スルノ機干ヲ異ニシタルニ
過キサルナリ

國家機干ハ其権限内ニ於テ國家ノ意思ヲ定メ表示シ得ルノハ前提トシテ普通
ナリ然レドモ一タヒ其権限ヲ超ユルハ最早國家ノ機干ニアラス從テ表示シタル意
思ハ國家ノ意思ニアラサルナリ保國家機干ノ為ニシテ遠法ノ意思表示ハ当然ニ
皆シ効ナリトスルヲ得ス國家ノ機干ハ其権限内ニ於テハ法ヲ解シ法ヲ適用スルノ権
ヲ有ス夫レ故臣民ハ例ニ國家機干ノ意思表示カ遠法ナルイテ信スルモ之レカ服
從ヲ拒ムヲ得ス臣民カ自ニ為ニタル法ノ解釈ハ國家機干カ其権限ニヨリ為
タル所ノ解釈ニ讓ラサルヘカラス夫レ故國家機干ノ遠法ナリ意思表示ニ對シ法
カ別ニ之ヲ取消シメハ変更スルノ方法ヲ定メサル以上臣民例ニ其遠法ナルイテ信スルモ
之ニ服從セリルヘカラス及之機干ノ権限外ニ於テ元ヨリ法ヲ解釈シ之ヲ適用スルノ権
ナキ故権限外ノ命令臣民ヲ羈束スルノ効カラ有セス

國家ノ表示シタル意思ハ機干ノ意思ニアラスレテ國家ノ意思ナラハ命令述ハタリ此
故意思ニ係スル知ノカタル權利ト云フモノハ機干ノ權利ニアラスレテ國家ノ權利ナリ
機干ハ權利ヲ有スルモノニアラス又獨立ノ人格ヲ有スルモノニアラス世間ニテ往々機
干ノ權利ヲ認ムルモノハ實ニ機干カ國家ノ機干トシテ行フヲ得ル所ノ國家ノ
權利ノ範圍ナリ之ヲ短ク云ハハ機干ノ權利ナリ

第三編 國家の機關と組織

第一章 君主の事ヲ論ス

第一節 君主の國法上の地位ヲ論ス

君主の國法上の地位、政体ノ異ナルニ從ヒ大ニ相異ル所アルハ言フ俟タザルナリ等シク君主ヲ戴ク政体ニテモ專制君主國、立憲君主國、君民同治國ノ差異アルハ嘗テ述ヘタル所ナリ

君民同治國ニ於テハ統治權ヲ總攬スル者ヲ君主ト議會ナリ專制君主國及立憲君主國ニ於テハ統治權ヲ總攬スルモノハ君主ナリ英國ノ如キハ君民同治國ニ於テハ國家ノ統治權ヲ總攬スルモノハ君主ト議會ナリ所謂國會ニ於ケル君主ノ權力ハ廣クシテ及ハサル所ナリ及之君主ハ數多ノ事項ヲ其大權トシテ掌握スルニ止マリテ專ラ統治權ヲ總攬スルモノニアラス法律ハ君主ト議會ト共ニ定ムル所ノ命令ニシテ君主ノ專ラ發スル命令ニ非ルナリ

及之他乙諸國ノ憲法ハ一八四五年ノ仙ノ憲法ノ例ニ倣ヒテ君主ヲ以テ統治權ノ總攬者トスル原則ヲ採リ數多ノ憲法ハ其規定ニ於テ此趣旨ヲ明セリ普國ノ如キ君主ノ地位ニ付テ概括ノ規定ヲ設テ立法權ハ國王ト西院トカ共同シテ之ヲ行フト規定セル國ニ於

其權限... 國家ノ機關... 君主ノ地位... 統治權ノ總攬... 議會ノ組織... 君主ノ權力... 國家ノ主權... 君主ノ責任... 議會ノ權限... 君主ノ尊嚴... 議會ノ監督... 君主ノ代表... 議會ノ立法... 君主ノ任命... 議會ノ彈劾... 君主ノ赦免... 議會ノ審判... 君主ノ大赦... 議會ノ特赦... 君主ノ大赦... 議會ノ特赦... 君主ノ大赦... 議會ノ特赦...

テモ統治権ハ君主ノ統攬スル所ナルハ人ノ普ク確信スル所ナリ我國ノ憲法モ亦此一原則ヲ採リトド併君主カ統治権ヲ統攬スルトシテ原則ハ必クモ君主カ統治権ヲ行フニ當テ他ノ械干ノ失典ヲ要スルトテ矛盾スルモノニアラサルナリ若シ果シテ然ラハ立憲君主國ト君民全治國トノ間ニ於テ君主ノ國位上ノ地位ニ如何ナル差異アリヤ君主カ統治権ヲ行フニ當リテ憲法上他ノ械干カニニ參典スルヲ必要トスルニ拘ハラス君主ヲ以テ統治権ノ統攬者ト認ムル理由ハ何處ニ存スルヤ統治権ノ統攬者タル地位ハ憲法ヲ變更スル權限ヨリテ定ムルハ嘗テ述ヘタル所ナリ故ニ他ノ事柄ニ付テノ制限ハ措テ論セスト或モ法律ノ制定ニ干シテ殊ニ憲法ノ變更ニ干シテ他ノ械干ニ參典スルヲ必要トスルハ何故ナリヤ國務大臣カ法律ニ副署スルハ君主ノ旨ヲ受ケテ為ヌヲ以テ君主權カヲ制限スルモノニ非ストスルモ議會ノ根據ヲ以テ立法ノ必要ノ條件トシ憲法ノ變更ノ必要ノ條件トスルハ君主カ統治権ヲ統攬スルト云フ原則ニ及スルモノニ非ルナリトシ此向駁ハ國位學者カ最モ解説スルニ甚公所ニシテニニ學者ハ立憲國ニ於テモ君民全治國ニ於ケルト全ク法律ハ君主ト議會トノ共同ノ意思ニテ立憲君主國ニ於テモ君主ト議會トハ共同シテ統治権ヲ行フモノナリト主張スルモノアリ

ト併多數學者ハ立憲君主國ト君民全治國トノ間ニ君主ノ地位ニ大ナル差異アルヲ認メ種々ノ失典ヨリシテ此區別ヲ説明セシトセリ其一説ニ曰ク君主カ其統治権ヲ統攬スルハ其体ナリ統治権ノ体ハ立憲君主國ニ於テモ專ラ君主ニ屬シテ之ヲ他ノ械干ニ令ツナシト併統治権ノ用ニ干シテハ君主ハ憲法ノ條規ヨリ羈束セラル特ニ議會ノ根據ニヨリテ制限セラルナリ(憲法義解モ此説ヲ掲ク)獨乙ニテハ古キ學院ナリト併統治権ノ主体ハ常ニ國家ナルハ嘗テ論スル所ナリ故ニ統治権ノ体ハ唯ニ議會ニ屬セサルノミナラス又君主ニモ屬スルナリ立憲君主國ニ於テ君主カ統攬スル所ノモノハ統治権ノ体ト田トテ區別シテ立憲君主國ニ於ケル君主ノ地位ヲ明ニスルヲ得ヌ

亦ニ説ノ大要ニ申シ云ク君主カ統治権ヲ統攬スルトハ君主ノ權カカ無限ナリト云フ意味ニアラサルナリ立憲國ニ於テハ君主カ其權カヲ行フニ付テハ一定ノ形式ヲ要スルヲアリ或ハ他ノ械干ノ根據ヲ尋スルヲアリト併君主ノ權カハ常ニ法ニ據テ受ケテ明ニ制限セラルル限リ一切ノ權カヲ有スルナリ他ノ械干ハ之ニ及ミテ明ニ附典セラルタル權利ノ外一切ノ權限ヲ有セス其權限ハ常ニ法ニ據テ受ケルモノナリ之レ即チ君主カ統治権ヲ統攬スルト云フ原則ノ精神ニ彼ノ自定憲法ニ規定セル如ク國王ハ憲法又ハ他法律ノ明ニ附セ

ルノ外ハ権限ヲ有セスト云フ原則ト全ノ及對セルモノナリ是レゲラルクマイヤーウエーノ唱ル所ナリ

此其ハ未ダ以テ立憲君主國ト君民共治國トノ間ニ存ス唯一ノ差異ト認ムルヲ得ス現ニ英國ノ如キハ明ニ君民共治ノ政体ニ屬スルニ拘ハラス君主ノ大權ハ広シト云フ推測ヲ受ルヲ原則トセリ

抑モ君主ノ統治權ヲ總攬スルト云フハ總統治權ノ總括ニテ其源ヲ君主ニ發セサルナリト云フコトヨク有ルハ明ナリ及ヘ憲法又ハ他ノ法律ノ特別ノ規定ニヨリテモ統治權ノ作用ニシテ君主ノ權ニ屬セサルモノアルハ或ハ君主ト他ノ協同ノ權ニ屬スルモノトシテ君主ハ統治權ノ用ヲ一身ニ統フルモノト云フヲ得ス換言スルハ君主ハ統治權ヲ總攬スルモノニアラス

亦三説ノ要旨ニ云ク君主ハ其始ノ無限ノ立法權ヨリテ憲法ヲ發シテ統治權ヲ行フニ當リテハ一定ノ形式ニ依ルヘキコトヲ定メテ自己ノ行為ヲ羈束スルナリ此形式ハ即チ今時ニ統治權ヲ行フノ限界ニシテ君主モ之ヲ守ラサルヘラス而此形式ニ依ラサル意思ノ發表ハ君主自ラ其意思ト認メラルコトヲ欲セサルモノナリ要スルニ君主ノ權ニ對シテ憲法ノ制限ハ本

来君主自己ノ意思ニ基クモノナリ此レザイラルボルハツクノ唱ラル所ナリ(バツバリア憲法第二章ニ統治權ヲ總攬スルモノハ君主ニシテ君主ハ憲法ヨリ統治權ヲ行フモ之レハ憲法ハ君主自ラ發シタルモノナリト云ヘリ)

ト伊國法上何人カ統治權ノ總攬者ナラヤト云フコト憲法ノ規定上何人ハ憲法變更ノ權限ヲ有スルカト云フニヨリ定ムヘキモノナルコトハ嘗テ論スル如ナリ事實ニ付テハ此ニ云ハス憲法ハ其始ノ何人カ發シタルニセヨ一旦憲法ヲ定マリタル以上ハ其規定ニヨリテ將來憲法ヲ變更スル權限ヲ有セサルハ統治權ノ總攬者ニテラサルナリ

亦四説ハ法律ノ實體ト法律ノ命令トヲ區別セルモノナリ此説ハ初メテニバンツトノ唱ラル所ニシテ數多ク存者ニ賛成セリ其要旨ニ曰ク凡ソ法律ハ二ツノ要素ヲ區別スルコトヲ得法律ノ定ムル所ノ法規ト此法規ニ與フルニ違由ノ効力ヲ以テスルコトナリ前者ハ法律ノ實體ニシテ後者ハ法律ノ命令ナリ立法ノ手續中ニ於テ國法上重要ナルモノハ法規ヲ裁可シテ法規ニ違由ノ効力ヲ與フル勸ナリ裁可セラルヘキ法規ヲ設ケルモ立法ノ勸ノ一部ナルコトハ言ヲ待タサルモ國家ノ統治權ノ勸キハ之ニアラスノ彼レニテナリ即議會ノ議決ニヨルニアラスレテ裁可ニアルナリ立憲君主國ニ於テハ君主ハ不可分ノ統治權ヲ總攬スルヲ以テ君

主ノ外ニ法律ノ命令ヲ与ル権ヲ有スルモノナシ之ニ及ブ法律ノ实体ハ君主カ議會ト共ニ定ムル所ナリ法律ノ实体ニ且定マリタル上ニテ其律トナルヘキコトヲ命スル所トスルハニ君主ノ自由ナリ
國法ニ上立憲ト称スルコトヲ得ルハ只君主ノ裁可アルノミ此立憲權ノ不可分ナル恰モ統治權ノ不可分ナルトシテ立憲權ヲ有スル機干ハ即統治權ノ依拠者ナリト

下併法律ノ实体ト命令トハ此ノ如ク明ニ區別スルコトヲ得ルモノニアラザルナリ抑モ法律ノ实体ヲ組織セル思想ハ立法者ノ創造セタルモノニアラザルナリ此思想ハ始メヨリ存在スルモノニテ或ハ倫理ノ法則トナリ或ハ實體トナルモノナリ其實體トナルハ國家カ之ヲ遵奉スヘキコトヲ臣民ニ命令スルハナリ故ニ立法者ノ事業ハ法律ノ实体ヲ組成スルニエラスメ既ニ存在セル思想ニ國家ノ命令タル効力ヲ與ルニ在リ又議會ト雖モ立憲ニ依賛スルト云フ以上ハ國家ノ命令タル効力ヲ與フルノ行為ニ依賛スルモノト認メカレカラス要ニ法律ノ實體ニ定ムルノ行為ハ乃法律ノ命令ヲ生スルノ行為ニシテ二者互ニ相密ルカラサルノ干係ヲ有スル裁可ハ實ニ法律ノ命令ヲ與フルノ行為ナルノミナラス又今時ニ法律ノ實體ヲ確定スルモノナリ故ニ法律ノ實體ト法律ノ命令トヲ區別シテ議會ノ權限ハ單ニ法律ノ實體ヲ定ムルニ依賛スルナリトノ説ハ當ヲ得タルモノナリト云フコトヲ得ス下併亦四説ハ成分ノ真理ヲ包

含セラルニテ即臣民ニ命令スル作用ハ獨ニ裁可ニテアリトモコトナリ凡テ立憲國ニ君主國ニ於ケル議會ノ議決ハ他ノ國家權干ニ効力ヲ及ホスト云フニテ直接ニ臣民ニ効力ヲ及ホスモノニアラス例ハ行政官廳カ支出ヲ為スルハ豫算ニヨラサルハ言フ俟タサルモ豫算ニヨラスシテ為シタル支出無効ニテラサルコトハ學者ノ認所ナリ其他事後承諾ハキ直接ニ臣民ニ効力ヲ及ホサルコトハ明ナリナリ此問題ハ立法ニ付テモ莫クナリ且君主ノ裁可ト議會トノ依賛トハ法律ノ成立ニ對シテ均一カヲ有スルモノニアラザルハ多數裁奪者ノ認所ナリ議會ノ依賛ハ直接ニ君主ト共ニ臣民ニ命令スルニテラステ君主カ臣民ニ命令スルコトニ依賛スルナリ臣民ニ對スル命令ハ只裁可ニテ議會ノ議決ハ君主ノ意思ヲ定ムルコトニテカソク有スルニ止マリ臣民ニ對シテハ其君主ノ嘉納スル処ナリタル場合ニ君主ノ意思ニシテ間接ニ効力ヲ生スルニ過キス故ニ此干係ヨリ生シタル自然ノ結果トシテ法律カ臣民ニ對シテ効力ヲ有スル原因ハ單ニ君主ノ意思ニテナルナリ故ニ君主カ正式ニ裁可シタル法律ハ臣民ニ對シテ議會ノ依賛ノ有無ニ拘ラス効力アルモノト解セサルコトヲス若シ然ラストモ法律カ効力ヲ有スルハ君主ト議會トカ同意アリタルカ爲ニシテ君主カ意思ナル爲ニテラス議會ハ唯ニ立法ニ依賛スルノミナラス君主ト共ニ臣民ニ命令スルナリ要ニ議

令ノ愾賛ハ直接ニ外ニ対シテ効カシ生スルヲナシ而シテ議會ノ愾賛ナクシテ法律ヲ發スルヲ云
フ結果ハ要之國務大臣ツシテ憲法違反及ノ責ヲ負ハシムルニテ抑モ統治權ナルモハ國家
カ他人格ニ對シテ行フ權ナリ故ニ國家ノ一權ナク他權ナク干係ニ止ル働キハ統治權作
用ヲ行ス而シテ法律ヲ單ニ君主ノ裁可ニヨリテ臣民ニ對シテ効カシ有スル以上立法權モ君主ノ統
スル所ニシテ議會ノ愾賛ハ其統治權ノ總攬者タル地位ヲ變スルモモテラサレナリ統治權ノ總攬
者タル地位ハ憲法變更ノ權利ニヨリテ定ムルハ屢々述ブル所ナリ而シテ立憲國ノ法律ハ君主ノ
命令ナルコトハ右ニ述ブタル所ニシテ從テ法律ノ一種タル憲法モ亦君主ノ命令ナリ以上ハ統治
權ノ總攬者ハ立憲君主國ニ於テ君主ナルコトハ自ラ明カナリ

第二節 君主ノ大權ヲ論ス

君主ノ大權ト云フ觀念ノ尤モ早ク發達シタル英國ナリ英國ノ國法ニ於テ君主ノ大權ト稱
スルハ法ニヨリ典ヘテタル權カ尊榮又特權ヲ云ヒ並國王タルノ地位ニヨリテ普通法律
ノ例外トシテ他人ニ超ヘテ有スル特別ノ尊榮ヲ云フサトゴトドホクノ定義モ亦然
英國ニ於テハ君主ハ其如ク一切統治權ヲ總攬シタル名民令治ノ政體ニ變更スルハ
天啟多ク事煩ハシト議會ト共全權限ヲ移リタルラステ其尙舊君主カ留存スルモ

ハ凡テ之ヲ大權ト稱スルニ至リ

故ニ英國ニ於テ君主ノ大權ト稱スルハ君主カ他權干渉サスニテヲ自己留保シタル權カ

リト解スルヲ得我國ノ憲法ニヨリ大權ハ大ニシテ總ヲ莫ニスル所アリ我國ノ憲法ノ採ル所
ノ原則ニヨリハ一切ノ統治權ハ君主ノ總攬スル所ナリ凡ソ統治權ノ作用ニシテ君主ノ權ニ

屬セサルハナシ故ニ我國ノ如キ立憲君主國ニ於テハ君主ノ大權ハ之ヲ君主ノ留保權ナリト
解スルヲ得殊ニ立法權ノ如キモ決シテ之ヲ大權ノ外ニ置クノ能ハス既ニ論スルカ如ク統
治權ノ作用タル立法權ハ君主ノ獨リ行フ所ニシテ議會ト共ニ行フモノニアラストスルハ其君主

ノ大權ニ屬セサルコト疑フ容レサル所ナリ

憲法ヲ十七條ニヨリハ摂政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フモノナリ此規定ニヨリハ國家ノ統
治權ハ摂政ヲ置クノ向ハ摂政ニ於テ凡テ之ヲ行フヘキモノタルハ論ヲ俟タサル所ナリ又

ニ立法權ヲ以テ大權ノ外ニナルモノトスルハ摂政ヲ置クノ向ハ何人カ之ノ權ヲ行フヤテ解スル
ヲ得ヌ何トシハ憲法ヲ十七條ハ大權ヲ行フノ外ニ摂政ノ權ヲ認メサレハナリ依之見レハ

我國憲法ノ所謂君主ノ大權ナルモノハ獨乙ノ國法ヲ考者ノ云フ君主ノ政治權ト略シテ
國ヲ以テシセルモノナルカ如ク獨乙ノ國法ヲ考者ハ通常君主ノ權ヲ令ケテ名譽權財產

權及政治權ノ三種トス。栄養権、財産權ニ至リテハ、損政ヲ置クノ向ト、虽モ損政ニ於テ之ヲ行フヘキモノニアラス。レテ君主自ラ之ヲ享有スヘキモノナルハ、華ノ性復ニヨリテ明ナリ。故ニ憲法カ損政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フト云フヲ規定セル向ハ、憲法ニ云フ大權ハ君主ノ政治權トシテ、死曲ヲ令フスルモノナルヲ推測スルニ由ル如此ニ、君主ノ大權ノ性復ヲ解スル中ハ、法律ヲ以テ大權ニ屬スルノ事柄ヲ規定スルヲ得ルヤ否ヤト云フ疑問ハ、治ニト無意味ノ疑問ナリ。立法ハ大權ノ一ノ作用ナリ。以上ハ法律ヲ以テ大權ニ屬スルノ事柄ヲ規定スルヲ得サルハ、自カラ明ニカナル所ナリ。憲法ハ、單三定ノ事柄ハ、君主カ之ヲ定メサルヘカラスト云フヲ規定セルトキハ、如何ナル才法ヨリ如何ナル種類ノ命令ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラスト云フヲハ、三君主ノ決スル所ニテ、リト解セサルヘカラスト法律モ命令モ等シク、君主ノ命令ナル以上ハ、何ヒヲ以テスルモ君主カノ事柄ヲ定ムルモノタルヲ失ハス。唯憲法ノ中ニ特ニ勅令ヲ以テ定ムヘキトテ規定セル事柄ニ付キテハ、憲法ハ只ニ君主カ之ヲ定ムヘキトテ規定セルノミナラス、併テ之ヲ定ムルノ方法ヲモ限ルヲ以テ、君主カ之ヲ定ムルハ、憲法ノ規定セル才法ニヨリサルヘカラスト貴族院ノ担當ニ干スル憲才三四条ノ如キ其ノ一ナリ。

以上述ヘタル如ク、君主ノ大權カ、統治權ノ全体ニ及ブモノナリ。併シ統治權ト大權トヲ以テ全ノ觀念トスルヲ得ス。統治權ハ、國家ノ權ナリ。大權ハ、君主カ、國家ノ權ナリトシテ、統治權ヲ行フ

ノ權限アリ。六權利ニテハ、權限ナリ。六國家ニ屬スルモノナリ。六國家ノ權ナリ。君主ノ大權ニ屬スルモノナリ。君主ノ大權ハ、君主カ、統治權ヲ行フノ權限ナリ。臣下併シ君主ハ、必シモ自ラ實際ノ權ヲ

行フヲ要セス。君主ハ、其大權ノ行使ヲ官廳ニ委任スルヲ得ルハ、憲法ノ禁セザル所ニシテ、憲法ニ定ムル所ノ官制ヲ定權ノ如キハ、君主カ、其權ヲ官廳ニ委任シ得ヘキトシ、間接ニ認

メ居ルモノトスハ、サルヘカラスト、憲法ハ、又場合ヨリテハ、君主カ、必ス官廳ニ委任シテ、其大權ヲ行フヘキトシ、委任セルヲアリ、即チ司法權其例ナリ。

君主ノ大權ハ、広クシテ及ハサル所ナリ。シテ、リノ語ヲ藉リテ、之ヲ形容スルハ、君主ノ大權ハ、各個人權能ノ合体ナリ。テラス、丹瑞ハ、國家ノ把持權能ニテ、恰モ燈火ノ四方ニ火線ヲ放シ、如ク各個人權能トシテ、諸國ノ方向ニ向テ發現スルモノナリ。故ニ大權ニ屬スル各個人權能、一々此ニ列舉スルヲ得ス。是等ノ權能ヲ論スルハ、各種ノ國家ノ權能ヲ論スル時、權

ニ讓ラサルヘカラスト、大權ハ、君主ノ國家ノ統治權ヲ行フ權限ナリ。此權限ハ、我國ニ依テハ、司法、行政、立法、何レ

モ包含ス。只憲法上、余ノ說ニ及スルハ、才六四條ノ豫算ニ關スル規定ナリ。余ノ解スル所ニヨリハ

大權ハ、君主ノ國家ノ統治權ヲ行フ權限ナリ。此權限ハ、我國ニ依テハ、司法、行政、立法、何レモ包含ス。只憲法上、余ノ說ニ及スルハ、才六四條ノ豫算ニ關スル規定ナリ。余ノ解スル所ニヨリハ

大權ハ、君主ノ國家ノ統治權ヲ行フ權限ナリ。此權限ハ、我國ニ依テハ、司法、行政、立法、何レモ包含ス。只憲法上、余ノ說ニ及スルハ、才六四條ノ豫算ニ關スル規定ナリ。余ノ解スル所ニヨリハ

今条ハ義務ニヨリトシテ主眼ニテ今条ノ右段ハ義務ノ支出ニテ前段ハ事務ニ属
セリ支出ナリ此ノ付テハ後日述フル所アリ

第三節 君主ノ地位ニ対スル權ヲ論ス

君主ノ大權ハ權限ニテ權利ニテラナルニ及ビ國法ニ從テ一定ノ條件ニ當ルモノハ君主ノ
地位ニ對シテ權ヲ有セリ此權利ノ所在ニ定ルルハ即君位繼承法ナリ君位繼承トハ
前代ノ君主ノ權ヲ繼承スルトヲ意味ニテラス唯敎化ノ自然ノ力カ一定ノ順序ヨリテ君
主ノ位ニ即ストモフ意味ナリ統治權ノ主体ハ本末國家ナルヲ以テ君主ノ交代スルモ統
治權ハ其主体ヲ變スルコトナシ又君主カ君位ニ對スル權利ハ之ヲ前代ノ君主ヨリ繼承スル
ヲナスルコト國法上當然一定ノ事項ニヨリテ生スル所ノ自己ノ權利ナリ前代ノ君主ノ權利カ
消滅シテ之ト同時ニ新ナル君主ノ權利ヲ新ニ發生スルモノナリ前後ノ君主ノ間ニ權利相
続ノ關係ナレ故ニ往時ニ於テハ往々統治權ヲ所有權ト同視シテ君位繼承ハ家督
相続ト誤解セラレタルモ如此見解ノ誤ルハ今日於テ人ノ普ク認ル所ナリ
君位ノ地位ニ對スル權利ハ公法上ノ權利ニテ私權ニアラス此權利ハ或ハ之ヲ拋棄スルコ
ト得レト契約等私法上ノ法律行為ニヨリ処分スルコトヲ得ルモノニテラスニ公法ノ規定ニ
依リテ之ヲ得ルモノナリ

一(キモノナリ)若シ公法ノ變更ニヨリテ權利ノ變更ヲ生スルコトアリテモ干係者ハ既得ノ
權利ヲ主張シテ異議ヲ述フルコトヲ得ザルハ言フ俟タサルナリ故ニ皇室典範又ハ皇室
ノ家法ノ變更ニ皇室議會ノ議決ヲ要スルコトアリテモ之ハ國家ノ極干トシテ議決スルニ
テリテ各皇族カ權利ノ主体トシテ承諾ヲ与フルモノニアラス君位繼承ノ權ハ君位繼承ノ
資格ト君位繼承ノ順序トヨリテ定ムルモノナリ一定ノ條件ヲ充タスモノニアラサレハ始メヨリ
シテ君位ヲ繼承スルコト得入之ヲ稱シテ君位繼承ノ資格ト云フ繼承ノ資格ヲ有スルモノ
中ニ付テ何人カ先ヅ先キ君位ヲ繼承スルモノカヲ定ムルモノヲ君位繼承ノ順序ト云フ繼承
ノ資格ハ各個人ニ屬スルモノニシテ繼承ノ順序ハ各個人ノ相互ノ關係ニ屬スルモノナリ二者
共ニ國法上當然定ムルモノニシテ各個人ノ場合ニ於テ特ニ之ヲ定ムルコトヲ要セヌ又之ヲ定ムル
コト得ス我典範ハ亦十六條ニ於テ皇太子皇太后孫ヲ立ツル中ハ詔勅ヲ以テ之ヲ公布ストノ
規定ヲ設ケタリ下御儲子タル皇太子皇太子トシ儲子タル皇太子皇太子トシハ典範
亦十四條ノ定ムル所ナリ而シテ何人カ儲子ナルハ典範亦一章ニ定ムル所ナリ以テ皇太子
立太孫ノ式ハ必見スル此上ノ儀式ニシテ皇嗣ノ地位カ之ニヨリテ初テ定ムルモノニアラス故
ニ皇典ノ義解ニ皇嗣ノ地位ハ立法ノ儀式ニヨリテ初テ定ムルモノニアラス而シテ立法ノ義ハ

之ヨリテ以テ臣民ノ瞻望ヲ厭カシムルニテリト云ヘルハ敢テ不当ノ言ニテラス下併立太子立太孫ノ式ハ皇嗣ノ位置タルノ効カヲ有スルモノニテテ繼承ノ順序カ疑ニ直リテ及対ノ確証ヲ得サル場合ニ於テハ立嗣ノ式ヨリテ皇嗣ト定メラレタルモノヲ以テ繼承權アルモノト認メサルヘカラス故ニ臣民ノ瞻望ヲ厭カシムルニアルニ止ルトスルハ立太子立太孫式ヲ尽シタルモノト云フヲ得ス

第一 君位繼承ノ資格

右ノ要件タル事柄ハ諸國ノ國法ニヨリ異同アルハ勿論ナリ其重ナルハ

(一) 始祖ノ後裔ナルハ 此輩ハ何レノ世襲君主國ニ於テモ君位繼承ノ要件タルハ言ヲ俟タズ故ニ始祖ノ兄ノ叔伯等ノ後裔ハ君位ヲ繼承スルヲ得ス始祖ト後裔トノ干係ハ血統上ノ干係ナラサルヘカラス養子ノ制度ハナポレオンノ帝國ニハ之ヲ以テ血縁ノ種ノ干係ニ代ヘタルトナキニ非レ元來養子ハ民法上ノ一制度ニ過キサルヲ以テ直ニ之ヲ公法上ノ干係ニ及ホマラズ得ス憲法ニ所謂「カセ」系ト云フハ元ヨリ支系ヨリ出テハ大體ヲ繼グコトヲ得スト云フ意味ニアラサルハ明ナリ必竟神武帝ノ皇位ナラサルヘカラスト云フナリ故ニ始祖以前ノ支系ヨリ入りテ大系ヲ繼グヲ得サルハ明カナレ今日ニ於テ論スルハ要件キナリ

キナリ

(二) 男系ノ男子ナルハ 此干係ニ於テハ諸國ノ制度ニ二種アリ其一ハ男系ノ男子ノ外ハ

全ク繼承ノ資格ナシ女子ハ勿論ノ一男子ト雖モ女子ノ子孫タルモノハ繼承スルヲ得ス我國并ニ普華ハ此種美ニ屬ス尙伊、白、英、那ノ如ク其ノ制度ハ女子及女系ノ男子ニモ繼承ノ權ヲ与ルモノナリ此種美ノ制度ニモ二種アリ一ハ全系内ニ於テハ男子ヲ女子ヨリ先キスニハ男系ノ全ク絶エタルハ始テ女子ニ繼承ノ權ヲ与フハ英、西、葡ノ如キハ一ニ屬シ

澳及普ヲ除キ専ラルニ諸國ハ二ニ屬ス

(三) 嫡出ノ子ナルハ 歐ノ諸國君主國ニ於テハ嫡出ノ子ニシテ其父祖モ嫡出ニテハ

レハ君位ヲ繼承スルヲ得ス認知ニヨリ嫡出トスルハ私法上ノ特別ノ規定ナラ故直ニ其効ヲ公法上ノ干係ニ及ホスヲ得ス我國ニ於テハ皇太子孫天皇位ヲ繼承スルヲ得皇室典範ヲ十六條ニハ皇后ヲ立ツレハ詔書ヲ以テ之ヲ公布スト規定ナリ然レ立后式モ一ノ儀式ニテ皇后ノ地位ハ立后式ヨリ始テ定ルモノニアラス皇太子ノ妃ハ皇太子ノ即位ト共ニ当然皇后タルハ言ヲ俟タズ必竟立后式ハ立太子立太孫ト合シク皇后ノ地位ヲ公明ニ之ヲ公証スル効カヲ有スルニ過キス夫レ故立后式ハ前ニ生シタル子ハ必スモ廢出

(四) 家法ヨリ認可ヲ得其外国ノ規定ニ従ヒ為シタル子孫ナルハ諸国ノ制度カ君位
 継承ノ条件トセリ、皇族ノ婚嫁ハ諸国ノ法ニ於テ多クハ国王ノ認可ヲ要ス
 又ハ国ヨリテハ国家ノ承認若シハ特別ノ法律ヲ要スルナリ澳、下、印、仏等ハ認可ヲ
 要ス伴モ并然リ英国ハ認可ヲ要スモ或ル年令ニ達シ条件ヲ具スル公法上有効ト
 スルアリ西、葡ハ特別ノ法律ヲ要ストセリ葡ハ王ト女王トノ結婚ハ国会ノ承認ヲ要
 トセリ

皇室典範ハ皇族ノ婚嫁ハ勅許ニヨルト規定セリ下印等ノ国法奉者ノ説休
 レハ国王ノ認可ヲ得サル結婚ハ国法上ノ効果ヲ生セサルニ止リ民法上全ク無効ト認
 ノラレサルニ及シ我國ノ法ニヨリハ勅許ハ国法上ノ効果ヲ生セシムル為メニ必要ナルニテラス
 婚姻夫レ自身ノ効力ヲ生セシムル為メニ必要ナルナリ例ハ皇女カ華族ニ婚嫁
 スル場合ハ少シモ国法上ノ干係ヲ有セサルニ係ハラス尚勅許ヲ要スルコトナレタルハ
 勅許ハ婚姻夫レ自身ノ効果ヲ生セシムルニ必要ナル為メナリ夫レ故勅許ヲ得
 サル結婚ハ初メヨリ無効ニテ其結婚ニヨリ生シタル子孫ハ庶出ノ皇子子孫ト看做

サレハカラス認可又ハ勅許ヲ豫メ得タルモノ、ミナラサルヘカラス認可ヲ得サル結婚ハ法
 規ニ違反スルモノ故尺ニ私権ヲ侵害シタル場合ノ如クニ追認ニヨリ其疵救ヲ癒スル
 コトヲ得ヌ認可ヲ得サル結婚ハ單ニ其子孫ニ繼承ノ権ヲ得サルコトノ効果ヲ生スルノ
 ミナラスニノ国法ハ之ヲ以テ結婚者自身カ繼承ノ権ヲ喪失スルモノトスルアリ例葡、那
 典ノ如シ

(五) 対等ノ結婚ニヨリテ生シタル子、歐ノ諸国殊ニ独ノ諸国ニ於テハ対等ノ結婚ニヨ
 リテ生シタル子ヲ以テ君位継承ノ要件トセリ如何ナル結婚ヲ対等ノ結婚ト認ムルヤ
 ハ諸国ノ家法慣習ヨリ定ルモノナリ概シテ之ヲ云ハハ現ニ諸国ヲ統治スル諸国ノ華族
 又ハ曾テ統治シタル子ノ華族トノ結婚ハ対等ノ結婚トナリ対等ノ結婚ニアラサ
 ルモノヲ身分差ノ結婚ト称シ其子孫ハ君位ヲ繼承スル権ナキナリ
 皇室典範三九条ハ皇族ノ婚嫁ハ全族又ハ勅旨ニヨリ特ニ認許セシタル華族ニ
 限ル此規定ノ文字ノミニ付テ見レハ皇子ノ結婚ハ此条ノ規定ヲ適用スルコト明カナル
 モ君主カ自ら皇后ヲ定ムルニハ之ヲ適用スルコト能ハサルカ如キモ立法ノ精神ヨリ論スレ
 ハ此場合ニモ公法則ニ依ルヘキコト疑ヲ容セス故ニ他ノ華族トテ又士族平民ノ結婚ハ

典勅ニテ其結婚ニヨリテ生レタル子孫ハ庶子孫ト認メサルヘカラス下併典範ニ由リ
タル所ハ政ノ所謂対等ノ結婚トハ大ニ趣ヲ異ニスル所アリ華族ノ爵ヲ典フルヘカ君
主ノ大権ニ屬スルヘカ故対等ノ結婚ノ如クニ皇族ノ婚嫁ハ確定不動ノ範圍ニヨリ
限ラレタルニ非ス

(六) 信教、政州ノ諸國ニ於テハ信教ヲ以テ君位繼承ノ要件トスルアリ殊ニ英國ニ
於テハローマ旧教ノ信教又ハ其信者ト結婚シタルモノハ王位ヲ繼承スルヘカ得ス又諸
國ノ法ハ僧侶ニ繼承ノ權ナシトセリ普ニ於テハ信教ニ依テハ別ニ制限ナキモ僧侶
ハ還俗セサルハ王位ニ即クヘカ得ス教法上還俗ヲ許ササルローマ教ノ僧侶ハ繼
承ノ權ヲ有セスト孝子者ノ往々鮮ク可ナリ

(七) 身体上精神上ノ不能カハ諸國ノ法ハ往々君位繼承ノ資格ヲ失フ理由トセリ、
下併不能カノ事實ヲ認ムルノ堅キ為ニ往々却テ紛議ヲ引起ス恐レアル故英普
其外近頃ノ憲法ハ肉體上不能カヲ以テ無資格トセシ此等ノ國ニ於テハ單ニ之ヲ
以テ攝政ヲ置クノ事項トナスニ止リ典範九條ニヨリハ皇子カ精神若クハ身体ノ不治
ノ重妻アルカ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議又ハ樞密顧問ニ諮詢シ皇位繼承

承ノ順位ヲ變更スルヘカ得此規定ヲ適用スルハ身体又ハ精神上ノ病妻カ重大ニシテ治
ルヘカ出来サルヘカ必要トス其他ノ事故例ハ往々行上ノ欠矣ノ為ニ此条ヲ適用スルハ其事故
カ重大ナルヘカ必要トス如何ナル場合ニハ不治ノ重妻アリ如何ナル場合ニ重大ナル事實アル
カハ君主カ皇族會議又ハ樞密顧問ニ諮詢シテ認定スルキ事實ノ問題ナリ下併九條ノ
事實ハ君位繼承ヲ當然失フ事實ニテスヘカ適當ノ手續ヲナシテ適法ノ順序ヲ變更シテ
初テ繼承ノ權ヲ失フモノ故君主ノ崩御ノ後ニ至リテハ諮詢スルノ人ナク加之皇子ハ君ヲ崩
御トシ時ニ當然位ヲ継クモノ故崩御ノ後ニ至リテハ繼承ノ順序ヲ易スルヘカ得サルハ言フ俟
タス及ニ攝政モ諮詢ノ權ヲ行フヘカ得ル故攝政ヲ置クノ間ニ皇位繼承ノ順序ヲ易スルヘカ
得ルト解セサルヘカラス

(八) 政務諸國ノ憲法ハ往々國會ノ公意ナクシテ君主カ今時ニ外國ノ君主トナルヘカ禁ヤリ又歐
頭徹尾之ヲ許サルアリ、此等規定アル國ニ於テハ現ニ外國ノ君主トナリ居ルモノハ其位ヲ
讓カ又國會カ之ヲ認ムル外ハ繼承ノ資格ナシ其外或ハ外國人ハ君位ヲ繼承スルヘカ得ストノ明
文ヲ設ケルアリ葡ノ如シ

第二章 君位繼承ノ順位

君位ヲ繼承スルノ資格ヲ有スルモノハ合時ニ數人アル場合アリ下併国土ヲ分配スルハ元ヨリ國
 家ノ性質ニ及スルモノ又所謂ノ繼承ノ一般ニ行ハル今日ニ於テハ數多ノ人カ合時ニ君位ヲ繼承
 スルニ能サルハ勿論ナリ夫故數多ノ繼承資格ヲ有スルモノノ中ヨリ一人ノ君位繼承者ヲ定ムルノ
 法ナカルヘカ又是即君位繼承ノ順序ニ于テハ種々ノ制度アリ其一ハ
 所謂最近親繼承法ナリ此法ハ前代ノ君主ニ對シ血統ノ最モ近キモノカ繼承スルト云フ法ナリ是レ
 合年ナレハ年ノ長幼ニヨリ決ス「サクセン」ウナルテンブルト等ノ獨乙諸國ニハ男系絶エ君位カ
 女系ニ移ル中ニ當リ最初ノ繼承者ヲ定ムル法ハ此最近親繼承法ナルカ如シ君位繼承
 ノ他ノ方法ハ所謂年長者繼承法ナリ此法ニヨリハ繼承ノ資格アルモノノ中ニテ最モ年
 長ノモノカ繼承スルモノトス此制度ハ君位繼承ニ關シテハ其實例ナキモ攝政ナルノ順序ヲ
 定ムルニ此方法ヲ用ユルアリ
 其外女子繼承法ノ如キモ「バイエルン」ノ如キハ或特設ナル場合ニ行ハルアリ下併君位繼
 承ノ順序ヲ定ムル法ニテ諸國ニ通シ一般ニ行ハルハ長子繼承法ナリ此法ハ三ツノ法則ヨ
 リ成立セリ

其一 繼承ノ順序ハ前代ノ君主ニ對スル干係ノ遠近ニヨリテ定ム

其二 合年内ニ於テハ長ハ幼ニ先テ繼承ス

其三 才一ニ繼承スヘキ資格アル人カ君主ニ先テ世ヲ去リタルトキハ其子孫ハ代表ノ權ヲ

有シ父祖ト合一ノ地位ニ立ツモノトス

此等ノ三ツノ法ヲ綜合スルハ繼承ノ權ハ最近ノ長子ニ屬スルト云フコトヲ得普由以下
 典及ニ三ノ小國ニ於テハ此法則ハ尤モ單純ニ行ハレ居ルモ女子ニ繼承ノ資格ヲ與フル國ニ
 於テハ繼承ノ順序ハ稍錯雜セリ女子ノ繼承ノ順序ニ關シニ種々ノ方法アルコトハ前述セリ英
 西葡三行ハルノ順序ハ君主ニ近キ女系ハ其干係ノ遠キ男系ニ先テ繼承スルニ女系ト男系
 トカ君主ニ對スル干係等シキ中ハ女系ハ男系ニ讓ラサルヘカラス
 女系ニ繼承ニ干スル才一ノ法ハ男系ノ全ク絶エタル中ニ幼テ女系ニ繼承ヲノ權ヲ與フルモノナ
 リ而君位カ男系ヨリ女系ニ移ル中ニ當リ先ツ女系ヲ定ムルノ方法ハ往々錯雜セリ其重ナル
 方法ハ最近親法ナルコトハ前述ノ如シ他ノ一才法ハ女系ニ付テ男系ト全ク合シ才法ニヨリ繼
 承者ヲ定ムルハ濶其他ニ三ノ獨乙諸國ニ行ハルモノナリ何レノ才法ニヨルモ一旦男系ヨリ女系
 ニ移リタル後ハ其後ノ繼承法ハ通帝ノ繼承法ト合シ我國ニハ女子及女系ノ男子ニ繼
 承ノ權ナキモ庶子ニ繼承ノ權アルコトハ前述ノ如シ君主ニ對スル合年親及具子孫ノ間ニ

於テハ庶ハ嫡ニ讓ラサルヘカラス及之異等親ノ系屬ノ間ニ等ノ隔リタル系統ハ嫡系ナルモ等ノ近キ庶系ニ讓ラサルヘカラス今等親ノ庶系ハ庶系トノ間ニハ幼系ハ長系ニ讓ラサルヘカラス

第三 特別ノ继承法

始祖ノ後裔全ク絶エタルハ通常ノ继承法ヨリ君位ヲ充タスヲ得ルナリ此場合ニ関シテハ諸國ノ憲法ハ或ハ他ノ系統ヲ豫メ指定スルアリ例ハ葡西ノ如シ
獨乙ノ諸國ニ於テハ所謂继承契約アリ继承契約ハ王室ト他ノ家族トノ間ニ存スルモノシテ一ノ家ノ系統絶ヘタルハ君位カ他家ニ移ルトキコトヲ契約スルナリ此等ノ契約ハ今日ニ於テモ多数ノ學者ノ説ニ依リ其効力ヲ保有シニモ憲法ハ女系ニ先テ继承スヘキコトヲ明言セリ此ノ如クニ憲法カ豫メ指定スル系統カ又ハ继承契約ヨリ继承権アル系統カ統カ初メヨリナキカ又ハ继承絶ニタルトキハ或國ノ憲法(例ヲルラニブルヒヘハ)ニ明言セル如ク憲法変更ト全ク手續ヨリ更ニ明文ヲ設ケルノ外ナシ數多クノ憲法ハ王統ノ絶ヘタル場合ニ關シ特別ノ規定ヲ設ケ議會ニ主權ヲ撰クノ權ヲ與ヘタリ例ハ葡下ノ典ノ如シ

第四 即位

君位继承法ヨリ继承ノ順序ヲ始メヨリ定メ居ルハ君主ノ崩御スル時ニ皇太子ハ当然位ニ即クモノトテ特別ノ行為ヲ要スルコトニ世襲君主國ノ元則ナリ國王ノ不死モ此意ナリ典範第十九條ニ天皇崩スルハ皇子即踐跡シ祖宗ノ神嘗テ受シト云フハ此意ヲ明セルナリ
君主ノ崩御ニ此場合ニ继承者明カナラズ場合ニ一旦继承者確定シタルハ崩御ノ時ニ溯リ直ニ继承シタルモノトス殊ニ君主崩御ノ際ニ皇胤カ尚胎内ニアルハニハ其間根政ヲ置キ其降誕ヨリ其继承者定メ時ニ溯リ继承スヘキモノトスルハ之レ學者ノ皆認ムル所ニテ歐洲諸國ノ普ク行ハル法則ナリ現ニ數年前ニ於テ西國ニ其实例アリ(一八八五年アルゴンヌ才十二世崩、一八八六年アルゴンヌ才十三世降誕)一ニ憲法ハ此主旨ヲ明言セリ和蘭憲法第十九條ニ依リハ懷胎中ノ小兒ハ王位继承ニ関シ已ニ生シタルモノト看做ス又那威憲法第十九條ニ合様ノコトアリ
君主カ君位ニ即クニ至リ即位式ヲ行フアリ乍侯君主カ即位式ヨリ始メテ位ニ即クモノニアラス實際ニ於テモ即位式ヲ往々行ハサルコトアリ典範才十七條ハ即位式及大嘗祭ハ

京都ニ於テ之ヲ行フト規定セリ
君主ノ即位キタル際ニ憲法ヲ確守スルニ宣誓ト宗教ニテスル宣誓トヲ為ス
ヲ要スルハ歐洲諸國皆然リ下俟君主ハ憲法上当然君主トスルモノシテ憲法ヲハ違
守スルト云フ義務ハ宣誓ヨリテ始メテ生スニアラス宣誓ハ必竟一儀式ニ過キス夫
故ニ宣誓ヲナハルハ同義又宣誓ヲ拒ムルモ之ヲ為メニ君位ノ地位ニ影響ヲ及ボサレ
ルハ勿論ナリ君主ノ權ヲ実行スルコトヲ妨ケラレサルコトハ多數ノ學者ノ一致スル所ナリ
只タ二三憲法ノ如ク特別ノ規定ヨリテ宣誓ヲナスマシメテ同ノ政務ヲ行フコトヲ
得スト規定セハルハ式ヨリ別致ナリ例ハ、ベルテンブルヒ、丁、西ノ如ク
君主ノ地位ニ對スル喪失ハ崩御ヨリ喪失スルニ云フコトハ言フ俟タセテ明ナリ其他ニ
位君ノ喪失スル原因ハ尤ノ如ク
第一節 君位ノ喪失
君主ノ地位ニ對スル一人ハ君主ノ地位ニ對スル權利ヲ拋棄スルコトヲ得ルハ歐洲諸
國學說又ハ實例ノ認めル所ニテ和蘭憲法ノ如キハ特別ニ明定セリ唯西國憲法ハ
讓位ノ特別ノ法律ヲ要スト規定セリ下俟讓位ハ單ニ君位ノ權利ヲ棄ルルニ止マリ憲法ハ

家法ヨリ定ムル所ノ繼承ノ順序ヲ變更スルコトヲ得ヘキモノニアラス夫故儲子タルノ資格ナキモ
ノニ位ヲ讓リ又ハ大權ノ一部ニ限リテ之ヲ讓リ重祚ヲ條件トシ位ヲ讓ルルコトヲ得スト云フコトハ
言フ俟タス典範十條ハ天皇崩御ニシタル外ハ白子カ踐祚スル場合ヲ認メス讓位ハ
我國法ノ認めサル所ナリ皇子カ即位ニ當リ白子嗣タルノ權ヲ拋棄スルコトヲ得ルヤ否ヤハ憲
法及典範ノ明定スル所ナルモ君主ノ崩御ノ後ニ於ケル皇子ハ当然君主トナル故其權利
ヲ拋棄スルハ即チ讓位ト令シ又君主ノ崩御ノ前ニ於テハ君位ニ對スルノ希望ヲ有スルニ
シテ權利ヲ有スルニテラス故ニ權利ヲ拋棄スルコトヲ得ス
(一) 讓位ハ必スシモ君主ニテ明言シタル場合ニ限ラル君主ノ行爲ヨリ推測スルコトナリ
例ハ、英ニ特別法タル一六八八年ノ革命カ例トナリテ君主カ國ノ憲法ヲ破壞スルコトヲ試ミ且ツ
本國ヲ退去シタルハ此事實ヨリシテ君主ノ地位ヲ欠ケルモノト看做ス
(二) 君位繼承ニ必要ナル要件ヲ欠クニ至リタルトキ、例ハ、英ノ君主カ即位ノ宣誓ヲ拒ミタ
ルハ、英羅馬教ニ改宗シタルハ又ハローマ教者ト婚姻シタルハ、英ノ如ク
(三) 一、二、國憲法ニテ他ノ事項ヲ基キテ君位喪失ノ原因トスルモノアリ例、蘭ニハ女王ノ
結婚ニ法律ノ承認ヲ要ス爾ノ憲法ハ國會ノ承認ヲ經スルコトヲ三ヶ月以上外國ニ滞

在シタル由ノ如シ

第五節 君主ノ地位ニ隨伴スル權

國家ノ權干タル君主ノ權限ノ外ニ君主ノ地位ヨリ其身上ニ屬スル權アリ其ハ榮貴任ノ身分ナリ其ニハ榮譽權ナリ其三ハ財產權ナリ

第一 諸君主國ノ憲法ハ皆或ハ君主ハ神聖ナリト云ヒ或ハ不可侵ナルモノナリト云ヒ共ニ今ニノ思想ヲ表スルモノニテ君主カ自己ノ行為ニ付テ責任ニ任スルコトナキヲ表ハスナリ君主ハ國家ノ權干トシテ責任ニ任スルコトヲ得サルハ勿論ナリ又一身上ニモ責任ヲ負フコトナシ特ニ立憲君主國ニ於テハ君主ハ統治權ノ總攬者ナリ司法權モ君主ノ行ハキモノナルヘキコトヲ俟タス夫故ニ君主ヨリテ責任ニ任セムルハ即チ君主自ラ處罰スルニ外ナラス白ノポチエハ君主ヲ裁判スル人ナキ故無責任ナリトスルニテ又國ヲ統治スルノ便宜上ニテテタリト云ヘリ下併國法上責任ト云フハ自己ノ行為ニ對シ國家權力ノ作用ニヨリ不利答ヲ受フルコトヲ得或ハ不可不得資格ヲ云フ而シテ民事ノ訴訟ハ權利ノ所在ヲ明ニスルコトヲ目的トスルモノニシテノ國家ノ權力ニ依リ私人ノ行為ニ對シ不利答ヲ與フル意思ニ出ラタルニテラ現ニ國家自身ニモ民事ニ付テハ裁判所ノ裁判ヲ受クルコトアリ民事上ノ干係ニ付テハ政治カ諸國ニ於テ

ハ君主モ地方裁判所ニ出訴セラルコトナリ此場合ニ於テモ外形上君主ノ内藏ニ對シ出訴スルコトヲ我國ノ君主ハ民事上ノ干係ニ付テモ裁判所カ君主ニ對シ裁判スルコトヲ認メ典範第六十條ニ皇族ニ對シ訴訟ニ付テ別段ノ裁判管轄及ヒ手續ヲ認メタルニ此条々ハ君主ニ對シ訴訟ニ適用スルコトヲ得ス君主カ無責任ナルハ法律上責任トシトナリニシテ政治上道德上ノ責任トモ君主モ或ハ免ルヘカナルコトヲ俟タサルナリ元首ハ不可侵ナル原則ヨリ生スル一ノ結果トシテ刑汰カ元首ノ身体ニ對スル犯罪ヲ嚴刑ニ処スル事實ヲ奉クルモノ往々アリ然レモ若シ他ノ私人ニヨリ侵サレサルノ法律上不可侵ノ結果トモ何人トモ此性質ヲ持タサルモノナシト謂ハルヘカラス國法上不可侵ナルコトハ國家ノ權力ノ作用ニヨリ侵サレストノ意味ニテ私人ニヨリ侵サストノ意味ニテラス特ニ刑汰ハ皇族ニ對スル犯罪ヲモ懲刑ヲ以テ処罰スル故身體ニ對スル犯罪ヲ嚴刑ニ処スルト云フヲ不可侵ヨリ生スル特別ノ效果ト見ルコトヲ得ス

第二 榮譽權ニ付テ述ベシ、君主ノ其位置ニ於テ一身上種々ノ榮譽權

ヲ有ス其重ナルモノハ左ノニナリ
一 君主特別ノ稱號敬稱ヲ用ヒ尊榮ノ徽章ヲ帶ル特權ヲ有ス此等ノ稱號

二用フルハ一般ニ林カセル、必シテ君主ノ独リニテ用ルルコト妨テラレサルノ特權ヲ有
ス此等ノ特權ヲ用フルハ独リ君主ノ意思ニ依テ表スルコトナラス併ヤテ国家ノ威嚴ヲ
表シスルモノ故ニテ用フルハ君主ノ權ナト今時ニ又義務ナリ

二内廷ヲ組織スルノ權 私人トモ其一身ノ用務ヲ知弁スル爲メ人員ノ用ム
ルコトヲ得ルハ勿論ナリ君主ノ特權トハ内廷ヲ組織スル人員ニ對シテ国家カ官位
階ヲ認メテ私人ノ女子ニテ唱フルコトヲ禁シテ之ヲ保護スルニアリ

以上ノ榮譽權ノ外ニ女子者ハ姓々位階勲章ヲ授ケル權ヲ君主ノ榮譽權ニ
數ル者アリ併他人ニ榮譽ヲ与フル權ハ直ニ之ヲ自己ノ榮譽權ト認ムルコトヲ得ス且
国家ニ功勞アル者ヲ賞スル爲メニ其他ノ目的爲メニ国家ノ公認ナル榮譽ト他人ニ与ル
国家ノ政務ノ一ナリ故ニ位階勲章ヲ授ケル權ハ君主ノ榮譽權ニ屬スルコトヲ密テ大權

ニ屬ス(ザイデルノ説)其他女子者ハ寺院ニ祈禱スルコト誕生日ノ祝祭國喪等ヲ君主ノ榮
譽權ニ數ル者アルモ此等ハ寧ろ国家ノ臣民ニ對スル命令ノ *Regal Protection* ト看做
スヲ適當トス特ニ國喪ノ如キハ崩御ノ後ニ生スルモノナラ故ニ之ヲ君主ノ特權ト認ムルコトヲ得
第三財主生權ニ付テ述ベレニ諸ノ君主國ニ於テハ国家ノ君主ノ内廷ノ費用ヲ并ニ

スル爲メニ毎年一定ノ金額ヲ支出スルニ負擔スルヲ例トス之ヲシビルヤスト *(Chilblist)* ト
フ *(Chilblist)* トハ或ハ英國ノ如クニ君主ノ一代ニ限リテ余ハナク一定ナルコトナリ我國及普
通ノ如ク永久ノ定額ヲ定ムルコトナリ其他諸國種々ナリ皇室禮儀ヲ皇室ニ對シテ支出
スルハ國庫ノ支弁ニ屬スルコトナリ疑ヲ容レスト金庫皇室カ其支出ヲ受ケタル後ニ如
何ナル費途ニ支出スルヤハ皇室ノ内事ニシテ国家ノ財政ニ屬セズ徒テ其收支ハ議會ノ
議ヲ容ルハカヲサルハ言ハレ候タス皇室禮儀ノ定額ニ對シテ存在スル權利ハ君主ノ地位

ニ付テモニミテ君位繼承ト共ニ当然新ナル君主ニ移ルルハ言ハレ候タス其外君主ノ私人
財產ハ普通民法上ノ法則ニヨリ相続スルモノナリ天世傳御料ハ分割讓与スルコトナリ
性質ヲ有スルモノニテ君位ノ繼承ト共ニ当然後ノ君主ニ移ルモノナリ之ハ君主ノ地位
ニ隨伴スルニアラスシテ皇族ノ族長タルノ地位ニ隨伴スルモノナリ世傳御料ハ世襲財產
タルノ性質ヲ有シ民法上君主ノ財產タルモノニアラス

第二章 攝政

第一節 攝政ノ地位上ノ地位

君主國ニ於テハ君主ノ專ラ統治權ヲ總攬スルアリ又ハ他ノ械干ト共ニ統治權ヲ總攬ス

ルテリ国家ノ意思ハ君主ノ行為ヨリ生ス其故君主國ニ於テハ君主タル人カ国家ノ
意思ヲ生セシムル行為ノ能力ヲ要ス併シ君主ノ地位ハ君位継承法ヨリ一定シ未成
年ナリ又ハ疾病其他ノ事項アル為メ君主ノ地位ニ就クテ妨ケラレトアリ又君位ニ
即キタル后ニ此等ノ事項生シテ君主ノ地位ヲ失フナリ此等ノ場合ニ於テ君主
國家機干トシテノ行為ハ自然ノ作用ヨリ生セラル故國法ノ作用ヨリ生スル制度
ヲ設ケサルハカラス此ノ制度ヲ撰政(リーゼンド)トイフ
撰政ノ性質ヲ明ニスルニハ左ノ諸實ニ注意スルヲ要ス

(一) 撰政ノ行為ハ即君主ノ行為ナリ君主ノ行為ナル故即國家ノ行為トスルナリ夫故撰
政カ國家ノ大政ヲ行フハ即君主カ大權ヲ行フニテ撰政夫自身ノ權限ハ君主ノ能力ヲ
補足シテニヨリテ大權ヲ行フコトヲ得セシムルニテ憲法カ撰政ハ天皇ノ名ニ於テハ大權ヲ
行フトイフハ此ノ意ヲ明ニシタルニ外ナラス
(二) 君主ノ行為ハ撰政ノ為メ制限セラルニテ却テ撰政ノ行為ニヨリ生スルナリ撰
政ニヨリ君主ハ始メテ行為ノ能力ヲ得ルニヨリ始メテ國家ノ行為ヲ生スル
コトヲ得國家ノ機干トシテ統治權ノ統攬者タル地位ヲ制限スルモノニテラスシテ却テ其

地位ヲ全ラスルモノナリ

(三) 撰政ハ君主ノ能力ヲ補足スルコトヲ任務トスルモノ故君主カ大權ノ及テ限リハ撰政
ニ其權限ヲ行フコトヲ得ルコト當然トス然レモ其數ヲ憲法ハ二三事項ヲ舉ケテ
撰政ヲ制限スルアリ(憲法七五)

(四) 撰政ノ任務ハ君主ノ能力ヲ補フニテ故行為ノ能力ヲ有セサル君主カ任ニアルコトヲ以
要件トス若シ君主カ行為ノ能力ヲ得ルカ又ハ其位ヲ去ルハ撰政セテ消滅ニ取
ルコトハ言フヲ俟タス(然レモ撰政ハ君主ノ委任ニ限ラス)

(五) 撰政ハ君主ノ委任ニヨリ大權ヲ行フニテ憲法上當然之任スルモノナリ撰政
ヲ置クハ往々各例ノ場合ニ於テ必然ノ有無ヲ決定スルコトヲ必要トスルコト有ル此ノ決定
憲法上撰政ヲ置クコトヲ要スル場合ナリヤ否ヤヲ決定スルニテ其場合ニ存在スル以
ハ憲法上必ス之ヲ置カサルハカラス要スル撰政ノ委任ノ場合ハ此ノ委任者ノ意思ニ
之ヲ置フト否ト之ヲ解クト否トヲ決スルニテ撰政ノ政事ヲ行フコトヲ要スル君主ノ意
ニ從ヒテ行フニテラスシテ專ラ自任ノ意思ニ從ヒテ行フナリ各撰政トテ前連時ニ未
任セシメル事項ニ限リ國家ノ政務ヲ行フニテラスシテ憲法上特別制限ナキ限リハ尤

大権ニ属スル一切大権ヲ行フコト得ル之ヲ行政ハ君主自ラ行爲ノ能クシ久ク場合
ナシ憲法上君主行爲ヲ生シ國家ノ統治權ヲ行フニ任務ヲ負フモノニシテ專ラ
家ノ利益ヲ爲メニ設ケタル制度ナリ右見人ノ如ク君主ノ身上ノ利益ヲ保護スル爲メ
設ケタルニテ夫故後見人ノ必要ナキ場合ニ於テモ行政ノ必要ナル場合アリ行政ト後見
人トハ別人ニ以テ任ズルモ妨クズ現ニ我國ニ於テモ典範ニヨリハ天皇カ或年ヲ達セザルハ大
傳ヲ置コトアリ大傳ハ保育シ司トル大政ニ干渉スルコトヲ得ル行政ハ大政ヲ行フモ純然
ルニ皇ノ私事ニ干渉スルコトヲ得ル行政又其子孫ハ大傳ニ任ズルコトヲ得ストセリ
行政ヲ見ルニ後見人トシテハ統治權ヲ以テ天皇ノ財產トシテ今日ノ時代ノ設ケニ
今日ニ於テハ如此思想ニ誤ラレモナシ今日ニ於テハ行政ニ干渉スル諸國ノ法規ニテ間
其處特ニ思想カ痕跡ヲ止ルモノナキニテラス

第二節 行政ノ地位ニ隨伴スル權

行政ハ君主ノ各ニ於テ統治權ヲ行フモノナリ然レニ統治權ノ施行ニ直接ノ干係ナク
テ單ニ君主ノ地位ニヨリ君主ノ身上ニ屬スル權即榮譽權又ハ財產權ハ依
君ニ屬シ行政ハ特別ノ規定ニヨリ外他ノ皇族ト異ナリ權利ヲ受クルコトナシ

行政ハ君主ト等シク此責任ノ身分ヲ有スルマデハ國法上ノ同點ナリ行政ハ君主ノ
各ニ於テ一切ノ統治權ヲ行フモノ故司法權モ懲戒權モ皆行政ノ行フ所ナリ行政ノ上
ニ立テ行政ノ責任ヲ救治スル職ヲ有スル故ニ行政ノ職ニハ間ニ其行爲ニ對シ責任
セシムルコト出来サルハ行政ノ性質ヨリ生スル結果ニシテ人ノ疑ハ容レザル所ナリ
一旦行政ヲ止メタル後ニ於テ行政タリシモノモ其行爲ニ對シ責任ヲ有スルコトハ主系ヨリ言
フ俟タル所ナシ此責任ハ其行政ヲ止メタル後ノ行爲ニ對シ責任ヲ負フモノニシテ行政中ノ行
爲ニ對シ責任ヲ負フモノアラズ也且國家カ或ハ行爲ニ對シ責任ヲ負ハルニシテハ國家
ハ之カニ於テ其責任ヲ救治スル制度ヲ設ケ置カサルハカニシテ、即チ制度ノ存在セカ、場合
ニ於テハ其行爲ハ責任ナキノ行爲ト認ムル外ナシ故ニ行政中ノ行爲ハ責任ナキノ行爲
ナリ國家カ深慮ナリト認メタル行爲ニ於テ行政ヲ已メタル後ニ亦テモ之カ爲メ処罰セ
ラシメハ懲戒セラルコトナキハ当然ナリ

第三節 行政ヲ置ク事項

行政ヲ置クニ於テハ君主ノ責任ヲ負フモノナリ然レニ今日ノ時代ニ於テハ行政ノ責任
ノ重キ者ノ淺ク如ク君主ノ責任ヲ負フモノナリ然レニ今日ノ時代ニ於テハ行政ノ責任

摂政ヲ置クハ其場合諸国ニ於テ大概国法ヨリ一定スルヲ例トスルモ独リ英國ニ於テ此
一般ノ法規ナシ事實必要ヲ生シタル場合ニ於テ特ニ法律ヲ以テ定ムルヲ例トセリ
米美国ノ国法ハ君主ハ完全ニ無能カラスキヲ以テ元則トスル故君主ハ元則トスル成
年ナリトシ普通ノ成年ニ達セサル君主ハ法律ヲ以テ特別ノ規定ナキ以上ハ自ラ
統治權ヲ行フヲ妨ケス丈故摂政ヲ置クハ特別ノ法律ヲ要ス又誰カ摂政ニ任スルキ
ヤ並ニ摂政ノ権限又ハ摂政ノ地位ヲ喪失スル事項モ亦法律中ニ特ニ規定シラ例トセリ
英ノ諸外国ニ於テハ摂政ヲ置ク場合憲法又ハ其他ノ法規ヨリ一定セリ「ハリヤ」ハ遺令ニ
ヨリニ一定メカレハ一定ノ法規ヨリ任スルコトヨリ
摂政ヲ置クヲ要スル事項ハ主トシテ左ノ如シ
(一) 君主カ未成年ナルハ 君主ノ成年ハ可成摂政ヲ置クハ必要ヲ避クルカ為メ普
通ノ成年ヨリ早クシテ通常諸国ノ法ハ十八才ヲ以テ成年トセリ(獨ニニニハ廿一、班ハ十六)
白王宮典範十三條ハ諸国ノ例ト合シク十八才ヲ以テ君主ノ成年トセリ成キルノ

宣言ハ奥其他ニ三ノ独各国外ハ国法上ノ效力ヲ生セス未成年ノ場合ニ準スルキ
場合ハ君主ノ崩御ニ際シ皇胤尚胎ニ在ル場合ニ皇胤誕生后継業ノ資格ナ
キコト明カナルハ 継業ノ權アル皇族カ未成年ナラサル以上ハ寧ロ故障ノ場合ニ準
スルキモノナリ
(二) 君主久キニ涉ル故障ノ為メ大政ヲ自ラ為スヲ能ハサルハ、大政ヲ親ラスルコトノ出
来サル故障ハ精神上ノ病患ニヨルコトアリ又外國ニスレテ滞在
スル場合ニ存在スルコトアリ 諸国ノ如ク精神上ノ病患ノ為メ君位継業ノ順序ヲ
変スルコトノ出来サル場合ナレハ勿論我國ノ如キ継業ノ順序ヲ変スルコトヲ得ル国ニ
於テモ摂政ヲ置クヲ要スル故障ハ已ニ君位ヲ継業スル際ニ存在セルコトアリ又継業
ノ後ニ至リ生スルコトモアラシ其間国法上少シモ差別ナシ摂政ヲ置クノ事項ハ必スレ
モ除クコトヲ得ストノコト必要ナラス特ニ精神上ノ身体上ノ病患ハ皇位継業ノ順序
ヲ交換スル場合ノ如ク必スレモ不治ノモノタルヲ要セス然レモ摂政ヲ要スル事項ハ久
シキニ亘ルモノナラサルハカラス何ハ久シキニ亘ル故障トイフカハ二ノ国法ノ如ク明ニ期
限ヲ定ムル外ハ一定ノ標準ヲ設クルコトヲ得ス專之故障ノ除クヘキ時期ヲ豫見スル

不能ハハルカ又ハ其時期遠クシテ其間君主ノ自ラスルヲ要スル政務ヲ延引スルカ
ハサル場合ハ又キキ直ル故障トス

摂政ヲ置クノ必要ヲ認定スル方途ハ未成年者ノ場合ト故障ノ為メ大政ヲ親ラ
スルコトヲ得サル場合トヨリ異ナリ君主カ未成年ナル場合ハ摂政ノ必要ハ明ニ故ニ攝
政ノ資格順序カ国法上一定セル国ニ於テハ別段ノ手續ヲ要セスレテ当然摂政ヲ置
ク故摂政ニ任スルキ者カ国法上一定レ居ラサル国ニ於テモ別ニ摂政ノ必要ヲ認定スルノ
手續ヲ要セス直ニ摂政ヲ定ムル例トス只普ニ於テハ摂政ノ資格順序カ国法上一定
ルニ拘ハラス君主カ未成年ナルカ故ニ摂政ヲ要スル場合ニモ摂政ノ必要アリヤ否ヤヲ
認定スルヲ要スレバ此認定ハ單ニ君主カ未成年ナルヤ否ヤヲ認定スル止ニシテ苟シモ
此事實ヲ認定シタル以上ハ又ス摂政ヲ置カサルヘカラスケルルクマイヤケルルハ反対ス
君主カ故障ノ為メ大政ヲ自ラスル能ハサル場合ハ何レノ国ニ於テモ故障ノ有無ヲ認
定スルノ手續ヲ要セサルモノナシ普ニ於テハ摂政ニ任スルキモノカ国会ヲ召集シ兩院ノ合
合ニ於テ之ヲ議決ス摂政ニ任スルキモノナシ内閣ヲ議會ヲ召集ス此他諸国ニ
テ摂政ノ必要ヲ認定スルハ独乙外ハ諸外国ニ於テハ議會ヲ以テ共機干トス独乙国

中バリア其他ノ一少国ハ議會トノ合意ニヨリ摂政ノ必要ヲ認定セリ上下ノ兩院ヲ
以テ議會ヲ組織スル国ニアリテハ兩院間ノ意見ノ衝突ヲ避クル為メ兩院合合シテ議決ス
ルヲ規定スルモノ多シ典範ハ天皇カ未成年ナルキハ摂政トナルキモノカ当然摂政ニ任ス
其他ノ場合ハ皇族會議秘密顧問ノ議ヲ經テ摂政ヲ置クヲ規定セリ摂政ヲ要スル
場合ニ於テハ君主カ大政ヲ親ラスルコトヲ得サルモノ故皇位継承ノ順序ヲ変更スル場合
如クニ皇族會議秘密顧問ニ諮詢スルコトヲ得ス又摂政ハ會議ヲ經テ後置ク
モノ故摂政モ亦諮詢ヲ為スルコトヲ得ス故ニ皇室典範ハ二機干ノ議決ヲ經テ摂政
ヲ置クト規定セリ

第四節 摂政ニ任スル資格及順序

摂政ニ任スルキモノハ国法上一定セル国アリ又摂政ヲ置クノ必要ヲ生シタル毎ニ精ニ之ヲ定
ムル制度アリ例之伯ニ於テハ摂政ハ每會兩院合同ニテ之ヲ選舉ス又和丁ニ於テハ君主
カ自ラ大政ヲ行フ能ハサレハ皇太子ヲ以テ摂政ニ任スル外ハ和ハ国会ノ選舉丁ハ
君主自ラ定ムル所ニヨル君主カ自ラ之ヲ定メサルカ又ハ定ムル能ハサルキハ議會之
ヲ選舉ス又我^或國ニ於テハ君主ノ遺命ニヨリ摂政ヲ定ムルコトアリバリア如シ是等

諸種例外ヲ除外ハ摂政ニ任スル資格及順序ハ始メヨリ一定スル例トス
摂政ニ任スル資格ハ左ノ如シ

(一)成年ニ達シタルヲ、君主カ未成年ナルハ、摂政ヲ置クノ事項ナル故摂政カ自ラ
未成年者タルヘカラサルハ論テ候タス皇室典範ハ皇太子、皇太孫、外未成年
者カ摂政ニ任スルヲ得スト明言セラルモ之レ固ヨリ当然ノ理ナルミナラス才ヒ四糸
ノ規定ヨリ推測スルヲ得摂政ニ任スモノハ成年ハ普通ノ皇族ノ達年ニ達スヘキ年齢
ニシテ又君主ノ成年ニ達スヘキ年齢ニヨルカ大疑問ナリ救多ノ學者説ヲナシテ曰ク君
主オ十八才モテ大政ヲ自ラスルヲ得トセハ皇族モ全ノ年令ニ達シタルモノハ摂政ト
シテ大政ヲ自ラスルヲ能ハストノ理由ナシト然レハ法ノ明文ヨリ見レハ君主ノ成年ニ
干スル規定ヲ直ニ之ヲ摂政ニ適用シ得サルハ勿論ナリ又法ノ性質ヨリ論スルモ君主
ノ成年ニ達スヘキ年令ノ早クシタルハブルンテユリノ説ノ如ク可成摂政ヲ置ク
ヲ避ケルニヨル故摂政ニ干シテ特ニ普通ノ成年ヨリモ早ク成年ニ達セシム要シ見ス
故ニ特別ノ明文ナキ以上ハ摂政ニ任スヘキモノハ普通皇族ノ成年ニ達スヘキモノ
トセカレヘマラス然レハ諸國ノ法ハ可成皇太子ヲシテ摂政ニ任セシム為メニ往々皇

太子ニ限リ君主ノ年齢ト全テ年齢ニ達スレハ成年トナシ摂政トナルコトヲ得トセ
例之、伊、埃、西、葡ノ如キハ久シキ故障ニ見ルモ天政ヲ親ラスル場合ハ皇太子ハ
十八歳ニテ摂政ヲラシム典範ノ皇太子皇孫ノ成年ニ限リ之ヲ君主ノ成年ト等
シクシタルハ此主意ニ出テタル故他ノ皇族ハ凡テ普通ノ成年ニ達セサルハ摂政ニ
任スルコトヲ得スト解セサルヘカラス

(二)大政ヲ行フコト能ハサル故障ナキコト 摂政ヲ置クハ固ト君主ノ無能力ヲ補フ爲
メナレバ自ラ能力ヲ欠クモノハ摂政ニ任スルコトヲ得サルハ明カナリ故ニ精神上並ニ身体上
ノ疾ヲ以テ君位繼承ノ資格ヲ失フノ原因トナサル國ニ於テモ摂政ニ任スルハ此
等ノ欠点ナキヲ以テ必要トスルハ一般ノ通則ナリ

病患ノ爲メ皇位繼承ノ順位ヲ変更スルヲ得サル國ニ於テモ皇位繼承ノ次員
格ハ不治ノ重患アルニ非サレハ之ヲ失フヲナシ及之摂政ニ任スヘキ次員格ヲ失フ事情ハ
必スレモ不治ノモノタルヲ要セス苟モ久シキニ亘リ政事ヲ行フヲ得サル事故アルトキハ
摂政ニ任スルノ次員格ナリ

外國ニ久シク滞在スル場合殊ニ敵國ニ捕虜トナリタル場合ハ君位繼承ノ順序ヲ代

ルヲ得サルモ摂政ニ任スルノ順序ヲ変更スル事項ノト認メサルハカラス皇室典
範ハ君主カ故障ニヨリ摂政ヲ置クト全ノ手續ニヨリ摂政ニ任スル順序ヲ変更
スルコトヲ得サル旨ヲ規定ス和憲憲法ニ攝政カ政務ヲ親スル場合ニ于テ類似ノ
規定ヲ設ク其他特別明文ナキ(因)於テハ君主カ故障ニヨリ摂政ヲ置ク場合ト
全ノ手續ニヨルモノト解セサルハカラス

三)君主ノ父母又ハ祖父母カ摂政ニ任スル其再婚嫁セサル場合ニ限ル一般ノ通則ナリ
典範第二十三條ニ「皇族女子ノ摂政ニ任スル其再婚嫁セサル場合ニ限ル其
配偶ノナキモノニ限ル」ト規定セリ此規定ハ皇太后及ヒ太皇太后ニ適用スルヲ
得ルモ之ヲ皇太后ニ適用シ得サルハ勿論ナリ何トシテハ已レノ配偶者タル天皇ニ故障
アルカ爲メ皇太后カ摂政トナル必要アルニヨル

攝政ニ任スル順序 ハ皇位継承ノ順序ニヨルヲ例トス然レモ一ニノ国ニ於テハ
攝政ニ任スルニテ君位継承ト異リタル原則ヲ採ルアリ(「アルテンブルヒ」ハ「長」者ヲ
以テ任ス)又ニ三ノ国ニ於テハ君主ノ父(西)母(西)独ニ三小国)祖母又ハ皇太后ニテ再
婚セサルヲ先ツ攝政ニ任ルアリ此例外ヲ除ク外ハ攝政ハ皇位継承ノ順序ニヨリ君

主ニ尤モ近キモノヲ以テ之ニ任スルヲ例トス若シ君位継承ノ資格ナキハ往々君主ノ
母(バイエルン、ウルテンブルヒ、伊)祖母(ウルテンブルヒ)又配偶者ヲ以テ攝政
ニ任スルハ高貴ノ官吏ヲ之ニ任スルヲアリ(バイエルン)攝政ニ任スルモノカ全ク
絶ヘタルハ救多ノ国ニハ国会ニテ之ヲ扱フ皇室典範ニテ我國ニテモ皇位継
承ノ順序ヨリ君主ニ最近ノ皇族男子ニ任スルヲ例トス若シ皇族男子ナキハ
皇后、皇太后、太皇太后ノ順序ニ之ニ任シ太皇太后ニアラサルハ他ノ皇族女子、
皇位継承ノ順序ニヨリ長系法ニヨリ之ニ任ス(国法ニ定ムル順序ニテアルモノカ
自ラ之ヲ辞シ次ニ攝政ニ任スヘキモノニ讓ルヲ得ルヤ否ヤハ一疑問ニテ諸外國
ニ於テ比倫之ヲ讓リ得ト認ムルヲ加キモ皇室典範ハ攝政ニ任スルモノハ之ヲ辭
スルヲ得スト認メサルハカラスニ一條ニハ皇太子、皇太孫アラハルカ又「成年」ニ達セ
ル場合ニ限リ他ノ皇族ノ任スルヲ規定ス即現ニ皇太子皇太孫アルニ拘ハラズ
其政攝ヲ辭シタリトノ理由ヲ以テ他ノ皇族ノ攝政ニ任スルヲ典範ニ認メサル
所ナリ其他皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位継承ノ順序ニヨリ皇太子ノ皇位ヲ
継承スルニハ長系法ナキニ至リ幼系ニ移リ嫡系ナキハニ限リ庶系ニ移ルニ至

皇子カ皇位ヲ辞スルコトヲ得カルト全シク其順序ニ当ルモノハ摂政ヲ辞スルコトヲ得ス

第五節 摂政ノ解除

摂政ノ解除スル事項ニ于テハ摂政ヲ置クノ必要止シタルハ全ク摂政ヲ解除スルノ事項ト現ニ摂政ニ任シ居ルモノカ摂政ノ地位ヲ喪失シテ次ニ摂政ニ任スルモノカ之ヲ継承スルコトヲ要スルト区別セカレカラス

第一 摂政ノ必要已ミタル為メ之ヲ解除スル事左ノ如シ

一、未成年ノ故障ニ係リタル君主崩御シタルハ其君主ノ為メニ設ケタル摂政モ自ラ解除スルハ言フ俟タス

二、未成年ノ君主カ成年ニ達シタルハ未成年ノ多ク摂政ヲ置クニ當リ別ニ其必要ヲ認定スルノ手續ヲ要セサルト全シク摂政ヲ置クノ必要ヲ認定スルハ否ヤヲ得タスシテ当然解除ニ及ス唯普ノ如ク君主未成年ノ多ク摂政ヲ置クモ其必要ヲ認スルコトヲ要スル国ニ於テ摂政ヲ解クニモ又全ク手續キテ要スルカ如クモ普ニ於テモ君主カ成年ニ達シタルハ摂政ハ当然解除ニ及

ハ其國法奪者ノ得テ認ムル所ナリ

三、君主カ大政ヲ親ラシムルハ其故障ノ解除キタルハ摂政ノ解除スルハ當然ナリ

其故障ノ為メニ摂政ヲ置クノ其必要ヲ認定スルノ手續ヲ要スルト全シク

其故障ノ除去セル為メ摂政ヲ解クニ先ツ故障ノ果ニテ除キタルハ否ヤヲ認定スルヲ要スニシテ憲法ハ此場合ニ于テ明文ヲ設ケザルニ及シテ(但憲法ハ)ウレニシテ(但)「元四テレブル」ニ及テ數ノ憲法ハ既別ノ規定ヲ設ケザルモ摂政ヲ置

ト全ノ手續ニシルハハ當然ノ事理ナリ

君主カ成年ニ達スルモ他ニ大政ヲ自ラスルヲ得カレ故障生シ其外摂政ヲ要

ルノ事項ハ已レト全時ニ摂政ヲ要スル他ノ事項ハ生シタル場合ニ於テモ摂政ハ継続スルハキモニアラスニテ新ナル故障ノ為メニ更ニ摂政ヲ継続スルノ手續キ

ラカサル以テ摂政ヲ解除シタルハ当然ナリ

第二、摂政ニ任スル者ノ地位ヲ喪失スル事項ハ主トメ左ノ如シ

一、摂政カ死去シタル時

二、摂政タル者カ自ラ其地位ヲ辭スルコトヲ得ルハ歐洲諸國ニテハ普ク認メラルモ

我國ニテハ摂政ニ任スル者ハ摂政ヲ監ノ際之ヲ得ザルト全ク一旦摂政ニ任スルモノハ後ニ至リ之ヲ辭スルコト得ス

三、摂政ニ任スルモノカ大政ヲ行フコトヲ得ザル故障ニカケルモノハ摂政ニ任スルコトノ出来カルト全ク攝政ニ任スル後ニ此ノ如キ故障生シタル中ハ摂政ノ地位ヲ喪失スルモノトハ當然ノ事項ナリ典章ノ故障ハ摂政ニ任スル前ナルト後ニアルトニヨリ區別モス凡テ全ク手續キニシル此ノ如キ場合ニ于テ憲法ニ特別明文ヲ設ケタル國ハ故故障ノ為メ摂政ノ代ハルハ君主カ故障ノ為メ摂政ヲ置カント全ク手續キニシメント認メザルハカラス

四、摂政ハ君主ニ忠實ミニテ憲法ヲ遵守スルコトヲ宣誓セサルハカラザルハ政州諸國ノ通例ナリ宣誓ヲナス前ニ政事ヲナスヲ得ザル明文アリ國(國)ハ宣誓ヲ拒ミタル中ハ摂政ノ地位ヲ喪失シタルモノト看做サレハカラス何トナレハ摂政ハモト政務ヲ行フタメニ設ケタルモノニシテ政務ヲ行フコトヲ得ザルモノハ摂政ノ資格ナキモノト云ハサルハカラサレハナリ

五、最近親ノ皇族カ未成年ニ達セザルトノ事項ヨリ他ノ皇族カ摂政ニ任シタルニ至リ最近親ノ皇族カ成年ニ達セザルトカ其他故障ノ除キタル中ハ其攝政ハ其地位ヲ讓ラサルハカラザルヤハ一疑問ニシテ國法學者ノ多数ハ之ヲ讓ルヲ要スルト主張ス(以憲法二三)ノ如キハ明カニ此意ヲ規定ス典範ハ概テ全ク原則ヲ取ルモ皇太子及皇太孫ニ對シテハ其地位ヲ讓ラサルハカラス

第三章 監 国
君主カ大政ヲ親ラスルコトノ出来サルコトアルモ其故障スルキニ互ハニアラサルハ往々摂政ヲ置カズニ監国ヲ置キ大政ヲ全部又ハ一部ヲ行ハシムルコトアリ其監国カ摂政ト異ルハ左ノ諸点ニアリ
(一) 監国ハ君主ノ委任ヨリ之ヲ置クモノ故少クモ君主カ委任ヲ與フルノ能力ナカレハカラス夫レ故ニ君主カ全ク政務ヲ自ラスルノ能力ヲ失フハ監国ヲ置クコトヲ得ス

(二) 摂政ニ任スルモノハ國法上一定セルモ又ハ少クモ特ニ法律ヲ以テ之ヲ定メ監国ニ通常摂政ニ任スルモノハ資格アルモノヲ以テ之ニ任スルモ國法上君主ハ何レヲ監国ニ任スルモ差支ナシ

(三) 摂政、責任ヲ有セラルコトハ已ニ述ベリ而シテ監国ハ君主ノ特別ノ委任ヨリ

政事ヲ行フモノナレハ君主ニ対シ責ニ任セサルヘカラス

(四) 摂政ノ権限ハ憲法上當然一定セリ憲法上特別ノ規定ヨリ制限セラル

外ハ君主ト全ノ權ヲ行フヲ得、監国ハ其権限ハ委任ヨリ定ムルヲ以テ特

委任シタル権限ノ外ハ之ヲ行フヲ得ス換言スルニ摂政ノ権限ハ常ニ之ヲ推測

ヲ受ク及之監国ノ権限ハ狭シトシテ推測ヲ受ク

(五) 摂政ヲ置クノ間ハ君主ハ全ク大權ヲ行フヲ得ス監国ヲ置クハ及之委任ニ托

固内ニ於テモ君主之ニ命令スルヲ得監国ハ君主ノ命ニ從ヒ政治ヲ行ハカル

ヘカラス君主ハ又々何時ニテモ委任ノ範圍内ニ屬スル事項ヲ取リテ自ら

行フヲ得

(六) 摂政ハ君主隨意ニ之ヲ解クヲ得ス監国ノ委任ハ及之君主ノ何時ニテモ

之ヲ解クヲ得

監国ノ政度ハ大概普ク欧州諸国ニ行ヒタル制度ナリ例ハ英国ニハ摂政ヲ

置クニ隨時々法律ヲ以テスルコトハ前ニ述ベタル通りナルコト君主ノ国境外ニ滯

在スル場合ニハ摂政ヲ置カスニ監国ヲ置クノ例ナリニノ例外ニ除ク外ハ監国ハ国王

ノ大權ニヨリ之ヲ置キ別ニ法律ヲ命ジタルコトナシ監国ノ権限ハ法律ヲ裁可

スルコト貴族ノ爵ヲ授クルハ權ニ包含ス又其権限外ニ或モ特殊ノ議會ハ

解散大赦特赦ニ付テハ等國國王ノ裁可ヲ得ルコトハ之ヲ行フコト得ズルニ條件ヲ

附スル例トセリ下併交通ニ近頃各易トナリシ為メ當代ニテハ監国ヲ置クノ例ヲ

見タルコトナシト云ヘリ

普國ニテモ摂政ヲ置カスニ皇太子又ハ皇太子ノ子或ハ皇孫ヲ以テ監国セシムルノ例

ハ五七年ヨリ八十八年迄ノ間前後四回ノ多キニ達ス

我國ニハ監国トモ稱スル先例ナシ、西南戦争ノ頃京都行幸ノ際三条公

立キ権限ヲ授ケタルアリシカ稍之ニ近シ

監國ノ制度ニニテ独シ諸國憲法ノ明ニ認ムル所ナリ殊ニバイエルン、プロシヤ

兩國ノ憲法ハ君主ノ故障ノ場合ニ自ラ監國ヲ定テ置カサリシ場合ニ限リ

摂政ヲ置クト規定セリ其外諸國ノ憲法ハ監國ニ于テ特ニ規定ヲ設ケズ我々

國ノ憲法亦然リ如此ニ憲法ニ明文ナキ場合ニ於テハ尙監國ヲ置クコト出来

ハヤ各々諸國に於テ現ニ多數ノ先例アリモ抑ハラス國法等上一ニ疑問ニシテ
夙々者ノ意見ノ分ル所ナリ
監國ノ制度カ憲法ニ違反シタルモノニテラサルコト主張スル者ハ或ハ一般ノ原理
ヲ以テ立論ノ根拠トスルコトアリ或ハ慣習ヲ以テ其根拠トスルコトアリ或ハ君主ノ官
制權ニヨリテ説明セントセリ(ト云ル利ヲ備ヘルニハ官制ニ依ルザイテハ)
抑モ君主ハ其憲法上ノ大權ヲ一切自ラ行フヘキ事實ト許サレテ之レカ
ラメ諸權ノ權干ヲ設クルヲ得ルハ疑シ客ス既ニ平時ニ於テモ憲法ハ君主ノ大權
トシテ列奉スル權ノ他ノ行政權干ニ委任スルハ其例少ナカラス君主カ故障ノ
為メ煩雜ニ政務ヲ一々自ラスルニ出テル場合降ニ平時ヨリ特ニ委任ノ
範圍ヲ広メ又特ニ權干ヲ設ケテ委任スルモ敢テ憲法ニ抵触スル所ナレ
此等權干ノ權干ヲ設クルハ憲法ノ務期スル也ナリト云フモ是支ナレバ憲法
カ特ニ君主ヲ自ラ行フコトヲ必要トスル政務ニ至テハ決シテ他人ニ之ヲ委任スルコト
得ル例ハ裁可ハ君主自ラスル行為ニシテ他人ニ委任スル裁可トシ
トシ得ヌ勅令ハ君主自ラ發スル命令ナリ他ニ權干シテ之ヲ發スルコトハ之レ

ハ一

勅令ニテラス凡ソ是等ノ行為ハ授政ノ場合ノ如ク憲法ニ特別ノ明文ナキ以上ハ君
主自ラセサルヘカラサルモノナリ
夫レ故ニ授政ヲ置ク場合ノ外ハ一切ノ大權ヲ奉テキ之ヲ他人ニ行ハシムルハ憲法
ノ認メサル所ナリ乍併若シ單ニ一般ノ官廳ニ委任スルノ事柄ヲ監國ニ委任ス
ルニ止マルナラハ監國ノ制度ハ之ヲ設クルノ必要少シモナキナリ監國ヲ設クルノ必要ハ
普通官廳ニ委任スルコトヲ得スレテ君主カ自ラ之ヲ行フコトヲ要スル政務ヲ委任
シ監國ノ行為ハ君主カ之ヲ行ヒモント全視スルコトアリ之レ則チ憲法ノ原則
ニ抵触スルモノナリ夫レ故ニ憲法ニ特別ノ規定ナキ以上ハ監國ヲ置クコト出来
ザルモノト論定セサルヘカラサルナリ

第四章 國務大臣

國務大臣ハ元首ヲ輔弼スルノ機干ナリ元首ノ政治上ノ行為ハ凡ソ國務大臣ノ
輔弼ニヨラサルヘカラス國務大臣ハ一方ニ於テハ行政各部ノ長官トシテ一部ノ行
政事務ヲ担任スルヲ例トスレバ此事ハ國務大臣ノ地位ト隣ハヘカラサルモノニアラス
所謂無職ノ大臣ハ何レノ國ニモ希ラサル事例ナリ此等ノ大臣ハ一部ノ行政

ヲ担任スルモノニ非サルモ併シ他ノ國務大臣ト令シク内閣ニ列シ国政ヲ参議
シ元首ノ發スル法律命令ニ副署スルモノナリ

國務大臣ノ地位ハ大臣ノ名称ヲ有スルヤ否ヤニ干係ナシ一方ニ於テハ大臣ノ名称
アリテ國務大臣ノ地位ヲ有セサルアリ官内大臣ノ如シ又一方ニ於テハ大臣ノ名ナラ
シテ國務大臣ノ地位ヲ有スルアリ樞密院議長ノ如シ國務大臣ハ元首ヲ輔弼
シ否可ヲ檢定スルノ職務ヲ有スル故又其職務ニ付キ責任ニ任セサルヘカラス之ヲ称
シテ國務大臣ノ責任トス

國務大臣ノ責任ニ干シテハ主觀ト客觀トノ區別ヲナサハカラス特ニ我國並ニ
獨乙帝國ノ憲法ノ如ク大臣彈劾ノ制度ヲ設ケ居ラサル憲法ニ於テハ特ニ此
區別ヲ為スノ必要アリ

從來此等憲法ノ大臣責任ニ干スル規定ニ付キ種々ノ議論生シタルハ余ハ眞ん
所ヲ以テモハ余ク此區別ヲ明ニセサルノ結果ナリ歐洲諸國ノ憲法ハ大臣責任ノ規定
ヲ設ケルト同時ニ大概大臣彈劾ノ制度ヲ設ケケルモノナシ夫故改ノ国法学者
尙ニハ憲法ニ云フ如ク大臣責任ハ乃テ議會ニ對スル責任ナリトノ意味ナル思想

ヲ生セリ

獨乙帝國憲法才七条ニ於テ皇帝ノ命令ハ帝國宰相ノ副署ナケレハ効力ヲ
有セス而シテ帝國宰相ハ此副署ヲ負フ規定セリ下併獨乙帝國ノ
憲法ハ一方ニ於テ大臣彈劾ノ制度ヲ設ケス故ニ大臣責任ノ議會ニ對スル責任ト
今一ノ意味ナリトノ思想ノ先入スル者ハ種々ノ説ヲ設ケテ獨乙帝國ニ於テ此
乙帝國宰相ノ責任ヲ説明セントセリ是等ノ者ハ或ハ曰ク帝國宰相ノ責任
ハ法律上ノ責任ナリ

此法律上ノ責任ハ殊ニ議會ニ對シ并明スル所ノDヨリ生セリ下併結局大臣ノ責
任ヲ強制シテ実行スル手段ナキ故不完全ノ規定タルヲ免レスト云フモノナリ或
ハ又曰ク此宰相ノ責任ハ政治上ノ責任ニ過キス(レルネラバンドノ説)

而シテ其責任ノ実行ハ主トシテ国会ニ對シ卷并セサルヘカラストノ必要ニナリ甚
キ説ニ至リテハ宰相ノ責任ニ干スル規定ハ一空白ニ過キスト云ヒ殊ニハニセ
ルノ如キハ宰相ノ責任ハ皇帝ニ對スル責任ニシテ官吏法ニ於ケル一般ノ官吏ノ
責任ト少シモ已ナルヲナシト断定セリ

我帝國憲法モ此矣ニ於テ獨乙帝國憲法ト今様ニ五五條ニ於テ國務大臣ハ
天皇ヲ輔弼シ其責ニ任スト規定スルモ大臣彈劾ニ于スル規定ヲ設ケ居ラズ憲
法義解ヲ五五條ニ于テ下シ居ル所ノ說明ノ要旨ハ國務大臣ヲ任免スル
モノハ元首ナル故大臣ノ責任ハ元首ニ對シ負ハサルヘカラスト謂フニ在
リ此說ハ乃テ大臣ノ責任ヲ以テ一概ノ官吏ノ責任ト全視スルモノナリ
乍併責任ヲ救治スルノ權ハ任免ノ權ニ屬ス当然ノ結果ナリトモ憲
法ハ元首ノ官吏ノ任免權ニ于スル規定ノ外ニ別ニ大臣責任ニ于スル規定ヲ
設クルノ必要ナキ様ナリ又一概ノ官吏ト區別シテ特ニ憲法ノ原則トテ國務
大臣ノ責任ニ于スル規定ヲ設クノ必要モナキナリ夫故ニ帝國憲法ノ論スルモ
モ獨乙憲法學者ノ如クニ或ハ大臣ノ責任ヲ議會ニ對スル責任ト全視シ五五
條ノ規定ヲ不完全ナリト認ムルモノモアラシク或ハ單ニ政治上ノ責任ニ過キスト
スルモノモアラシク甚キハ大臣責任ニ于スル規定ヲ以テ一空白ニ過キナリト
ナス者ナキヲ保セサルナリ

責任トテ區別セサルノ結果ナリ客觀的ノ責任トハ責任ヲ救治スルノ制度ヲ云フ主觀
的責任トハ責任ノ正サレノ資格ヲ云フ例ハ刑法ハ諸種ノ所為ヲ罰スルノ所為ト
定メ構成法ハ刑法ヲ適用スヘキ杖罰ヲ定メ訴訟法ハ刑法ヲ適用スルニ當リ依
ルヘキノ手續ヲ定ム此等ハ皆刑法上ノ責任ニ于テ余ノ所謂客觀的ノ規定
ヲ設ケタルナリ此等ノ諸種ノ規定アルモ刑法上ノ責任ヲ負ハサル資格アルモノ
例ハ一國ノ元首ニ對シ民法^{適用}上ノ責任^{適用}ニ對シ^{適用}主觀的責任ノ存在セサル故ナリ
反之臣民ハ皆刑法上ノ責任ヲ負フヘキ資格ヲ有スルモ法律ニ明文ナキ所為ヲナセ
ハ起罰セラル、^{ナシ}之レ即チ客觀的ノ規定ノ存在セサル故ナリ

其外如何ナル種美ノ責任ニ於テモ主觀的及客觀的ノ兩面ヲ有セサルモノニ國
務大臣カ責任ヲ有スルヲ規定スル各項ハ單ニ責任ノ主觀的ノ側ヲ定メタリ此
規定ハ決シテ國務大臣ノ為メニ刑法ヲ受ケ又ハ憲法ヲ設ケ國務大臣ノ為メ
刑裁裁判所ヲ置キタリ又ハ憲法裁判所ヲ置クヲ定メタルニアラス又大臣責
任法律トカ又ハ政裁裁判所ヲ設ケサルヘカラストノコトヲ定メタルニモアラズ只
此條ノ客觀的ノ規定ノ存在スル場合ニ於テ其責任ヲ負フヘキ資格ヲ定メ

タルニ過キス夫故ニ独テ帝國ノ憲法ヲ論シ又ハ我帝國ノ憲法ヲ論スルカ國
務大臣ハ責任ヲ有スルトノ規定ヨリ大臣ノ責任ハ如何ナル種奕ノ責任ナルカヲ
論定セントスルハ重難スルニ此等ノ規定ノ目的ヲ誤解シタル結果ナリト言ハサ
ル可ラス憲法ノ然ラス何カ故ニ國務大臣ノ責任ニ関シ主觀的ノ規定ヲ設ケタル
ヤ自己ノ行為ニ干シ責ニ任スルコトハ当然ノ事理ニシテ憲法ハ特ニ之ヲ規定スル
ノ必要ナキニアラスヤト云フ点ハ次ニ説明ヲ要スル所ナリ

抑モ國務大臣ハ官吏ナリ官吏タルニハ臣民タルニ係ノ外ニモ官吏タル地位ニヨリ
國家ニ対シ特別ノ干係ヲ有ス夫レ故ニ官吏ニ対シテハ一般臣民ノ責任ニ干スル原
則ヲ適用スヘカラサルハ明ラカナリ而シテ國務大臣ハ官吏中ニアリテモ特別
ノ地位ヲ有シ官吏ノ責任ニ関スル普通ノ原則ヲ適用セスニテ特別ノ原則ニ依
ル此特別ノ原則ヲ明ニスルモノカ即チ國務大臣ノ責任ニ干スル規定ノ目的ナ
リ夫レ故ニ此規定ノ趣旨ヲ明ニセントスルニハ先ツ一般官吏ノ責任ニ干スル
原則ヲ一言スルヲ要ス
官吏トナリシモ其自己ノ行為ニヨリ生ヒシ責任ニ任セサルヘカラサルコトハ言ヲ俟タズヤ

併官吏ニ付テハ上下ニ干係アル故下級ノ官吏カ上級ノ官吏ノ命令ヲ執行シタ
ルガ為メニ法ヲ犯ス結果生シタルハ下級官吏ハ其責ニ任スヘキヤ否ヤハ一ノ
疑問ナリ官吏カ上官ヨリ命令ヲ受ケタルハ其將タ才ニハ上官ノ権限内ニ屬
スルコトナキヤ才ニハ自己ノ権限内ニ屬スルコトニハ法律上必要ノ形式ヲ備フル
ヤ否ヤト云フニアリ此三点ヲ審査セサルヘカラス(尚英外國ノ事項ナルヤ否ヤト云フ
ヲ調査スルノ必要アルモ之ハ才ニ、才ニ、中ニ包含スルモノ故別物トシテ加ヘス)若シ
是等ノ点ニ欠クル所アレハ乃チ私人ノ意思ト見ナル所ナキ故之ヲ執行スルノ後
務ヲシ若シ是等ノ点ノ欠クルアルニ拘ハラス之ヲ執行スルハ官吏ハ上官ノ命令ニ
從ヒシトノ理由ヲ以テ責ヲ免ルコトヲ得ス

下級更ニ歩ヲ進メテ上官ノ命令カ形式上完全ナルモ實質ニ於テ違法ノ点アル
ハ下級ノ官吏ハ執行ヲ拒ムコトヲ得ルヤ否ヤ學者ノ説ノ分ル所ナリ救多ク學者
ノ説ニヨレハ命令ヲ受ケタル官吏カ命令ノ實質ヲ違法ト見アリト信シタルハ上官
ニ対シ意見ヲ陳述シ此陳ニ拘ハラス上官カ其命令ヲ再ヒシタルハ下級官
吏ハ之ヲ執行セサルヘカラス而シテ此場合ニ於テハ命令ヲ執行シタル官吏

ハ其違法ニ付テ責ニ任スルナレ(独乙ノ或国ウルランブルヒ一官吏法)ノ依
 違法ニシテ無効ナル命令ハ再ヒセテ命令スルモ違法ナリ無効ナラサルヘウラス
 始メヨリ無効ナル命令ナレハ官吏ハ始メヨリ之ヲ執行スルノ義務ヲ有
 ス若シ官吏ハ違法ノ命令ヲ執行スルヲ得サル俾ハ上官ニ意見ヲ陳述シ
 タリトノ理由ヲ以テ急テ之ヲ執行スルノ^{義務}シ生スル理由ナレ抑モ法規ハ上
 官モ遵守セサルヘウラサルハ言テ俟タサル故法規ニ違反スル命令ハ無効
 ノ命令ト看做サルヘウラサル如ク見エ下級ノ官吏ニ法規ヲ遵守スルノ
 義務アル故法規ニ及スル上官ノ命令ヲ執行スルヲ得サルハ疑テ容レサル如ク見エ
 故ニ一二ノ学者ハ違法ノ命令ハ下級官吏ハ之ヲ執行ヲ拒ムヲ得ルト主張スル
 モノアリ下級上官ノ命令カ違法ナリヤ否ヤハ如何ニシテ之ヲ認ムルヤ是レ一疑
 点ナリ凡ソ官吏ハ其権限内ニ於テ法ヲ解釈シ法ヲ適用スルノ職権ヲ有
 スルモノ故上級官吏カ其権限内ニ於テ違法ニテラスト認メテ命令シタ
 ル事項ハ下級官吏カ違法ト認ムルト云フ理由ヲ以テ之カ執行ヲ拒ム
 ヲ得ス上級官吏カ此解釈ハ下級官吏ノ解釈ヲ羈束スルノ力ヲ有スルモ也

夫レ故上級官吏ノ命令下級官吏之カ執行ヲ拒ムヲ得ス而シテ上官ノ命令ヲ執
 行シタル官吏ハ其違法ナルコトニ自キ一切己レノ責任ヲ免ル之ハ近頃ノ多数ノ
 学者ハ説ク飯着スル所ナリ只法ノ明文ニヨリ上官ノ命令ヲ執行シタル官吏モ其違
 法ノ上ニ付キ責ニ任セラルル規定ヲ設ケルハ元ヨリ別段ノ事ナルカ此場合ニ於テ法
 ハ上官ノ命令ノ有無ニ拘ラス違法ノ所為ヲオカストノ義務ヲ負ハレタルモノ故上
 官ノ命令ナルモ其違法ト認めルモノ之ヲ執行スルノ義務ナレ要之官吏ハ特別ノ
 明文ナル場合ノ外ハ形式上完全ナル上官ノ命令ヲ執行シタル俾ハ其違法ノ上ニ
 付キ責任ヲ免ルノ原則トス

國務大臣ハ元首ニ対シ隷屬ノ干係ヲ有ス夫故ニ普通官吏ノ責任ニ于スル國務大
 臣ニ適用スルトモハ國務大臣カ元首ノ命令ニ副署スルカ又ハ元首ノ命令ヨリ自己ノ名
 ヲ以テ知分シタル俾ハ其責ニ任セサルノ結果トナラサルヲ得ス乍併立憲國ノ君主ハ各
 責ニ有ス故大臣副署ノ制ヲ設ケ憲法又ハ法律ニ対シ責任者ト定マルヲ諸立
 憲國ハ一途ニ出テタル所ナリ國務大臣ハ元首ノ命令ヲ口ニ稱キ自己ノ責任ヲ免ル
 ヲ得スハ立憲君主國ノ通則ナリ此莫カ乃チ國務大臣カ飯官吏トスル所ニシテ

諸國ノ憲法カ國務大臣ノ責任ニ付シ特ニ主觀的ノ規定ヲ設ケルノ所ナリ夫故憲
法ハ例令大臣ヲ彈劾ノ制度ヲ設ケスモ國務大臣カ責任ヲ有スルト云フコトヲ規定スル
條項ハ元ト元首カ無責任ナルコトヲ規定スル條項ト合シテ立憲國ノ二大原則ト定メテ
ルモノニシテ決シテ空文ニアラス又如此規定ハ客觀的ノ規定ト相待テ始メテ實際結果
生スル迄ト併始メヨリシテ國務大臣ノ性格ヲ定ムル目的トスルモノニシテ決シテ不完全ノ規定
トアラス國務大臣カ右述フル如ク元首ノ命令ニ副署シ又ハ元首ノ命令ニ執行シタル場
合ニ於テモ其責任ニ任セラルカラストノ理由ハ何ニアルヤ之レノ國法学上ノ疑問ニシテ學說
モ分レリ國務大臣ハ元首ニ隸屬スルモノナリ此点ヨリ論スルハ國務大臣ハ元首ノ命令ヲ奉
ズルノ義務ヲ有スル併ニ國務大臣ハ憲法上ノ責任ヲ有ス此莫ヨリ論スルハ國務大臣ハ行為
ハ自由ヲ有セラルカラサルカ如シ服従ノドト責任トハ互ニ相答ルヘカラサル觀念ニシテ國
務大臣ハ憲法上ノ地位ハ相矛盾スルカ如シ
國務大臣責任ノ問題ニ付スル一説ハ全ク此矛盾ヲ説明セサルモノナリ此説ニヨルハ元
首ハ責任ヲ有ス夫故元首ノ行為ニ付テ其責任ニ任スルモノナカラサルヘカラス
之レ即チ國務大臣ナリ必竟國務大臣ハ自己ノ行為ニ對シ責任ニ任スルニアラスシテ

他人ノ行為ニ對シ責任ニ任スルモノナリ此説レ事理ニ通セサルハ明ナリ大ニ學說ノ
オニ誤ルモノナリテスキエトノ主張スル所ニシテ唯學者ノ合意スルモノナラス二三ノ國法
ニ採擇セラル所ナリ(例之ハツセン國大臣責任ハ其主意ヲ明セリ一八二二年ノ憲法
惡意又ハ過失ナキ國務大臣ヲシテ他ノ惡意過失ニ付キ責任ニ任セシムルニアラス併シ
國務大臣ニ對シテ常ニ惡意又ハ過失ノ推測シ下スモノナリ其理由ニ云ク君主ハ惡ヲ為
スコトヲ得ヌ又惡ヲ為スコトヲ欲スルモノニアラス君主ノ違法ノ行為ハ君主自ラ違法ノ行
為ヲ行フコトヲ欲シタルニアラスシテ國務大臣ノ輔弼ガ宜キヲ得サルノ結果ナリ夫故
國務大臣ハ其行為ニ對シテ其責任ニ任セサルヘカラスト云フニナリ此説ハ徹頭徹尾不條
理ノ推測ニ基キ君主ヲ以テ全ク獨立ノ意思ナキモノト看做スモノニシテ君主ノ地位ト
相容レサルモノアルト云フ也モナシ
オニ誤ルハコンスタンツトノ主張シタル學說ニシテ君主ハ惡ヲナス能ハストノ原則ニ基キ
事實上惡ヲナスコトヲ得サルノ地位ニ君主ヲ置クントセリ此説ハ三權分立主義ニ基ク
モ行政權ヲ君主ニ屬セシムルハ君主ハ事實上惡ヲナスコトヲ得ル故君主ヲ以テ惡ヲ
ナサレサントスルハ勢ヒ之ヲシテ國家政府ノ外ニ立シシノハカラス夫故コンスタンツト

行政権ヲ舉テ之ヲ國務大臣ニ屬セシメタリ而シテ元首ハ三権ノ分配ニヨリ全
ク其権カヲ失フ様ニナレ故ニコンスタントハ三権ノ外ニ別ニ節制權、中立權又ハ王
權ナレモテ以テ元首ニ屬スヘキモノトセリ所謂節制權ノ主ハ作用大臣ヲ免任シ
議會ヲ解散スルニアリ君主ハ國ヲ統治ス下供政務ヲ行ハス政務ヲ行フモノハ國務大臣
ナリ故ニ國務大臣ク政務ニ付キ責任任スヘキハ当然ノ道理ナリ此説ハ君主ヲシテ虛
位ヲ擁セシムモノニシテ立憲君主國ノ君主ノ地位ト相容セサルモノナレハ多言ヲ要ス
レテ明ナリ假令然ラストスルモ此説ハ未タ全ク大臣責任ノ原理ヲ説明スルニ足ラス此説
ヨリハ君主ハ高ホキ大臣ヲ任免シ議會ヲ解散スルノ權ヲ有ス而シテ君主ク此
權ヲ行フニ當リ憲法其他ノ法律ニ違反スルヲナシト保証スルヲ得ス夫故君主ハ未
タ全ク事實上憲ヲナスヲ得ル地位ニアルモノトナラフヲ得ス
又四説ハ中三説ノ如クニ行政權ヲ以テ國務大臣ニ專ラ司ルモノトスルニアラサルモ大臣ノ
副署シタル行為ハ元首ノ行為タルト同時ニ大臣ノ行為タルト解ス此説ハ大要ヲハ
舉シテハ國務大臣ク責任ヲ負フハ國務大臣ニ專行シタルコトナルヲ專セス國務大臣モ之ヲ共
ニ行フタリトノ事實ヲ以テ足レリトス抑モ立憲君主國ノ國務大臣ハ單純ニ元

首ノ輔弼ニアラスレテ憲法上元首ノ一切ノ行為ニ參與スルノ權ヲ有ス元首ノ命令ナルモ
法規ニ反シ又ハ國家ノ利益ヲ害スルト認めん片ハ全意ヲ拒ムDヲ有ス若シ國務大臣
ク如此命令ニ全意シタルナラハ國務大臣モ共ニ法規ヲ犯シ又國家ノ利益ヲ害スル行為
ヲナシタルモノナリ之ヲ責任ヲ負ハサルハカラサルハ元ヨリ當然ノ事理ナリ此説ハ現今最モ
之ヲ學者間ニ行ハル説ナリ
(バリヤ) 憲法ニ七条ニ条者長官ハ元首ノ命令ヲ違反シ又ハ國家ノ利益ヲ害ス
ハト認めん片ハ之ヲ拒ムノ義務アリト各者長官ハ君主ト意見ヲ異ニシタル片ハ
何時ニモ辭職スルヲ得トセリ
此説ヨリハ國務大臣ハ議會ト異シテ元首ノ行為ヲ極贊スルモノニシテ國務大臣ノ副署
ハ國事ニ干スル詔勅ノ効カヲ有スル条件タルナリ是等ノ詔勅ハ元首ノ独リ發スル命
令ニアラスレテ君主ト大臣ト共ニ發スル命令ト云ハサルハカラス之レ現ニ或學者ノ主張スル所
ナリ此事ハ君主ク統治權ヲ總攬シ又少クハ專ラ行政權ヲ行フトノ原則ニ反スルモノト
云ハサルハカラス大臣責任ノ原理ハ前ニ述ベタル一般官吏ノ責任ト國務大臣ノ責任ト比較
ヨリ之ヲ明ニスルヲ得

國務大臣モ官吏ナリ元首ニ隸屬スルモ故國務大臣モ原則上元首ノ命令ニ従ハサル
ヘケラスト供元首ノ命令カ憲法ニ其他ノ法律ニ違反スルハ之ハ実ニ國法上元首ノ
命令ニテラス此場合ニ於テ元首ノ命令ヲ奉セサルハ却テ真正ノ命令ニ所ノ憲法其
他ノ法律ヲ奉スル所為ナリ一般官吏モ本末上官ノ違反命令ニ服従スルDナリ唯
下級ノ官吏ハ上官ノ命令ニ對シ實面上審査ヲ為スノ權ナク上官ノ命令ヲ違反ナ
リト認ムルヲ得サルナリ故ニ特別明文ヨリ上官ノ命令ノ法律ニ違反スルヤ否ヲ審査ス
ルDヲ與ヘタルハ下級ノ官吏ハ其違反法ト認ムル上官ノ命令ヲ執行スルヲ要セス上
官ノ命令ヲ執行スル場合モ下級官吏シテ其責ニ任セシムトノ規定アレハ法ハ下
官ニ與ル上官ノ命令ヲ審査スルノ權ヲ以テセタルヲ認ムルハ前ニ述ヘタル如シ憲法
カ國務大臣ハ元首ノ行為ニ付テモ責ニ任セラルル規定モハ即チ國務大臣ニ與フルニ元首
ノ命令ノ適法ナルヤ否ヲ審査スルノ權ヲ與フルヲ包含スルモノト認メサルヘケラス此
點ニ付テハ國務大臣ノ地位ハ司法裁判所ノ地位ト相似テ居ルト云フヲ得國務大
臣ハ一方ニ於テハ元首ノ命令ノ適法ナルヤ否ヲ審査スルノ權ヲ有シ後テ其違反法ト
認ムルハ之ヲ執行セサルDヲ有スル以上一方ニ於テ違反法ノ命令ニ副署シ之ヲ執行

シタルハ自ら其責ニ任セサルヘケラサルハ誠ニ明白ナリ要スルニ大臣ノ審査權ト大臣ノ
責任トハ互ニ相關連セル原則ニモテ互ニ他ノ原則ノ存在スル理由ヲ説明スルモノナリ及之憲
法其他ノ法律ニ及セテ元首ノ命令ニハ國務大臣ハ服従ノ義務アリ故ニ國務大臣カ適
法ノ命令ニ副署シ之ヲ執行シタルハ例ヒ其命令カ國家ノ利益ヲ害スルコトアリモ國務
大臣ヲシテ法律上ノ責ニ任セシムルヲ得ス唯國務大臣カ故意又ハ疎漏ヨリ不利益
ナル政事ヲ君主ニ勸メタルハ於テ其職務ノ怠慢ニ對シ責ニ任スルハ別段ナリ是迄
述ヘタル如ク君主ノ詔勅ニ對シテモ國務大臣ハ其適法ナルヲ付キ責ニ任セサルヘケラ
ス國務大臣ハ君主ノ詔勅ニ而シテ國務大臣カ君主ノ命令ニ對シ責任ヲ負ヘル事實ハ副署
ニヨリ之ヲ公証ス國務大臣ニテスル君主ノ詔勅ハ少クモ一人ノ國務大臣カ之ニ副署スルコトヲ
要スルハ英ノ如キ例外ヲ除ク外ハ近來ノ立憲國ニ普ク通スル所ノ原則ナリ副署ハ憲
法又ハ他ノ法律ニ特別ノ規定ナキ以上ハ一人ノ國務大臣カ副署セリト云フヲ以テ足レリト
ス又又スルモ主務大臣カ副署セラルコトヲ要セスト併憲法又ハ他ノ法律ヨリ往々主
務大臣ノ副署ヲ要セスハ内閣全員ノ副署ヲ必要トスルニアリ副署ハ二種ノ效果
ヲ有ス

第一、副署ハ詔勅ノ效力ヲ生スル為メニ要ナル形式ナリ

此形式ヲ欠クハ詔勅ハ国法直ノ詔ニシテ得ス

第二、副署ハ國務大臣ノ詔勅ノ成立ニ與リタルコトヲ公ニ証明スルモノナリ
故ニ違法ノ詔勅ニ副署シタル國務大臣ハ他ノ証明ヲ得タス当然其責ニ任セサルカ
ラス乍爾國務大臣ノ責任ハ違法ノ詔勅ノ成立ニ與リタル事實ニヨリ成立スルナリ副
署ハ平常事實ヲ公ニ証スルニ過キス國務大臣ノ責任ハ副署ニヨリ殆メ生スルコトヲ
改ニ國務大臣ハ彼ノ詔勅ニ副署セシ他ニ成立ニ與リタル確証アリハ其責シ免ル
コトヲ得ス又首ノ詔勅ニ副署者其他付トスルノ國務大臣カ副署スルコトヲ要スルハ必
竟スルニ必ス一人ノ公ニ証明セラシタル責カアルコトヲ要ストシテ意味ニ過キス

是迄論じ来リタル所ハ凡テ國務大臣ノ責任ニ于スル主觀的法則ナリ國務大臣ノ客觀
的ノ責任ハ如何ナルモノナリヤ其種族及名称如何ニ付テハ予者ノ説ヲ折区マシ出スル
等ノ予者ニ于テ國務大臣ノ責任ハ道德上政治及法律上ノ責任ノ三ノ種類ヲ概
括スルコトヲ得道德上ノ責任ニ至リテハ君主ト臣ト免ルコトヲ得サルハ國務大臣カ之ヲ
免ルハカラサルハ固ヨリ云フコト俟タスト臣ト免ルハ六トヨリ国法上ノ責任ト称スルモノニア

ラス政治上ノ責任ト云フハ主トシテ國務大臣カ国会ニ對シテ答弁スルノDヲ有ス乍爾議
會質問ハ往々大臣ノ政策ヲ非難スルノ手段トナリハ疑ヲ容レサルモ其主意ハ本末事
實ヲ明カニスルニテ大臣ヲ責ムルニアラス故ニ大臣ハ必スモ自己ノ行為ニ對シテ答弁スルニ
テ他ノ國務大臣ノ行為ニ付又ハ將來ノ政策ニ付キ答弁セサルハカラサルコトナシ加之答弁要
領ヲ得サルモ法律上何等ノ效果シモ生スルコトナシ要之議會ニ對シテ答弁スルDハ国法上
大臣ノ責任ト称スルモノアラス議會ノ上奏權ハ場合ニヨリ國務大臣ノ君主ニ對スルノ
責任ヲ実行^{セシム}ノ手段タルコトハアルモ之ヲ以テ大臣ノ議會ニ對スル責任ト称スルコトヲ得ス所
謂國會制度ノ行ハル國ニ於テハ議會殊ニ下院ノ信任ヲ失ヒタル國務大臣ハ其職ヲ辭ス
ルトテ慣習ハアルモ之ニ種ノ慣習ニシテ又法規ヲ以テ之ヲ自スルコトヲ得ス殊ニ立憲君主國ニ
於テ國務大臣カ議會ノ信任不信任ニヨリ進退スルカ如キハ君主ノ地位ト相容レサルコトハ言フ
俟タス國務大臣ノ責任ハ官吏法上ノ責任刑法上ノ責任民法上ノ責任及憲法上ノ責任
各種ニ別スルカ通例ナリ所謂民法上ノ責任ハ無答責ノ元首モ或ハ之ヲ負フコトアリテ国法
上^ニ於テ責任テラス官吏法上ノ責任及刑法上ノ責任モ普通一般ノ規定ヲ適用ス
ル以上ハ國務大臣ノ責任トシテ特ニ之ヲ論スルハ又要ナシ唯諸外國ニ於テ國務大臣責

任ニテ特別ノ規定ヲ設ケ議會ニ院スハ各院若クハ兩院ニ典クルニ彈劾ノ權ヲ以テシ
上院スハ高等ノ裁判所又ハ特別ノ裁判所ヨリ成立スル所ノ政治裁判所ノ裁判ハ刑事
裁判ノ性質ヲ有スルヤ又憲法裁判ノ性質ヲ有スルモノナリヤ憲法上ノ責任ニテテ字者ノ
争フ所ナリ下院之ハ然ルニ立法ノ問題ニシテ大臣彈劾ノ性質ヨリ論斷ニ得キモノ非ス
故ニ國ニヨリテハ刑事裁判所ノ性質ヲ異ルナリ或ハ憲法裁判ノ性質ヲ異ルナリ或ハ二
種ノ性質ヲ混スルナリ英國ニテハ大臣彈劾ハ全ク刑事ノ性質ヲ有シ上院ノ裁判ヨリ科スル所ノ罰ハ純
然ル刑罰ナリ又之大臣責任ヲ官吏法上ノ責任トシテ看做ス制度ノ模範トナルハ北米ノ合
衆國ナリ此國ニ於テ彈劾ヨリ上院ノ罰スルヲ得ル所ハ免職ト官職ニ就ク資格ヲ失フトナ
リ若シ其行為カ同時ニ刑法上ノ犯罪ニ時ハ之ヲ通常ノ裁判所ニ移スモノトス佛普ノ憲法モ又大臣彈劾
シテ刑事ノ性質ヲ有スト認メテ刑事憲法ノ二性質ヲ混スル制度ハ澳ノ制度ニシテ彈劾ヨリ科
スル所ノ罰ハ通常ノ失職ニ止ルモ若シ其所為カ今時ニ刑法上ノ犯罪ニ係ルハ政治裁判所ニ於テ重刑
スルモノトス 大臣彈劾ノ原因トナル行為ハ憲法ニ法律違反ノ場合限ルモノアリ又ハ國家ノ利益ヲ
害スルモノ及テアリ例之英ハ叛逆トガ收賄トガ外ニ如ク分ク當否及得夫ニ對シテモ其責任ニ任セム合衆國
佛普等ハ凡テ大臣責任中ハ叛逆トガ憲法違反トガ收賄トガ其他ノ犯罪ノ限リ、澳國ハ公ニ取
務執行ニ際シ行ヒシ外ノ法律違反ノ所為ニ對シ大臣ヲシテ責任ニ任セム何レガ正キヤ一時ニ斷定スル
ヲ得ス大臣彈劾ニ對シ裁判ヲナスニキ裁判所ハ或ハ上院ヲ以テ之ニ充ルナリ即チ英米ハ西葡
等ナリ或ハ高等裁判所ヲ以テ之ニ充ルナリ例普白ノ如ク併是等ノ權干ハ共ニ大臣彈劾ニ對シ
裁判ヲ下スニ適當ナル權干ト認ムルヲ得ル理由ナルカ故ニ歐ノ諸國中時々政治裁判所ヲ組
織スルナリ澳ノ其著シキ例ナリ彈劾ノ權ヲ有スルモノハ上院ヲ以テ政治裁判所ニ充テ各國ニテハ
下院ヲ以テス通常ノ裁判所ヲ政治裁判所ニ充テ居ルカ又ハ特別ノ政治裁判所ヲ置ルカ
上下兩院ニテハ或ハ各院ニ典フルニ彈劾ノ權ヲ以テスルナリ普澳具例ナリ或ハ西院全意セリ
ハ大臣ヲ彈劾スルヲ得サルナリ多敷ク獨チ各國具例ナリ一テ國ニテハ彈劾ノ濫用ヲ防ク
為メ三分ニ以上多敷ク議決セシム要ストセリ又ハ一定ノ期間ヲ隔テ二回ノ議決ヲ要ス
トセリ下院ノ此彈劾ノ權ヲ有セシムルハ如シ一ニ國ニ於テハ國王又ハ政府ニ彈劾
ノ權ヲ與フルナリ(王、荷蘭、西、ウルテンベルヒ)大臣彈劾始マリテ後テ議會ヲ停會又ハ解散ス
ルアリ之カ為メ中止スルナリ故ニ國王ノ濫用ヲ防ク為メ大臣彈劾ハ其後繼續スルトセ
ルナリ澳ノ如ク其權ニ乾ハ英ナリ

彈劾ヲ受クルモノハ必スシモ國務大臣ニ限ラス英國ニ於テハ彈劾ノ制度ハ憲法ノ保障ノ為ニ
兩入

特別ニ設ケラレル制度ト認メラレズ元ノ官吏ノ責任ヲ正ス為メニ存在スル制度ト
認メラル合衆国間ニ於テモ彈劾ハ大統領副統領ヲ始メトシ一般ノ官吏ニ對シテ
之ヲ起スヲ得其他赦多ノ國ニ於テモ今下京則テ執リシハ於テハ大統領ハ
叛逆ノ罪ニ限リ彈劾スルヲ得國務大臣ハ其職務ヲ執行スルニ際シ行フタル
犯罪ニ對シ彈劾スルヲ得或ル國ニ於テ議會ノ議員ニ對シ彈劾ヲ
起スコク得下併多救ノ國ニ於テ彈劾ハ國務大臣又ハ各省長官ニ限ルモノナリ
政治裁判所ハ判決ヨリ科スベキ罰ノ種類ハ彈劾ヲ以テ刑事ノ性質ヲ有スル
ヲ憲戒ノ性質ヲ有スルト認ケルコト二種ノ性質ヲ混スト認ムルヨリ元ナリ政治
裁判所ノ宣言ニシテ刑罰ニ付シ元首ノ恩赦ヲ制限ラ度ルコト例トス若シ元
首カ其恩赦權ヲ利用シ彈劾ノ進行若クハ效果ヲ妨クルコト得ルハ彈劾ノ
制度ハ結局無要ニ級スルコト故ニ諸國ノ國法カ或ハ全ク彈劾ヨリ科スル刑罰
ヲ赦免スルヲ許サルナリ又ハ議院ノ登議又ハ合意ナル外赦免スルコト得スル規
定ヲ設ケタルアリ或ハ元首ハ大臣ノ討免スルコト得ルモ再々之ヲ採用スルコト得
ズト定メタリ

第五章

議會

第一節

議會ノ性質

近代國ノ政治上ノ理由ヨリ人民ヲテ政務ニ參與セシムルモノナル人民ヲテ政務ニ參與
セシムル方法ニ三種アリ

- (一) 一定ノ資格アル人民ヲ直接ニ之ニ參與セシムルモノ
 - (二) 人民ノ中ヨリ撰出セル代議士ヲ以テ組織セル議會ヲ以テ之ニ參與セシムルモノ
- 第一方法ハ今モ瑞西各邦多數並ニ其聯邦ニ行ハルモノナリ自モ近頃議會ノ解散
ハ代用トシテ人民ノ總表決ニ付スル權ヲ与ヘントスル議アリシモ遂ニ成立スラズ表決ニモ
三種アリ強制的總表決及隨意的總表決ナリ如此今日ニ於テモ尚人民ヲ直接
接ニ國家政務ニ參與セシムル國ナキニ非サレバ之レノ例外タルニ過キク多數國ニ於テ
ハ人民撰出ニ依リ組織スル議會ノ設ケアラサルナレ如此議會ハ人民ノ總會ニ對シテ
タマフ代議會ト稱ス其議會ハ往々代議士ト稱スルコトナリ此稱号ハ昔々議會ニ于
スル思想ト相伴ヒ近來議會ヲ性質ヲ誤解セシタルコトナキニ非ス近世ノ議會ハ
僧侶貴族侍士ナリ都テト如キハ特權ヲ有ス種類ヲ以テ之ヲ組織シ自ラ會議ニ

列シ又ハ代人ヲケル全議列セシ又ハ代人ヲ出シテ之ニ列セシトテ而シテ各種族ハ皆別
種向体ヲシ其會議ニ列席スル各団体ノ利益ヲ代表スルヲ目的トシテ其代人
又ハ代表者ヲメ合議ニ列セシルハ此等ノ議員ハ其委任者ノ委任ニヨリ束縛
セラザル可クアリセテ固言スル當時議會ハ國家ノ機干ノ為ニ設ケラレシムニアラス
各種族ノ利益為ニ存在スル機干ノ近代ノ議會ハ又ハ國家中ノ各団体ヲ代表スル
クニ存在スルモノナリ國家ノ利益為ニ存在スル也議會ハ全國民ヲ代表スルニアリテ
自己信スル所ニ從ヒ合議投票スルモノナリ投票人ノ本意託言ニ束縛セラザルヲ近
憲法ノ普ク認ル所ナリ故ニ今日ノ議會ハ國民ノ各種族ヲ代表スルモノ非ルハ何
人モ疑フモノナキモ全國民ヲ代表スル可キモノナリハ若シ往々主張スル所ナリ
至併國民ノ數ハ沢山ナリ其意思ハ互ニ衝突スルモノナリ議會ハ此等ノ多數ノ各個人
ヲ代表シテ互ニ衝突スル意思ヲ代表スルヲ得ルハ之ヲ明ナリ若シ又議會ハ國民ノ
全體ヲ一体トシテ代表スルモノト看做スルハ機干ノ備ヘ人格ヲ有スル國民ハ乃チ國
外ニ國民ハ独立ノ人格ヲ有シ獨立ノ意思ヲ有スルモノナラハ故ニ議會ハ法律上ノ意
味ニ於テ代表スルヲ得ル國法上ヨリ論スル議會ハ國家ノ機干ノ議會ハ其職務力

務ヲ行ハル國家ノ利益ノ為ニシテ國家ニ對シテ人民ノ利益ヲ保護スル為メニアラス議
會ハ選舉ニヨリ之ヲ組織シテモ此權限ハ人民ヨリ委任セラレタルニアラスシテ憲法ニヨ
リ直接ニ有スル權限ナリ選舉人カ議員ヲ選舉スルハ自己ノ代人ヲ選舉スルニアラスシテ
國家ノ一機干ヲ組織スル為メニ公職務ヲ行フナリ
此機關ハ一面ノ行為ニヨリ直ニ了スルモノニシテ一旦機干了リタルハ選舉人ト議
員トノ間ニ少しモ法律上ノ干係存セズ選舉人ハ請托委任ニヨリ議員ヲ束縛スル
コト得ズ議員ハ選舉人ニ對シテ責任ヲ任スルコトナシ選舉終リタル後ニ選舉權消滅シ
ル場合ニ於テモ此事實ニヨリ議員ノ資格カ當然消滅ニ及セサルハ議員ノ各選
舉区シテ代表スルニテ全國民ヲ代表スル結果ニアラスニテ各選舉区モ亦全國民モ代表
セサルノ結果ナリ議會カ國民ヲ代表スルハ或ハ國民ノ民情ヲ代表ストモ或ハ國民ノ情
態ヲ實際ニ係比例シテ模写スルモノナリト云フ者アルモ是ハ皆代表ノ政治上ノ意
味ヲ説明シタルモノニシテ其法律上ノ意味ヲ説明シタルニアラス
國民ノ代表ハ是迄述タル如ク國法上ノ意味ヲ有スルモノニアラス諸國ノ憲法カ議會カ全國民
ヲ代表スルト云フヲ明言スルハ歷史上ノ沿革ヨリ説明スルヲ得近來ノ議會ハ昔時ノ議

会、如ク特権ヲ有ス各種族ヲ代表スルニアラス又ク選挙人若クハ選挙区ヲ代表スルモノニ
アラス議會全国民ヲ代表スルハ此趣意ヲ明シタルニ過キス之等規定ハ国法上之消極ノ意味ヲ有ス

第二章 議會ノ組織

議會ハ一院ヨリ成テモ二院ヲ以テ組織スルアリ一院制度ヲ有スル国ハ欧州ニテハ
瑞ノ各州及独ノ小国ヲ除ク外ハ希、室尔比亞ノ二国ニ過キスニ院制度ノ支配
ヲ支ルモノハ一億七千三百万ニテ一院制度ノ支配ヲ受ルモノハ九百万ノ割合ナリ
諸大國中ニテ一院制度ヲ採ルモノハ独乙帝国アルノミ、乍併、独乙帝国ハ
元ト聯邦国家ニテ帝国議會ノ外ニ各政府ノ代表者ヲ以テ組織ス
ル聯邦ノ參議員ナルモノアル故ニ更ニ其ニ合議体ヲ設クルノ不便ヲ避クル
シメ一院制度ヲ採ルタルニテ他ノ諸国ト事情ヲ異セリ如斯ニ諸国カ大概ニ
院制度ヲ採ルハ主トシテ右ニ述ベタル考ニ基キタルモノニシテ各院ノ組織モ又此ノ
思想ニ干係ヲスルヲ多シ其種々考ハ片眼ヲ以テ見ルハ兩眼ニテ物ヲ見ル
如ク明ナラサル如ク兩院ニ於テ合一事件ヲ色々ノ点ヨリ討究スルハ其美決ノ親
密ニテ連算ナキヲ期スルヲ得又立法ハ一時ノ必要ニ充スルニテス將來ニ及リ人民

ノ干係ヲ定ムルニシテ故ニ議決ノ迅速ナルヨリハ寧ロ重ナリト尚フナリ然レニ一院制度
ニ於テハ多數ノ勢ニ乗リ輕率ノ議決ヲナシ時ノ執情ニ驅ラレテ國家ノ將來ヲ誤ルノ
恐ナキニアラス兩院ノ制度ハ乃チ二院カメカ相即制シテ多數ノ重手横ヲ防キ多數者
ノ自由權利ヲ保護スルノ保障ナリ三ニ立憲君主國ニ於テハ一院ノ重手横ハ元首
ト議會ト衝突ヲ生シ易シ及ニ二院ヲ置クハ兩院互ニ相抑制スル故ニ君主カ直接
ニ議會ト衝突スル場合ナリ、帝ノ局外ニテ一院ノ調和ヲ計ル如キ地位ニ立ツト得ル
故ニ二院制度ハ君位ノ安全ト尊嚴ヲ保テ得テ國家ノ平和ヲ維持スルニ於テ尤クカ利
益アリ四ニ何レノ國ニテモ社會ノ少シク進歩セザルニテハ財産學識門地等ヨリ
リ社會ノ上層ヲ占ムルノ元素ナキニアラス其原素ハ社會ノ且取テ重要ナルニ係ラス數ニ於テ
下級ノ人民ニ及ガレカ故ニ若シ一院ニ於テ多數ノ人民ト共ニ之ヲ代表セシメントスルハ
數ノ為ニ壓セラレ満足ハ代表得ル少シ代表ノ主者ハ國民ノ諸原素ヲ實際ニ干係
ニ比例シ議會ニ反映セシムルカ故ニ社會ノ上層ヲ長ク原素ノ多ク別ニ院ヲ設ケカト
代議ノ本旨ハ未ダ全ク達シテナリト云フヲ得ス

此院ヲ以テ議會ヲ組織スル則チ於テハ兩院ノ議決カ相一致セザルハ議會ノ議決生シ来ラス

而二院之開會用合停會ハ凡テ臨時ニ行フ例トス乍俄兩院ハ各獨立ノ會議
体ニテ獨立ニテ議決ヲ委キテ兩院合同スルハ多ク、議式ヲ行フ多クニ過ス例ハ片
會又ハ閉會式ヲ行フ中又ハ君主即位ノ際ニ宣誓ヲ行フ中等ナリ乍俄同例
外ニテ國家ノ政務ヲ議決スルヲキミテ、諸國ニ於テ攝政ノ要ヲ議決シ又攝政
ヲ撰挙スルニ西院合同ニ俾テハ憲法變更ノ議決ヲナシ又大統領ヲ撰挙
スルタメ新設國民會ヲ用多ク其例外ナリ兩院合同ニ會議ヲ開カレルハ其
議決ハ一致ヲ求ルニ多ク兩院ノ投票ヲ通算スル例ナリ其例外ナリ其外
外ハ兩院ガ獨立ニ議決ヲナス故ニ各院共ニ可決シタルハ其會ノ全音ニ得テ
リト云フヲ得テ又之ヲ議決ニ同意ハ一院カ否決シタルトキ他ノ議院ノ議決ヲ待タス
テ存在ス

一院ヲ以テ議會ヲ組織セル國ニ於テハ議會ノ議決ヲナシ可キ權ニ付テハ兩院ハ對等力ヲ有
スル例トス且其例外ニテ實ニ議決スル場合ナリ何レノ國ニ於テモ予實ハ先ツ下院ニ提
出ルヲ要ス數多國ニ於テ下院カ予實ヲ議決シタルハ上院カ其全體ヲ可決スルカ
否決スルカニ途ニテ撰挙ハ可カラ英普其例ナリ

第三節

上院ノ組織

上院ハ下院ト合同シテ特ニ撰挙ニヨリ又ハ主トシテ撰挙ニヨリ組織スルアリ又ハ主トシテ出生
ニヨリ任命ニヨリ其外撰挙ニヨリ組織スルアリ(白皇太子ハ滿十八才ヲ上院ヲ列席ニ在
ル可成得得的ノ原素ヲ代表セルト主者ニ基テ下院ト組織ヲ異セリ聯合國家
ニ於テハ上院ノ組織ハ各功ヲ代表セルト主者ニ基テ有スルナリ瑞西ノ上院ハ各功ヨリレテ
二名ヨリ撰挙スル議員ヲ以テ組織ス其撰挙ノ資格方法等ニ至リテハ各功ノ定ル
所ニヨリナリ或ハ人民ノ公撰ニヨリレテ或ハ各功ノ議會ニ於テ之ヲ撰挙スルアリ合衆國ノ上
院ハ各功ヨリ二名ヲ撰出スル議員ヲ以テ組織シ各功ヨリ撰出スル議員ハ各功ノ議會ニ於テ
撰挙スルモノトテ撰挙ニヨリ上院ヲ組織ス國ニ於テ上院ト下院ト組織ヲ異スルニ重ナル古來
ノ如シ

- (一) 上院議員ハ下院議員ヨリモ其任期ヲ長クセリ且其職權下與ナシ
- (二) 上院議員ニ撰挙セルハ西國タル年令ハ下院議員ヨリモ多ク例トス且米伯典等